

履 修 ガ イ ド

平 成 28 年 度

(2 0 1 6)

東京海洋大学 海洋科学部

Tokyo University of Marine Science and Technology
(School of Marine Science)

東京海洋大学の理念・目標

【大学の理念】

人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行う。

【大学の人材養成と目標】

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、国内唯一の海洋系大学である東京海洋大学が、「海を知り、守り、利用する」ための教育研究の中心拠点となって、その使命を果たす必要がある。このような基本的観点に立ち、本学は、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行い、次の能力・素養を有する人材を養成する。

- 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力
- 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力
- 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力
- 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力
- 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養

【大学像】

海洋分野において国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する世界最高水準の卓越した大学

海洋大スタンダード

【はじめに】

東京海洋大学は、海洋科学部、海洋工学部、大学院海洋科学技術研究科からなる海洋に関する総合的教育研究を行う国内唯一の海洋系総合大学です。近年、急速に進展する世界のグローバル化・複雑化・多様化を受け、大学の卒業生に期待され、かつ備えるべき資質の明確化に対する要求が高まっています。そこで、東京海洋大学は、その育成する人材像、および本学学生のすべてに求められる素養と能力の水準を「東京海洋大学スタンダード（海洋大スタンダード）」として策定します。このスタンダードは、東京海洋大学が保証する卒業生、修了生として相応しい能力・素養を具体的に示すものです。

【東京海洋大学スタンダード】

1. 東京海洋大学が育成する人材像

東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問および科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行い、主に海洋・海事・水産の各分野において、国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する世界最高水準の卓越した大学であることを目指します。その実現のために、一世紀以上の歴史をもつ東京商船大学と東京水産大学は統合し、2学部（7学科）・大学院研究科（博士前期課程5専攻・博士後期課程2専攻）を擁する海洋系総合大学に生まれ変わりました。その後、教育課程のより一層の充実を目指し、博士前期課程に2専攻を新設、その他社会のニーズに応える特色ある教育プログラムを開設するなど、様々な観点から不断の教育改善に取り組んできました。そして、平成24年度からは、大学院重点化により、学部および大学院における教育研究の組織体制を整備し、機能強化を図りました。

近年、グローバル化の進展に伴い、地球的規模の連携が不可欠な時代になっています。このようなダイナミックに変動するグローバル環境において、我が国が今後も海洋立国と技術立国を標榜し、世界のリーダーとして重要な役割を果たすことは、国際社会の安定、ならびに世界経済と産業の持続的発展にとって極めて重要なことです。本学は、このようなグローバルな視点に立ち、海洋を巡る共生と互助の涵養を図り、諸外国および産業界の海洋に関する様々な期待に応え、それを創造的生産力に結びつけることができる人を育成します。

2. 東京海洋大学生に求められる素養と能力

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、東京海洋大学が、「海を知り、守り、利用する」ための教育研究の中心拠点となって、その使命を果たす必要があります。この基本的観点に立ち、本学は、研究者を含む高度専門職業人養成を核として海洋に関する総合的教育研究を行い、以下に示す能力・素養を有する人を養成します。

- 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力
- 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力
- 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力

四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力

五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養

主に海洋・海事・水産に係わるこれらの能力・素養を備えて本学を卒業した者は、社会的常識を備え、世界的視野に立ち、いかなる場合にも果敢に挑戦し、斯界のリーダーとなることができる者です。すなわち、予測困難な問題に直面しても、様々なアプローチから創造的な解決策を導いていく能力（創造的問題解決力）を備えた者が東京海洋大学の卒業生です。

この「創造的問題解決力」は、次の三項目にまとめることができます。大学院を修了した者はさらに広い視点をもってこれらの項目を実践することができます。

(A) 社会で通用する幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を活用して、自身が置かれている状況や立場、さらには自身の行動の影響等を的確に理解した上で、諸課題を総合的に理解できる。

(B) 専門的知識および技術を応用して、的確な状況判断のもとに主体的かつ実践的に行動することができる。また、専門分野における諸問題を多面的に探求・分析することができる。

(C) 予測困難な問題を含む現代の諸問題について、総合的な見地からの的確な状況判断のもとに主体的に行動して解決することができる。

以上

【東京海洋大学カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）】

海洋環境学科では、海洋科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を習得させるために、総合科目、基礎教育科目、専門科目等の授業および実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎教育科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏における物理学、化学、生物学的事象の原理とその相互作用について基礎的な教育を幅広く行なうとともに、海洋における諸現象を観測・解析・予測する技術や、その展開として、海洋利用への技術、工学的な応用、展開について教育を行います。

海洋における事象を多角的に理解することにより、海洋環境、生態系の理解、海洋生産・保全について、専門的な実験・実習を含めた組織的な教育を行います。

海洋生物資源学科では、海洋科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を習得させるために、総合科目、基礎教育科目、専門科目等の授業および実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎教育科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏に棲息する生物を対象として、生態系のなかでの多様性を保全しつつ、持続的に利用するための「生命科学」と「資源生物学」に関する深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

食品生産科学科では、海洋科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を習得させるために、総合科目、基礎教育科目、専門科目等の授業および実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎教育科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では水圏生物を中心とした食資源の栄養、嗜好、健康に役立つ機能を余すところなく引き出しつつ、安全な食品を生産するための化学的、微生物学的、物理学および工学的な深い専門的知識・技術を修得します。さらに、海洋科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力を修得できることを目標に講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等を体系的に編成し、組織的な教育を行います。

海洋政策文化学科では、海洋科学に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させるとともに、海洋科学における課題設定能力と解決能力、及び高度専門職業人としての基礎を習得させるために、総合科目、基礎教育科目、専門科目等の授業および実験・実習等を体系的に編成し、組織的教育を行います。

総合科目及び基礎教育科目では、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養うこと、大局化した諸課題を総合的に理解・判断できる能力が修得できることを目標として講義・演習等を編成し、組織的に教育を行います。

また、専門科目では海洋をめぐる社会科学的・人文科学的諸事象に関する基礎及び専門的知識を総合的に修得します。具体的には、「海・人・社会」の望ましいあり方を探究することを目的とした課題設定能力と解決能力を育成します。そのために、経済、法律、国際関係、社会、歴史、思想、文化、言語、文学、教育、海洋スポーツ等に関する幅広い授業科目を配し、組織的な教育を行います。

【東京海洋大学ディプロマ・ポリシー（卒業認定、学位授与に関する基本的な方針）】

海洋環境学科では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生は、卒業時に学士（海洋科学）の学位が授与されます。

1. 総合科目、基礎教育科目の履修を通して、幅広い教養・理論的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、大局化した諸課題を総合的に理解できる能力
2. 海洋における物理学、化学、生物学的事象を理解するための専門科目群の体系的な履修を通して、海洋および環境に関する知識および技能、水圏の多様な研究フィールドにおける実務に対応できる、知識、技術を養うとともに、海洋における諸現象を理解し、「海洋環境科学」「海洋環境保全学」「海洋環境工学」における問題を発見、分析、解決できる能力
3. 講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等の作成・発表を通して得た知識・素養・能力などを総合し、現代的・大局化した諸問題について主体的かつ実践的に探求・解決・行動できる能力

海洋生物資源学科では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生は、卒業時に学士（海洋科学）の学位が授与されます。

1. 総合科目、基礎教育科目の履修を通して、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、大局化した諸課題を総合的に理解できる能力
2. 海洋生物の生命科学と生物資源学に関する専門科目に関する体系的な履修を通して、海洋生物資源学に関する深い専門的知識・技術を養うとともに、海洋生物資源に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力
3. 講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等の作成・発表を通して得た知識・素養・能力等を総合し、現代的・大局化した諸課題について主体的かつ実践的に探求・解決・行動できる能力

食品生産科学科では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生は、卒業時に学士（海洋科学）の学位が授与されます。

1. 総合科目、基礎教育科目の履修を通して、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、大局化した諸課題を総合的に理解できる能力
2. 健全で信頼性の高い食品を持続的に供給するための諸技術や、食品の安全性の確保・向上と新しい機能をもつ食品の開発と評価に関する専門科目の体系的な履修を通して、食品生産科学に関する深い専門的知識・技術を養うとともに、海洋科学に関する諸課題を多面的に探求・分析・解決できる能力
3. 講義・演習・実験・実習等、及び卒業論文等の作成・発表を通して得た知識・素養・能力等を総合し、現代的・大局化した諸課題について主体的かつ実践的に探求・解決・行動できる能力

海洋政策文化学科では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生は、卒業時に学士（海洋科学）の学位が授与されます。

1. 総合科目、基礎教育科目および専門科目の履修を通して、幅広い教養・論理的思考能力・文化的素養・国際的視野・コミュニケーション能力を養い、複雑化する現代的諸問題を総合的に理解し、考察する能力
2. 海洋をめぐる社会科学的・人文科学的諸事象に関連する専門科目の体系的な履修を通して、「海・人・社会」に関する深い専門的知見を養うとともに、現代的諸問題を多面的に探究・分析・解決する能力
3. 講義・演習・実験・実習・調査および卒業論文等の作成・発表を通して得た知識・技術を総合し、現代的諸問題について主体的かつ実践的に探究・解決する能力

目 次

海洋科学部の概要

〔1〕 学科・課程及び講座の概要	1
〔2〕 水圏科学フィールド教育研究センター	4
〔3〕 練習船	5

学 修 の 手 引 き

I. 履修関係

〔1〕 授業科目の区分	6
〔2〕 授業	6
〔3〕 履修方法及び履修手続き	7
〔4〕 WEB履修登録	9
〔5〕 試験及び成績評価	10
〔6〕 単位の授与	11
〔7〕 実習・実験	11
〔8〕 卒業論文及びセミナーの履修	11
〔9〕 海洋科学部のGPA制度について	12
〔10〕 卒業及び進級	
1. 各学科学生（水産教員養成課程以外の学生）	13
2. 水産教員養成課程	22
〔11〕 編入学生の履修	30
〔12〕 再入学	31
〔13〕 外国人留学生の授業科目履修上の特例	31
〔14〕 学部学生の大学院授業科目の先行履修	32

II. 本学以外の学修

〔1〕 放送大学の授業科目履修	33
〔2〕 大学以外の教育施設等における学修	35
〔3〕 他大学の公開授業科目の履修	35
〔4〕 既修得単位の認定	36

III. 資格取得に関する学修

〔1〕 法定資格	
1. 教育職員免許	37
2. 学芸員	42
3. 技術士補	44
4. 海技士の免許	51
5. 第一級海上特殊無線技士	54
6. 船舶衛生管理者	54
7. 食品衛生監視員および食品衛生管理者	55
〔2〕 学内資格	
1. 食品流通の安全管理システム専門技術者養成コース	56
2. 水圏環境教育推進リーダー認定コース	57
3. 海洋学コース	58
4. 海洋生物資源管理技術者認定プログラム	59
5. 水産科学プログラム	60

IV. 教務関係の諸手続等

〔1〕 授業料について	61
〔2〕 教務関係事項の通知及び連絡	61
〔3〕 証明書	61
〔4〕 欠 席	61
〔5〕 休 学	62
〔6〕 復 学	62
〔7〕 退 学	62
〔8〕 転学科	63
〔9〕 転学部	63
〔10〕 台風接近等による授業等の取扱いについて	64
〔11〕 国立科学博物館の利用	65
〔12〕 国立美術館の利用	65
〔13〕 国立劇場の利用	65

諸 規 則

〔1〕 東京海洋大学海洋科学部履修規則	66
---------------------------	----

海洋科学部の概要

- 〔1〕 学科・課程及び講座の概要
- 〔2〕 水圏科学フィールド教育研究センター
- 〔3〕 練習船

〔1〕 学科・課程及び講座の概要

1. 海洋科学部の教育研究上の目的

海洋科学部においては、海洋、湖沼、河川に生息する多種多様な生物と人間との共存、地球環境、食料等の問題に関心を持ち、これらに係る諸課題を追求し、解決するための行動力を持つ人材としての専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に関わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類・社会の発展に貢献することが教育研究上の目的です。

2. 学科・課程及び講座の概要

海洋科学部には4学科、1課程があり、各学科、課程及び講座の概要は次のとおりです。

○ 海洋環境学科 (Undergraduate Course of Ocean Sciences)

海洋環境学科の教育研究上の目的

海洋における諸問題、とくに海洋環境の保全・修復に関する海洋環境学を基礎的・応用的・総合的に教育研究する。

海洋は資源生産の場であるとともに、地球環境を維持するために大きな役割を担っています。海洋環境学科では、海洋における諸現象を観測・解析・予測する海洋学を基礎として、これを海洋環境保全・修復の科学・技術へと発展させる海洋環境学を教育・研究します。本学科は、海洋生物学、水圏環境化学、環境システム科学、環境テクノロジー学の4つの専門分野で構成されています。海洋生物の生活史・生態・環境との関わり、水産資源の持続的有効利用、環境と人間に調和した海洋生産システム、物質循環、人類起源の汚染物質の挙動、沿岸・沖合相互作用、大気・海洋の相互作用、気候変動等の授業科目が組み込まれています。生物系、化学系、物理・解析系、技術系を総合した広い視野で、現象をとらえること・考えることのできる人材を養成します。

・海洋生物学講座 (Marine Biology)

海洋環境学の基礎となる植物プランクトンから鯨類にいたる広範な水圏生物の形態や分類、生活史、生態などの教育と研究を行います。また、個々の生物だけではなく、生態系を構成する生物を“群集”という視点からとらえた教育と研究も行います。実際の生物に触れる機会が多く、調査水域は、河川や湖沼から東京湾を中心とした日本各地の沿岸、さらには南北太平洋や南極にまで広がっています。

・水圏環境化学講座 (Marine Environmental Chemistry)

水圏環境の実態を化学的立場から解明し、限られた海洋資源を有効かつ持続的に利用するための基礎および応用的学問領域の教育と研究を行います。そのために環境における物質循環や汚染状況の把握、環境に優しい素材や微生物を用いた修復技術の開発、生物の持つ優れた特性の化学的解明とその応用、ならびに未利用資源の有効利用を通じて、人間以外の生物とも共存できる環境の創造に取り組みます。

・環境システム科学講座 (Physics and Environmental Modeling)

地球規模からミクロな規模までの様々な時空間スケールで発生する海洋物理現象を正しく把握し、物理・生物環境変動の機構を解明するための教育と研究を行います。海洋循環モデルや生態系モデルを構築して、現象の解明や将来予測に役立たせることも考えます。また、先端技術を応用した海洋計測システム技術と、それらから得られる多様な情報の処理手法など、海洋環境動態の解明と予測に不可欠な事項に関する教育と研究を行います。

・環境テクノロジー学講座 (Ocean Environmental Technology)

海洋とその資源を、環境を保全しつつ持続的に有効利用するための、先端的科学技術について教育と研究を行います。特に、海洋生態系の保全・利用、海洋における生産活動の安全性・生産性の向上のための工学技術に焦点を当てます。具体的には、沿岸域生態系の保全・再生と利用、海洋生物の資源量・生態・環境の計測、環境保全型海洋機械やエネルギーシステムの創成、生産性・経済性向上を目的とした船の運航方法や海洋におけるテレメトリー情報技術の開発・応用、海上労働や船の安全性に関わる諸問題の解明などの教育と研究を行います。

○海洋生物資源学科 (Undergraduate Course of Marine Biosciences)

海洋生物資源学科の教育研究上の目的

海洋生物資源の保全と持続的利用に関する適正な生産・管理システムを基礎的・応用的・総合的に教育研究する。

海洋生物資源を将来にわたって持続的に利用していくためには、生物の再生産のしくみを理解し、その保全と活用を図っていく必要があります。このため、本学科では、環境に配慮した生物生産、防疫対策、資源管理、資源修復、漁業生産に関する分野、あるいはこれらをベースとした教育・研究分野で活躍できる人材の養成を目指しています。本学科は、「生物資源学」、「生物生産学」、「海洋生物工学」の3つの講座で構成されています。各講座とも、実体験を通して授業内容の理解を深めることができるように、多彩な実験・実習カリキュラムが用意されています。4年次には、研究室を自ら選び、最先端の研究に触れることができ、学部卒業後、1年間の水産専攻科に進学すると、海技免許を取得できます。

なお、1年次から博士前期課程を通した6年間のカリキュラムで教育する「海洋生物資源管理技術者認定コース」があり、海洋生物の資源管理を科学的に調査・研究できる知識・能力を有する管理技術者を養成しています。

・生物資源学講座 (Fisheries Biology)

海洋生物資源の繁殖個体群の動体や集団の遺伝機構、生息環境と成長、生残、再生産、回遊、漁業生産など、資源変動と生態に係わる諸問題について教育・研究しています。魚介類のフィールド観察を行う動物生態学実習、個体群の構造や分布などを調査する集団生物学実習、資源量や成長様式の推定法などを修得する資源解析学実習、漁業生産の要素技術を修得する漁業科学実習、磯での採集や潜水調査実習、練習船による乗船漁業実習など、魅力あふれた実習が多く組まれています。

・生物生産学講座 (Aquaculture)

海洋生物資源の増産技術の確立を目指し、生理、栄養、養殖、病理、種苗育成技術やバイオテク手法による育種等の諸問題について、教育・研究しています。魚類の遺伝子やストレスを解析する水族生理学実験、有用藻類の野外観察や生態調査を行う応用藻類学実習、養魚飼料と魚の化学分析を試みる水族栄養学実験、病原性の細菌・ウイルス・寄生虫などを検査する水族病理学実習、最先端のバイオテクノロジー・育種技法を習得する水族養殖・育種学実習など、魅力あふれた実験・実習が多く組まれています。

・海洋生物工学講座 (Marine Bio-Engineering)

海洋生物資源の有効利用と養殖魚介類の持続的生産および水産食品の安全性確保を目的として、養殖魚介類の免疫や病原体の遺伝子解析、化学物質の毒性・代謝、海洋微生物の有効利用などについて、教育・研究しています。分子生物学的手法の基礎を学べる遺伝子工学実験や微生物が生産する有用物質の検索などを目的とした応用微生物学実験などを開講しています。

○食品生産科学科 (Undergraduate Course of Food Science and Technology)

食品生産科学科の教育研究上の目的

海洋食資源（食品）の安全な利用・開発と新しい機能を持つ食品の開発を基礎的・応用的・総合的に教育研究する。

ヘルシーフードとして水産食品は世界的に脚光を浴びています。日本の食品産業としては、この利点を活かした食品の開発・生産が求められています。同時に、食資源や生産地の地球規模的拡大が進む中、食のグローバル化に伴う食の安全性確保の問題、大量消費による資源の破壊的減少防止の問題、あるいは食資源を無駄なくかつ新しい視点から高度に利用する問題等々、課題は山積しています。これらの課題を解決する人材になるために、本学科では、食品保全機能学と食品品質設計学の2つの専門分野を通して、化学、微生物学、物理学、工学などの学理を基礎から学び、総合的な判断力を養うとともに、技術開発の手法を身に付けていきます。

・食品保全機能学講座 (Food Science)

水産食品を中心とする各種食品について、安全性・健全性の確保・向上および機能性開発を目指して化学的・微生物学的視点からアプローチします。具体的には、食品の一次機能（栄養）および二次機能（味、色、香り、物性）にかかわる因子の特性、食品の持つ三次機能（生体調節）因子の探索と特定、食品の製造・貯蔵・流通・消費などにおける化学的・微生物学的安全性と品質保持などに関する諸問題とこれらを支える先端技術などについて総合的に教育研究を行います。

・食品品質設計学講座 (Food Technology)

安全かつ付加価値の高い食品（主として水産食品）の製造プロセスを具体化するための食品設計技術の開発や製造プロセスにおける安全性評価システムの確立を目指して、主として工学的視点からアプローチします。具体的には、原料や原料中の諸成分の加工特性の理解を通じて、原料から消費に至るまでの安全性にかかわるプロセスの高精度な定量的解析、先端食品製造装置・システムの開発設計と操作特性、水産食品の低温利用に関する原理と先端技術などについて総合的に教育研究を行います。

○海洋政策文化学科 (Undergraduate Course of Marine Policy and Culture)

海洋政策文化学科の教育研究上の目的

経済的視点と共に海と人との共生的関係に基づく海洋利用、海洋政策、海洋文化を基礎的・応用的・総合的に教育研究する。

海と人との共生関係が叫ばれてから長い年月がたっています。しかし、地球レベルでの海洋汚染や漁獲高はむしろ悪化の傾向にあり、また、それにともなって海洋利用をめぐる国際的・国内的な問題も増加しています。もちろん私たちは、私たちの生命と文明を生み出し、育んでくれた海洋とのつながりを断ち切って生きることはできません。

21世紀にあつて、海と人との共生関係に根ざした海洋利用と管理は、ぜひとも達成しなければならない人類的な課題なのです。本学科は、こうした問題意識を背景として、総合的な教育・研究を行う学科です。望ましい「海・人・社会」の関係の在り方について、グローバルでしかもローカルな視点に立った、海と人の共生に係わる産業的アプローチ、文化的アプローチ、そして、政策的アプローチを理論と実践の両面から追求します。

国際海洋政策学、海洋利用管理学及び統合海洋政策学の3専門分野から構成されています。理科系の基礎知識を身に付け、語学力を高め、社会・人文系の考察力と実践力を錬磨し、広い意味での問題解決型の人材を養成します。

・国際海洋政策学講座 (Marine Policy and International Culture)

私たちが海と共に生きていくためには、さまざまな視点が必要です。生活に不可欠な海洋利用はともすると環境悪化を招き、また、一国・一地域だけの単独政策は国家間や地域間の衝突をもたらします。こうした壁を乗り越えるためには、政治経済的な知見を深めると同時に、国内外の文化や科学や思想の歴史的な違いを理解することが肝要です。そこで、経済学、法学・政治学、国際文化論、科学文化論、などの視点から海と人そして社会の関係の在り方を総合的に考えます。

・海洋利用管理学講座 (Marine Utilization and Management)

従来の海洋利用の在り方を社会科学的に解明し、海洋資源の利用のみでなく、レジャー産業などを含む新たに創出可能な海洋産業を見据えて、海洋の利用や管理の在り方を教育研究します。また、海洋スポーツや海上労働と心身の健康、および海と生涯発達等について教育研究し、海洋と人間の共生する仕組みやそのための海洋管理の在り方を探ります。海洋利用は日本社会のみならず、国際社会との交流が極めて重要であり、幅広い海洋利用について提言し、問題解決するために、他者を理解して的確な自己表現が行えるようコミュニケーション能力を養成します。

・統合海洋政策学講座 (Integrated Marine Policy)

海洋の利用・管理のあり方に関する研究（海洋利用管理学講座）及びそれに関わる政策研究（国際海洋政策学講座）を基礎として、現実の政策立案と政策遂行に関する教育研究を行います。海洋利用管理学講座と国際海洋政策学講座にまたがる境界領域としての現実の政策立案と政策遂行の過程における問題とそれへの対応策を学び、政策の現場での実践能力を養成することを目指します。

○水産教員養成課程 (Teacher Training Course for Fisheries High School Education)

この課程は全国の水産・海洋系高校の教員を計画的に養成するためのコースです。

定員は10名で、その内訳は、海洋環境学科、海洋生物資源学科、食品生産科学科に各3名ずつ、海洋政策文化学科に1名となっています。この課程の学生は、「教職に関する専門科目」と所属学科の指定する「教科に関する専門科目」を履修することによって、水産の教育職員免許状(教職免許状)を取得することができます。

この課程の学生は、水産の免許状の取得が義務づけられますが、その取得に必要な教職専門科目の単位の多くが卒業に必要な総単位数に含まれますので、それだけ水産の免許状が取得しやすくなっています。

本学の大学院や水産専攻科への進学、一般企業や公務員への就職などについては、この課程以外の学生とまったく変わるところはありません。

〔2〕 水圏科学フィールド教育研究センター

たてやま

館山ステーション

千葉県館山市にあり、海洋生物資源や海洋環境に関する実験・実習を行うとともに、沿岸動植物の分類、生理、生態の研究、アワビ類の種苗生産や放流、そして生物資源、漁業、環境等に関する研究を行っています。館山湾奥には専用棧橋を持つ施設が別があり、東京湾沿岸や浅海域での漁業技術研究のフィールドとして、また、水泳・漕艇・操船や漁業、環境計測に関する実習を行うほか、練習船の基地としても利用されています。

(明治34年頃開設) 〒294-0036 千葉県館山市館山96 TEL (0470) 22-0301
(昭和55年開設) 〒294-0308 千葉県館山市坂田670 TEL (0470) 29-1144

よしだ

吉田ステーション

静岡県榛原郡吉田町にあり、温暖な気候と豊かな大井川伏流水に恵まれ、ウナギ、コイ、キンギョ、ニホンナマズ等の温水性淡水魚類を飼育し、生理、病理、栄養等の基礎的研究と系統維持やバイオテクノロジー並びに食品加工技術や食品安全性に関するフィールド教育・研究を行うとともに、生物生産や食品生産に関する実験・実習を行っています。

(昭和8年開設) 〒421-0302 静岡県榛原郡吉田町川尻1581 TEL (0548) 32-5848

おおいずみ

大泉ステーション

山梨県北杜市大泉町にあり、八ヶ岳山麓の海拔1,060mの高地でニジマス、カワマス、ヤマメ、イワナ、イトウ等の冷水性淡水魚類を飼育し、生理、病理、遺伝育種・資源管理等の基礎的研究とバイオテクノロジーに関するフィールド教育・研究を行うとともに、生物生産や生物資源、そして食品科学に関連した基礎から応用までの幅広い実験・実習を行っています。

(昭和8年開設) 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸5681 TEL (0551) 38-2015

とみうら

富浦ステーション

千葉県安房郡富浦町にあり、海洋工学部のオリエンテーションや水泳実習、帆走実習等が行われるとともに、海事システム工学や海洋電子機械工学に関連したレーダー、電波航法、電気及び気象海象等の実験や研究のフィールドとして活用されています。さらに東京のキャンパスから東京湾を経て黒潮外洋域へ、そして世界の7つの海につながる研究の拠点として利用されています。

(昭和41年開設) 〒299-2404 千葉県南房総市富浦市多田良851-1 TEL (0470) 33-2094

しみず

清水ステーション

静岡県静岡市清水区にあり、金属材料の大気腐食に関する研究、金属材料の耐海水性に関する研究、ステンレス鋼の微生物腐食耐食性評価試験、太陽光導光装置を用いた微生物燃料電池の発電効率向上に関する研究、バラスト水の機械処理法、学内プロジェクト研究等を行っています。

〒424-0902 静岡県静岡市清水区折戸4-1-30 TEL (0543) 33-34-0457

[3] 練習船

海洋科学部には大型の練習船があり、日本近海から遠洋海域に至るまで各海域での実習教育・調査研究を担っています。練習船では航海学・運用法・機関学及び海洋観測等の講義や実習、各種の漁業実習を行っています。

うみ たか まる
海鷹丸

(総トン数1,886.00t 国際トン数3,391t 長さ93m 速力17.4ノット)
平成12年6月30日、三井造船株式会社玉野事業所において竣工

太平洋、インド洋、南氷洋を含む世界中の海を行動海域とし、専攻科学生に高度な海上技術者教育を行い、調査研究にも従事します。また学部学生には乗船漁業実習を行い、海技士資格取得の教育も行います。



しん よう まる
神鷹丸

(総トン数986.00t 国際トン数1,344t 長さ65m 速力13ノット)
平成28年3月31日、三菱重工業株式会社下関造船所において竣工

日本周辺、太平洋赤道海域までを主たる行動海域とし、トロール、イカ釣り、マグロ延縄等の漁業実習を行い、学部学生を対象に乗船漁業実習を行い、海技士資格取得の教育を行います。



せい よう まる
青鷹丸

(総トン数170.00t 国際トン数272t 長さ35.5m 速力11.5ノット)
昭和62年10月31日、株式会社三保造船所において竣工

東京湾、相模湾、黒潮流域までの日本近海を行動海域とし、海技士資格取得のための免許講習、乗船漁業実習を行い、海洋観測士認定を目的とした海洋学実習及び調査・研究航海を行います。



学 修 の 手 引 き

(I. 履 修 関 係)

- [1] 授業科目の区分
- [2] 授業
- [3] 履修方法及び履修手続き
- [4] WEB履修登録
- [5] 試験及び成績評価
- [6] 単位の授与
- [7] 実習・実験
- [8] 卒業論文及びセミナーの履修
- [9] 海洋科学部のGPA制度について
- [10] 卒業及び進級
 - 1. 各学科学生(水産教員養成課程以外の学生)
 - 2. 水産教員養成課程
- [11] 編入学者の履修
- [12] 再入学
- [13] 外国人留学生の授業科目履修上の特例
- [14] 学部学生の大学院授業科目の先行履修

〔1〕 授 業 科 目 の 区 分

1. 海洋科学部の授業科目の区分は次のとおりです。

授 業 科 目 の 区 分		内 容
総 合 科 目	全 学 共 通 科 目	全学科の共通科目として開講しています。 自由選択については、本学部の総合科目の中から自由に選択し、履修して下さい。また、海洋工学部の総合科目のうち、本学部の授業科目と 名称が異なるもの も含めることができます。
	文 化 学 系	
	哲 学 ・ 科 学 論 系	
	社 会 科 学 系	
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 系	
	外 国 語 系	
自 由 選 択		
基 礎 教 育 科 目	全 学 共 通 科 目	全学科の共通科目として開講しています。
	学 部 共 通 科 目	
専 門 科 目	基 礎 科 目	各学科の専門に係わる科目として開講しています。
	必 修 科 目	
	選 択 科 目	
	他学部・他学科等開講科目	海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目（セミナー及び卒業論文を除く。）及び学部共通専門科目を他学部・他学科等開講科目として履修します。
教 職 に 関 す る 科 目		教員免許取得に必要な科目です。 水産教員養成課程の必修科目です。

〔2〕 授 業

1. 学 期

学年を前学期と後学期の2学期に区分しています。

2. 授 業 の 方 法

授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかの方法により行われます。

3. 単 位

(1) 各授業科目の単位数は、次の基準により計算します。

- ア) 1単位の履修時間は、教室内及び教室外を合わせて45時間とします。
- イ) 講義は、15時間の授業をもって1単位とします。1時間の講義に対して2時間の予習、復習を必要とします。
- ウ) 外国語系の科目及び演習は、30時間の授業をもって1単位とします。2時間の演習に対して1時間の予習、復習を必要とします。
- エ) 実験、実習及び実技は、45時間の授業をもって1単位とします。

4. 授業時間

- (1) 各時限の授業時間は次のとおりです。
なお、1コマ（1時限）は、単位履修時間2時間と計算します。

時 限	授 業 時 間	休 憩 時 間
第 1 時 限	8:50～10:20	
		10:20～10:30
第 2 時 限	10:30～12:00	
		12:00～13:00
第 3 時 限	13:00～14:30	
		14:30～14:40
第 4 時 限	14:40～16:10	
		16:10～16:20
第 5 時 限	16:20～17:50	

- (2) 当該年度の授業時間割表は、学年の始め4月初旬に配布します。
※集中授業等は18時以降に行うことがあります。

5. 休業日

休業日は次のとおりです。集中授業・実験・実習・実技及び補講等は休業日でも行うことがあります。

- 日曜日及び土曜日
 - 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - 春季休業
 - 夏季休業
 - 冬季休業
 - 臨時休業
- } 各年度の授業時間割表に掲載してある、学事予定表を参照して下さい。

※休業期間中は、窓口の開設時間を短縮する場合があります。
その際は、事前に掲示等でお知らせします。

【学則第18条、第19条・履修規則第3条】

〔3〕 履修方法及び履修手続き

1. 履修方法

授業科目は、履修上無理のないように学年ごとに開講しています。具体的には学年始めに配布される、その年の授業時間割表により履修することになりますが、定められた開講年次に履修しないと、次年度以降、授業時間の重複等により履修できなくなる場合があります。

特に、専攻科へ進学する者、教員免許状、学芸員の資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格を取得しようとする者は、授業時間割表に留意して修得もれのないようにしてください。

- (1) 本冊子に記載された進級や卒業に必要な単位数をよく確認し、要件を満たすように履修計画を立てること。
- (2) 総合科目(全学共通科目、文化学系、哲学・科学論系、社会科学系、健康・スポーツ系、外国語系の6種類)、基礎教育科目(全学共通科目、学部共通科目・必修、学部共通科目・選択の3種類)、専門科目(基礎科目、必修科目、選択科目、他学部・他学科等開講科目の4種類)、教職に関する科目の14種類は、それぞれ独立した科目です。したがって、各区分ごとに表示された**卒業に必要な単位数以上修得しても、それをもって他の区分の科目の単位に代替することはできません。**
- (3) 総合科目の自由選択以外の区分で必要単位数を経過した単位については、一定の単位まで、総合科目の授業科目の自由選択の単位とします。
- (4) 授業科目には取得方法等により次の区分があります。
 - I. 修得方法による区分
 - a. 必 修 科 目 : その授業科目の単位を修得しなければ卒業できない科目を示します。
 - b. 選 択 科 目 : 授業科目のうちから、選択して履修できる科目を示します。
 - II. 免許・資格取得による区分
 - a. 教 職 に 関 す る 科 目 : 教育職員免許状取得に必要な教職に関する科目を示します。
 - b. 海 技 科 目 : 三級海技士(航海)第一種養成施設の修了に必要な科目を示します。
 - c. 学 芸 員 に 関 す る 科 目 : 学芸員となる資格取得のために必要な科目を示します。

2. 履修年次

- (1) 履修規則別表に定める開講年次により履修するものとします。
- (2) 自分の属する年次より低年次の開講科目は履修できます。
- (3) 自分の属する年次より高年次の開講科目は、担当教員の承認を得た場合に限り履修できます。(低年次履修) 履修できる具体的な授業科目については、シラバスの「低年次履修の可否」欄で確認して下さい。

3. 履修科目の登録

毎年度の授業時間割の「海洋科学部学事予定表」に定められた所定の期間内に、その学期に履修しようとする授業科目を所定の方法により必ず登録し、その内容を確認しなければなりません。**履修登録のない授業科目を受講しても、単位は認められません。**

登録内容に不備がある場合は、所定の期間内に所定の方法で修正しなければなりません。

- (1) 履修登録期間について

履修登録期間	・・・履修を希望する科目を、情報処理センター及び各研究室の端末で登録して下さい。学外のパソコンからも履修登録可能です。
履修登録確認期間	・・・履修登録の内容を修正(追加・削除)する場合は、必ず、この期間中に「履修登録確認表」を発行し、赤字で修正内容を記載の上、教務課に申し出てください。※Webでの修正はできません。「履修登録確認表」は、教務システムの時間割関連の個人時間割表画面から印刷できます。

※ 履修登録確認期間終了後の、履修登録及び変更、削除は一切受け付けないので注意してください。

- (2) 履修登録上の注意点について

- (I) 履修登録は情報処理センターもしくは所属の研究室(4年次)のパソコン端末からWeb上で行いません。学外のパソコンからも履修登録可能です。使用方法はマニュアルを参照して下さい。ただし、集中授業(授業時間割表中の履修登録方法欄に「Web」と記載された科目を除く)の履修登録は、Webからはできません。これらの科目の履修登録期間や方法については、別途掲示等でお知らせします。
- (II) 履修登録できる単位数に上限が設けられています。(「5. 履修登録単位数の上限」を参照)
- (III) 必修科目も必ず履修登録してください(集中科目等を除く)。
- (IV) **4年次生は前学期に、本年度履修する全科目を履修登録してください。**
(卒業見込証明書の発行に必要です。) ただし、一部の集中授業等は除きます。

4. 他学科等及び他学部の履修

- (1) 学生は、本学部の他学科の授業科目、教職に関する科目、学芸員に関する科目及び他学部の授業科目を履修することができます。ただし、他学科及び他学部の授業科目で、開講学科及び学部において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は卒業に必要な単位数に算入されません。(例：海洋環境学科の専門科目で卒業に必要な単位数に算入されない科目である「乗船漁業実習Ⅳ」を他学科の学生が履修した場合、「他学部・他学科開講科目」の卒業に必要な単位数に算入されない。) また、授業科目によっては、担当教員の承認を得なければならないことがあります。また、他学部の授業科目の履修については、(2)の手続が必要となります。
- (2) 他学部の授業科目の履修を希望する学生は、①海洋工学部の「履修案内及び講義要目」を参照し、②「他学部の授業科目の履修願」を受け取り、③希望する科目の担当教員の許可を得て、④履修登録期間内に提出して下さい。

5. 履修登録単位数の上限

履修登録単位数には次の上限が設けられていますので、上限の範囲内で履修登録を行ってください。**上限を超えて履修登録を行った場合には、当該学期の全科目の履修登録は無効となります。**

- (1) 前学期又は後学期における履修登録単位数の上限は30単位とし、当該年度中に履修登録できる単位数は、**第1年次生及び第2年次生においては各50単位、第3年次生及び第4年次生においては各60単位**を上限とします。なお、通年科目の単位は、前学期及び後学期に平分して算入します。

- (2) 集中授業（卒業要件の項に示す科目一覧表で年次欄に「集」の表記がある科目をいう。）、学則第34条、第35条及び第36条に基づき修得したものとみなされた科目、教職に関する科目、学芸員に関する科目及び外国人留学生の授業科目の単位は、(1)で定める単位数には算入しません。
- (3) 水産教員養成課程の学生にあつては、教職に関する科目（教育実習、教育実習指導、教職実践演習（高等学校）、理科教育法Ⅰ及びⅡを除く。）を(1)で定める単位数に算入します。

6. 注意事項

- (1) 履修登録をしていない授業科目を受講しても、単位は認められません。

[4] WEB履修登録

1. Web履修登録システムの特徴

本システムは、ログイン後はマウスだけで操作できる、簡易なインターフェースを備えています。また、エラー時はメッセージが表示され、修正しない限り登録が終了しませんので、下記のような間違いは生じません。

利用方法については、教務システムのユーザーマニュアルをご確認ください。

- (1) 修得済み科目の再登録（修得済みの科目は表示されず、選択できません。）
- (2) 同一曜日の同一時限への重複登録
（前半・後半で開講されている科目以外は、2科目以上登録することができません。）
- (3) 入学年度のカリキュラムに無い科目の登録
（入学年度のカリキュラムに存在する科目のみが表示されます。）
- (4) 同一科目の重複登録
（複数の曜日・時限に開講されていても一つしか選択できません。）
- (5) 履修登録単位数上限の超過
（履修登録単位数が表示され、単位の上限を超えると登録できません。）

※進級・卒業・各種資格要件を満たしているかについては、システムでも確認ですが、必ず履修ガイド等を見て、必要な単位を登録しているか、各自確認して下さい。

2. 履修登録前の注意点

- (1) 履修登録期間は、授業時間割表の「海洋科学部学事予定表」及び掲示で確認して下さい。
- (2) 履修登録科目について
前学期の履修登録期間… ・学部1～3年次生は、前学期・通年科目を必ず、登録して下さい。
（後学期の履修登録期間には、通年科目は登録できません。）
・学部4年次生は、前学期・後学期・通年科目を全て登録して下さい。
後学期の履修登録期間… ・学部1～3年次生は、後学期科目を登録して下さい。
・学部4年次生は、後学期科目の修正登録のみとして下さい。
- (3) 必ず、登録前に履修する科目を決めておいて下さい。
・長時間、登録画面を表示させるとエラーとなり、登録ができなくなります。
・あらかじめ科目を定め、短時間で登録して下さい。
・履修登録時には、必ず授業時間割表を携帯して下さい。
- (4) 授業時間割表に記載してある注意事項を必ず読んでおいて下さい。
- (5) 必修科目も必ず登録して下さい。
- (6) 上級年次の科目も登録できますが、履修を認めていない科目もありますので、「シラバス」の「低年次履修の可否」欄で確認して下さい。
- (7) 代替科目により履修する場合は、時間割表の代替科目表を参照して下さい。

〔5〕 試験及び成績評価

1. 定期試験

定期試験は、学期末にその都度発表する定期試験時間割表に基づき筆記又は口述により行います。ただし、平常の試験、実技の審査又はレポートをもって代えることがあります。

2. 受験条件

履修登録を所定の期日までに行っていない者、又は出席時数が全授業時数の3分の2に満たない者は、その科目の試験を受けることができません。

3. 追試験

病気、その他やむを得ない事由で定期試験を受験できなかった者は、追試験を受けることができます。

- (1) 追試験を受けようとする者は、当該科目の定期試験終了後7日以内に、その事由を証明する診断書等を添えて授業科目担当教員に追試験願を提出しなければなりません。
- (2) 追試験の実施日は、授業科目担当教員が指定します。
- (3) 追試験願の用紙は、教務課窓口にて配布しています。

4. 不正受験行為（カンニング等）について

本学部では、定期試験実施時に補助監督を配置するなど、不正受験行為に対して非常に厳しい対応を取っています。定期試験（成績の評価に係る全ての試験、レポート等含む）において、不正行為とみなされる行為があった場合は規定に従い処分され、停学（悪質な場合はさらに厳しい処分）に加え、当該学期の全ての履修が取り消し（単位修得ゼロ）となり、進級・卒業に重大な影響が出ることとなります。また、処分内容は保証人にも通知されます。自身の学習に不安を抱えている場合には、学生支援教員や指導教員、教務課窓口等で早めに相談してください。

5. 成績評価

成績の評価は、授業科目担当教員が定期試験の成績、平常の成績、出席状況等を総合して行います。

履修科目の成績評価は、次の基準により「優」、「良」、「可」及び「不可」で行い、59点以下は不合格として単位は与えられません。

成績評価		評価点
合格	優	100点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点
	(試験欠席)	—
	(出席不足)	—

6. 成績の通知

履修した授業科目について、成績発表日にWebにより確認できます。

必ず、成績発表日に確認して下さい。

7. 成績評価に対する申し立て制度

履修登録を行った授業科目の成績評価に疑義を生じた場合の申し立ての手順は次のとおりです。

必ず、成績発表時に掲示される申し立て期間内に行ってください。

- (1) 当該科目の担当教員に直接照会してください。（非常勤講師の場合は教務課教務係に照会して下さい。）
- (2) 当該科目の担当教員に連絡が取れない場合等は、「成績評価に関する説明願」を所定の受付期間内に教務課教務係へ提出することにより、後日、当該科目の担当教員等から説明を受けることができます。なお、受付期間等詳細については成績発表時に掲示します。

【履修規則第12条、第13条、第14条、第15条】

〔6〕 単位の授与

1. 単位の授与

授業科目を履修し、学期末に行われる試験に合格した者には所定の単位を与えます。

2. 再履修

不合格となった科目の単位を修得するためには、その科目を再履修しなければなりません。
また、合格し単位を修得した科目を再度履修することはできません。

【学則第32条・履修規則第16条、第17条】

〔7〕 実習・実験

授業時間割表に掲載されていない実習等は、その都度、開講時期、履修者の募集を掲示によりお知らせしますが、事前にガイダンスを実施する科目が数多くあります。履修を希望する者は、必ずこのガイダンスに出席してください。

〔8〕 卒業論文及びセミナーの履修

1. 卒業論文及びセミナーの履修

- (1) 卒業論文は、通年で8単位、セミナーは前期1単位の科目です。
- (2) 第4年次進級要件を満たさない学生は、卒業論文及びセミナーを履修することはできません。

2. 卒業論文作成申告及び提出

卒業論文は、あらかじめ指導教員の許可を得た題目を「卒業論文作成申告書」により5月の所定の期日までに、教務課に届け出なければなりません。また、卒業論文は、完成後指導教員に提出しなければなりません。

3. 卒業論文及びセミナーの指導教員

- (1) 卒業論文及びセミナーは、所属する学科の教員の許可を得て、その指導のもとに履修します。
- (2) (1)にかかわらず所属する学科長の承認を得た場合は、他学科等の教員のもとに履修することができます。

【履修規則第20条、第21条、別表3】

〔 9 〕 海洋科学部のG P A制度について

海洋科学部では、学習状況の把握や自学自習の促進を目的として、G P A (Grade Point Average) 制度を導入しています。

(1) 算出方法

$$G P A = \frac{(S \text{の単位数} \times 4 + A \text{の単位数} \times 3 + B \text{の単位数} \times 2 + C \text{の単位数} \times 1)}{\text{総履修 (不合格を含む) 単位数}} = G P$$

(2) 定義

- ・ S = 100～90 点, A = 89～80 点, B = 79～70 点, C = 69～60 点
- ・ 「G P」 = (Sの単位数×4 + Aの単位数×3 + Bの単位数×2 + Cの単位数×1)
- ・ 「不合格」 = 「不可 (F)」、 「試験欠席 (N P)」、 「出席不足 (M)」
- ・ 「卒業要件に算入しない科目」、 「履修中 (I P)」、 「認定 (T)」 はG P A計算から除外される。

(3) 開示方法

教務システムの成績情報関連のG P Aの参照画面から確認することができます。

但し、成績評価に対する申し立て期間が終了するまでは、当該学期のG P Aは反映されませんので、ご注意ください。

(4) 利用方法

教務システムのユーザーマニュアルをご覧ください。

(5) 教務システム上の表示区分

「累積」… 「入学時から集計時」までの合計した数値を示す。

「年」… 該当年度の「前学期」と「後学期」の合計した数値を示す。

「学期」… 「前学期」又は「後学期」を示す。但し、「通年科目」は「後学期」に算入する。

(6) その他

成績証明書及び成績通知における成績表記は「優」「良」「可」とします。

正式な成績通知は、教務システムの成績情報関連の成績情報の参照画面から確認して下さい。

[10] 卒業及び進級

【1. 各学科学生】 (水産教員養成課程以外の学生)

1. 卒業要件

本学部を卒業するためには、総合科目、基礎教育科目及び専門科目のそれぞれについて、学科により次表の単位を修得しなければなりません。

【海洋科学部 各学科】 各学科の卒業に必要な単位数

学 科		海洋環境 学 科	海洋生物 資源学科	食品生産 科 学 科	海洋政策 文化学科	
授業科目の区分						
総合 科目	全学共通科目					5
	文 化 学 系					4
	哲 学 ・ 科 学 論 系					4
	社 会 科 学 系					4
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 系					2
	外 国 語 系					8
	自 由 選 択					4
基科 礎 教 育 目	全学共通科目					4
	学部共通 科 目	必 修				13
		選 択				8
専 門 科 目	基 礎 科 目	14	12	22	8	
	必 修 科 目	9	9	14	11	
	選 択 科 目	39	41	26	37(I群) 6(II群)	
	他学部・他学科等 開 講 科 目	6	6	6	6	
卒業に必要な単位		124	124	124	124	
備考： 1 総合科目のうち自由選択については、本学部の総合科目の中から自由に選択し、履修すること。また、海洋工学部の総合科目のうち、本学部の授業科目と名称が異なるものも含めることができる。 2 他学部・他学科等開講科目は、海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目（セミナー及び卒業論文を除く。）及び別表の学部共通専門科目とする。なお、他学科及び他学部の授業科目で、開講する学部及び学科において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は、卒業に必要な単位に算入しない。						

(注) 上記の表に示された、授業科目の区分ごとに定められた単位数を超えて修得した単位は、自由選択として認められる場合を除き、卒業に必要な単位として算入できません。

総合科目

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
全学共通科目	フレッシュマンセミナー	①集							①	5単位
	海の科学	①							①	
	船の科学	①							①	
	海と生命	①							①	
	海と文化	①							①	
	計	5	0	0	0	0	0	0	0	5

文化学系	文学		2							2	4単位
	人文地理学	2								2	
	ヨーロッパ文化論		2							2	
	現代ヨーロッパ論		2							2	
	英米社会文化入門			2						2	
	英米表象文化入門			2						2	
	計	2	6	2	2	0	0	0	0	12	

哲学・科学論系	哲学	2								2	4単位
	哲学史			2						2	
	心理学			2						2	
	生命倫理		2							2	
	生命文化			2						2	
	科学史	2								2	
	技術史				2					2	
	計	4	2	4	4	0	0	0	0	14	

社会科学系	社会学		2							2	4単位
	基礎法学	2								2	
	国際法と日本国憲法		2							2	
	経済学	2								2	
	近現代史	2								2	
	政治学		2							2	
	計	6	6	0	0	0	0	0	0	12	

スポーツ・健康系	こころと身体	2								2	2単位
	スポーツⅠ	1								1	
	スポーツⅡ		1							1	
	計	3	1	0	0	0	0	0	0	4	

外国語系	Basic English I *	1								1	右 上 参 照
	Basic English II *		1							1	
	Practical English I	1								1	
	Practical English II		1							1	
	Effective English I *			1						1	
	Effective English II *				1					1	
	Interactive English I *			1						1	
	Interactive English II *				1					1	
	Intensive English I					1				1	
	Intensive English II						1			1	
	Intensive English III					1				1	
	Intensive English IV						1			1	
	基礎ドイツ語Ⅰ	1								1	
	基礎ドイツ語Ⅱ		1							1	
	応用ドイツ語Ⅰ			1						1	
	応用ドイツ語Ⅱ				1					1	
	基礎フランス語Ⅰ	1								1	
	基礎フランス語Ⅱ		1							1	
	応用フランス語Ⅰ			1						1	
	応用フランス語Ⅱ				1					1	
	基礎ロシア語Ⅰ	1								1	
	基礎ロシア語Ⅱ		1							1	
応用ロシア語Ⅰ			1						1		
応用ロシア語Ⅱ				1					1		
基礎中国語Ⅰ	1								1		
基礎中国語Ⅱ		1							1		
応用中国語Ⅰ			1						1		
応用中国語Ⅱ				1					1		
基礎スペイン語Ⅰ	1								1		
基礎スペイン語Ⅱ		1							1		

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数		
	1年		2年		3年		4年			計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
外国語系	応用スペイン語Ⅰ			1						1	8単位
	応用スペイン語Ⅱ				1					1	
	※韓国語Ⅰ	2	(2)							2	
	※韓国語Ⅱ	2	(2)							2	
	計	11	7	7	7	2	2	0	0	36	

自由選択科目	◇ 4単位
卒業に必要な単位数（総合科目合計）	31単位

基礎教育科目

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数		
	1年		2年		3年		4年			計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
通全科目共	情報リテラシー	②								②	4単位
	日本語表現法	②	(2)							②	
	計	4	0	0	0	0	0	0	0	4	

学部共通科目必修	基礎微積分Ⅰ	②								②	13単位
	基礎微積分Ⅱ	②								②	
	生物学	②								②	
	物理学	②								②	
	化学	②								②	
	水圏環境リテラシー学		①							①	
	TOEIC入門	①	(①)							①	
TOEIC演習					①集				①		
	計	11	1	0	0	0	1	0	0	13	

学部共通科目選択	数学解析		2							2	8単位
	数学概論		2							2	
	情報処理概論Ⅰ			2	(2)					2	
	情報処理概論Ⅱ			2	(2)					2	
	統計学			2						2	
	海洋統計学				2					2	
	地学			2集						2	
	●地学実験								1集	1	
	計	0	4	8	2	0	0	1	0	15	

卒業に必要な単位数（基礎教育科目合計）	25単位
---------------------	------

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 *印 三級海技士（航海）の資格を取得する学生は、*印の科目の中から2科目以上、修得しなければならない。
 ※印の科目は、放送大学との単位互換協定により修得できる。
 ◇印の単位は、本学部の総合科目の授業科目の中から自由に選択し、修得すること。また、海洋工学部の総合科目の授業科目の内、本学部と科目名称の異なるものも含めることができる。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 ()については、前学期開講分を履修し、単位を修得できなかった者を対象に開講する。

専門科目 [学部共通専門科目]

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数		
	1年		2年		3年		4年			計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
「学部共通」専門科目	社会連携論Ⅰ ▽				2					2	【注】
	社会連携論Ⅱ ▽					2				2	
	水産行政論						2			2	
	水圏環境リテラシー学実習			1集						1	
	水圏環境コミュニケーション学実習					1集				1	
	水泳実習			1集						1	
	グローバルキャリア入門	2集								2	
	海外派遣キャリア演習Ⅰ					2集				2	
	海外派遣キャリア演習Ⅱ							2集		2	
計	0	2	1	1	2	7	0	2	15		

【注】の科目を修得した場合は、「他学部・他学科等開講科目」の卒業に必要な単位に算入する。▽は、産学・地域連携推進機構が担当する。

専門科目 [海洋環境学科]

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
魚類学 I		2							2	14単位
無脊椎動物学 I		2							2	
藻類学 I		2							2	
化学概論		2							2	
物理学概論 I		2							2	
海洋科学入門			②						②	
分析化学			2						2	
有機化学			2						2	
物理学概論 II			2						2	
数理科学			2						2	
線形数学				2					2	
基礎流体力学			2						2	
基礎科目計	0	10	12	2	0	0	0	0	24	

必修科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
セミナー								①集	①	9単位
卒業論文								⑧集	⑧	
必修科目計	0	0	0	0	0	0	1	8	9	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
海洋観測論			2						2	39単位
魚類学 II			2						2	
無脊椎動物学 II			2						2	
藻類学 II			2						2	
基礎生物海洋学				2					2	
陸水学				2					2	
鯨類・海産哺乳類学				2					2	
海洋生物学実験 I			2						2	
臨海生物学実習			1集						1	
生化学				2					2	
海洋循環化学					2				2	
分析化学実験				2					2	
物理数学			2						2	
基礎海洋学			2						2	
海洋流体力学				2					2	
資源情報解析学				2					2	
基礎物理海洋学				2					2	
応用解析				2					2	
環境物理学				2					2	
環境物理学実験			2						2	
機械システム工学				2					2	
応用情報テクノロジー I *				2					2	
海洋計測学 I *				2					2	
電気電子工学 *				2					2	
海上安全工学 I *				2					2	
環境テクノロジー実習			1集						1	
海洋環境政策論				2					2	
海事法規 *				2					2	
海洋学実習 I			1集						1	

右表参照

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
乗船漁業実習 I *				1集					1	39単位
浮遊生物学					2				2	
個体群生態学					2				2	
水産資源動態学						2			2	
海洋資源生態学						2			2	
海洋生物学実験 II					2				2	
海洋生物学実験 III						2			2	
個体群生態学演習							1		1	
基礎化学海洋学				2					2	
海洋天然物化学					2				2	
環境微生物化学					2				2	
海洋機能材料科学						2			2	
海洋バイオテクノロジー						2			2	
水圏環境化学実験						2			2	
海洋物理学					2				2	
海洋情報解析学					2				2	
環境測定学					2				2	
水産海洋物理学 *					2				2	
数値解析					2				2	
大気科学					2				2	
沿岸海洋学						2			2	
環境システム科学実験						2			2	
海洋環境機械学					2				2	
環境エネルギー工学					2				2	
海上安全工学 II					2				2	
応用情報テクノロジー II					2				2	
海洋計測学 II					2				2	
先端海洋テクノロジー					2				2	
海岸環境工学						2			2	
環境テクノロジー実験 I						2			2	
環境テクノロジー実験 II							2		2	
海洋法特論							2		2	
● 職業指導							1		1	
海洋学実習 II						1集			1	
海洋環境実務実習							1集		1	
乗船漁業実習 II *						3集			3	
海洋学実習 III								1集	1	
乗船漁業実習 III *								3集	3	
● 乗船漁業実習 IV *								9集	9	
選択科目計	0	0	23	33	42	25	4	9	136	
他学部・他学科開講科目(注1)									6	6単位
卒業に必要な単位数(専門科目合計)									68単位	

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まれない。
 (注1) 他学部・他学科開講科目 海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目(卒業論文及びセミナーを除く。)及び学部共通専門科目の中から選択し、修得すること。また、他学部・他学科に開講されている●印の科目も卒業に必要な単位に含まれない。
 *印 三級海技士(航海)の資格を取得する学生は、*印の科目を修得しなければならない。
※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければならない。3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目12単位以上
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。
※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければならない。4年次へ進むことができない。
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。
卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

専 門 科 目 [海洋生物資源学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目										12単位
海洋植物学		2							2	
海洋動物学		2							2	
海洋生物資源学入門				2					2	
水族生理学			2						2	
分子生物学			2						2	
生物化学概論			2						2	
集団生物学			2						2	
動物生態学			2						2	
海洋生物学実習			1集						1	
基礎科目計	0	4	7	6	0	0	0	0	17	

必修科目	年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
セミナー									①集	9単位
卒業論文									⑧集	
必修科目計	0	0	0	0	0	0	1	8	9	

選 択 科 目	年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
動物発生学			2						2	右表参照
動物遺伝学				2					2	
動物組織学			2						2	
動物組織学実験				1					1	
藻類生態学			2						2	
遺伝子工学				2					2	
微生物学概論			2						2	
陸水学				2					2	
漁法学				2					2	
魚群行動学					2				2	
鯨類資源論					2				2	
漁業科学実習			1集						1	
漁業科学演習						2			2	
漁業科学実験						2			2	
生産システム学						2			2	
漁具学					2				2	
漁業解析学					2				2	
生物資源統計学						2			2	
生物資源解析学					2				2	

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
生物資源解析学演習						1			1	41単位
生物資源解析学実習					1集				1	
応用保全生物学						2			2	
集団生物学実習					1集				1	
保全増殖学						2			2	
保全増殖学演習						1			1	
動物生態学実習					1集				1	
水族生理学実験						1			1	
水族薬理学							2		2	
応用藻類学						2			2	
応用藻類学実習						1集			1	
応用微生物学						2			2	
応用微生物学実験						1			1	
水族養殖学						2			2	
水族育種学							2		2	
水族養殖・育種学実習 I							1集		1	
遺伝子工学実験							1集		1	
水族病理学						2			2	
水族栄養学						2			2	
水族栄養学実験						1集			1	
潜水調査実習							1集		1	
海洋生物資源実務実習							1集		1	
● 職業指導							1		1	
公衆衛生学						2			2	
食品衛生学						2			2	
食品加工学						2			2	
水族養殖・育種学実習 II								1集	1	
水族病理学実習								1集	1	
選択科目計	0	0	11	11	33	19	2	0	76	
他学部・他学科開講科目(注1)									6	6単位
卒業に必要な単位数 (専門科目合計)										68単位

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位数に含まれない。
 (注1)他学部・他学科開講科目 海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目(卒業論文及びセミナーを除く。)及び学部共通専門科目の中から選択し、修得すること。また、他学部・他学科に開講されている●印の科目も卒業に必要な単位数に含まれない。

※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目8単位以上
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

専 門 科 目 [食品生産科学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								計	卒業必要 単位数		
	1年		2年		3年		4年					
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基 礎 科 目	海洋植物学		2							2	22単位	
	海洋動物学		2							2		
	有機化学Ⅰ★		2							2		
	生産物理学		②							②		
	食品生産科学入門実験★		①							①		
	化学演習		①							①		
	基礎分子生物学				2					2		
	生物化学Ⅰ★			2						2		
	生物化学Ⅱ★				2					2		
	物理化学			2						2		
	有機化学Ⅱ★			2						2		
	微生物学★			②						②		
	化学実験			②						②		
	微生物学実験★				①					①		
物理学実験				①					①			
基礎科目計	0	10	10	6	0	0	0	0	26			
必 修 科 目	食品化学★			②						②	14単位	
	食品工学★			②						②		
	食品生産学実習★					①集				①		
	セミナー						①集			①		
	卒業論文							⑧集		⑧		
	必修科目計	0	0	2	2	1	0	1	8	14		
	選 択 科 目	食品生産システム調査			1集							1
食品微生物学★					2					2		
衛生微生物学★						2				2		
海洋バイオテクノロジー							2			2		
機器分析概論						2				2		

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								計	卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
選 択 科 目	技術開発と工業所有権						2			2	26単位
	公衆衛生学★					2				2	
	資源利用化学★					2				2	
	食品衛生学★					2				2	
	食品加工学★					2				2	
	食品機械装置工学					2				2	
	食品殺菌工学★						2			2	
	食品ゼロエミッション通論						2			2	
	食品貯蔵学★						2			2	
	食品分析学★					2				2	
	食品包装論★						2			2	
	食品保全化学★					2				2	
	食品冷凍学★						2			2	
	食品レオロジー					2				2	
	食文化史						2集			2	
	食品化学基礎実験★						1			1	
	食品化学実験★							2		2	
	食品工学実験						2			2	
	食品微生物学実験						1			1	
	食品工学演習Ⅰ						1			1	
食品工学演習Ⅱ							1		1		
食と健康の科学							2		2		
食品科学実務実習							1集		1		
●ヘルスフード科学海外研修							1集		1		
●職業指導							1		1		
選択科目計	0	0	0	3	27	22	0	0	52		
他学部・他学科開講科目(注1)									6	6単位	
卒業に必要な単位数 (専門科目合計)										68単位	

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。

●印の科目は、卒業に必要な単位に含まれない。

(注1)他学部・他学科開講科目 海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目(卒業論文及びセミナーを除く。)及び学部共通専門科目の中から選択し、修得すること。また、他学部・他学科に開講されている●印の科目も卒業に必要な単位に含まれない。

★印 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得する学生は★印の科目を修得しなければならない。

※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目20単位以上(うち、必修科目8単位以上を含む。)
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

専門科目 [海洋政策文化学科]

授業科目	年次及び単位数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	②								②	8単位
海洋政策文化入門									②	
海洋政策文化研究法			②						②	
日本経済論		2							2	
資源利用関係論			2						2	
水産経済学			2						2	
多文化環境論			2						2	
基礎科目計	2	2	4	4	0	0	0	0	12	

必修科目	海洋政策文化セミナーⅠ				①				①	11単位
海洋政策文化セミナーⅡ					①				①	
セミナー						①集			①	
卒業論文							⑧集		⑧	
必修科目計	0	0	0	0	1	1	1	8	11	

選択科目 I群	食料経済論	2							2	右表参照
	水産調査			1集					1	
	海事法規			2					2	
	海洋環境政策論			2					2	
	海洋産業論				2				2	
	水産物流通論			2					2	
	食品マーケティング論			2					2	
	沿岸地域社会調査					1集			1	
	海洋法総論				2				2	
	地域政策論				2				2	
	海洋性レクリエーション論			2					2	
	コミュニケーション論			2					2	
	環境と教育				2				2	
	国際関係論				2				2	
	海と健康				2				2	
	マリンスポーツ実習				1集				1	
	資源生物学実験					1集			1	
	鯨類資源論				2				2	
	国際文化思想論			2					2	
	海洋文化史			2					2	
	海洋政策文化特別講義				1集				1	
	海洋政策実習					1集			1	
	漁村フィールドワーク実習						1集		1	
	健康・スポーツ科学演習							1	1	
	海洋レジャー経済論					2			2	
	水産技術経済論					2			2	
	実践的基礎文学				2				2	
	日本社会理解						2		2	
生命論					2			2		
水産国際関係論					2			2		
沿岸域利用論					2			2		
科学技術論					2			2		
水産経済史					2			2		
地域環境論					2			2		

授業科目	年次及び単位数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
選択科目 I群	漁業管理論					2			2	37単位
	資源経済論					2			2	
	海洋利用制度論					2			2	
	国際関係論特論					2			2	
	海洋法特論					2			2	
	スポーツ生理学					2			2	
	水圏環境コミュニケーション学					2			2	
	応用哲学				2				2	
	生命論の諸問題					2			2	
	科学技術論の諸問題					2			2	
	応用哲学の諸問題					2			2	
	環境文学					2			2	
	メディア文化論					2			2	
	海洋文学					2			2	
	海洋文明論					2			2	
	生物資源統計学					2			2	
	生物資源解析学					2			2	
	環境思想					2			2	
	国際協力論					2集			2	
	水産政策論					2			2	
	海洋政策文化インターンシップ						1集		1	
選択科目I群計	2	0	15	21	36	27	0	0	101	
選択科目 II群	環境物理学				2				2	6単位
	物理学概論Ⅰ		2						2	
	環境物理学実験			2					2	
	有機化学Ⅰ		2						2	
	生物化学Ⅰ			2					2	
	生物化学Ⅱ			2					2	
	基礎生物海洋学			2					2	
	漁法学			2					2	
	水族養養学					2			2	
	水族養養学実験					1集			1	
	物理化学			2					2	
	化学実験			2					2	
	鯨類・海産哺乳類学				2				2	
	魚群行動学				2				2	
	浮遊生物学					2			2	
	生物化学概論				2				2	
	微生物学概論				2				2	
	陸水学				2				2	
会計学					2			2		
●職業指導						1		1		
選択科目II群計	0	4	14	12	7	1	0	0	38	
選択科目計	2	4	29	33	43	28	0	0	139	
他学部・他学科開講科目(注1)									6	6単位
卒業に必要な単位数 (専門科目合計)										68単位

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まれない。
 (注1)他学部・他学科開講科目 海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目(卒業論文及びセミナーを除く。)及び学部共通専門科目の中から選択し、修得すること。また、他学部・他学科に開講されている●印の科目も卒業に必要な単位に含まれない。

※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目6単位以上(「海洋政策文化入門」を含む。)
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上、基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位、専門科目の基礎科目「海洋政策文化研究法」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

2. 進級要件

第3年次及び第4年次へ進級するためには次の要件を満たさなければなりません。
なお、年度途中での進級はありません。

(1) 第3年次への進級要件

第3年次へ進級するためには、第2年次終了時まで、学科により定められた次表の単位を含み、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければなりません。

各学科の第3年次への進級に必要な単位数 【海洋科学部 各学科】

学 科		海洋環境	海洋生物	食品生産	海洋政策
		学 科	資源学科	科学科	文化学科
授業科目の区分	全学共通科目	11単位 フレッシュマンセミナー(1単位)を含む			
	文化学系				
	哲学・科学論系				
	社会科学系				
	健康・スポーツ系				
	外国語系				
	自由選択				
総合科目 計		11単位			
基 礎 教 育 目	全学共通科目	4単位			
	学部共通科目	必修	12単位		
		選択	8単位		
基礎教育科目 計		24単位			
専 門 科 目	基礎科目	12単位	8単位	20単位 (※1)	6単位 (※2)
	必修科目				
	選択科目				
	他学部・他学科等 開講科目				
専門科目 計		12単位	8単位	20単位	6単位
その他 「総合科目」、「専門科目」 から修得		23単位	27単位	15単位	29単位
合 計 (第3年次への進級 に必要な単位数)		70単位			

※1；食品生産科学科の専門科目（基礎科目）；基礎科目のうち必修科目8単位以上を含むこと。

※2；海洋政策文化学科の専門科目（基礎科目）；「海洋政策文化入門」を含むこと。

(2) 第4年次への進級要件

第4年次へ進級するためには、第3年次終了時まで、総合科目外国語系の単位8単位以上、基礎教育科目の「TOEIC演習」及び海洋政策文化学科においては専門科目の基礎科目「海洋政策文化研究法」の単位を含み、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければなりません。

※注意：第4年次への進級要件の一つである「TOEIC演習」の単位修得には、TOEIC600点以上のスコアが必要となります。（単位修得の条件は「大学以外の教育施設等における学修」のページを参照してください）

(3) 「卒業に必要な単位」には、各授業科目区分ごとの卒業要件単位を超えて修得した単位は算入されません。したがって総修得単位が進級基準単位数を上回っていても進級基準に達しないということもありますので、十分注意してください。

以下、海洋環境学科の平成27年度入学者に適用される各科目区分ごとの卒業要件単位数を例に、総修得単位数が「進級要件」を超えているにもかかわらず、進級できないケースを説明します。

例：海洋環境学科

ケース1 修得単位数が授業科目区分ごとの進級要件単位数に達しないケース

授業科目の区分		学 科	卒業要件単位数	修得単位数	対象外単位	進級要件に算入される単位数
総合科目	全学共通科目		5	5		5
	文化学系		4	2		2
	哲学・科学論系		4	6	(2)	4
	社会科学系		4	4		4
	健康・スポーツ系		2	4	(2)	2
	外国語系		8	2		2
	自由選択		4	(4)		4
計			31	23	0	23
基礎教育目	全学共通科目		4	4		4
	学部共通科目	必修	13	12		12
		選択	8	9	1	8
	計			25	25	1
専門科目	基礎科目		14	11		11
	必修科目		9	0		0
	選択科目		39	14		14
	他学部・他学科等開講科目		6	4		4
	計			68	29	
合 計			124	77	1	76

←1単位不足

○上記の表では、進級基準に算入される単位数76単位を修得し、進級要件単位数の「70単位以上」を修得していますが、「専門科目」の「基礎科目」の授業科目区分で必要な「12単位以上」を修得していないので、3年次に進級できないということになります。
 なお、基礎科目の進級基準に必要な単位数は、各学科により異なるので注意して下さい。

ケース2 進級要件に算入される単位数が進級要件単位数に達しないケース

授業科目の区分		学 科	卒業要件単位数	修得単位数	対象外単位	進級要件に算入される単位数
総合科目	全学共通科目		5	5		5
	文化学系		4	2		2
	哲学・科学論系		4	8	(4)	4
	社会科学系		4	2		2
	健康・スポーツ系		2	4	(2)	2
	外国語系		8	2		2
	自由選択		4	(6)	2	4
計			31	23	2	21
基礎教育目	全学共通科目		4	4		4
	学部共通科目	必修	13	12		12
		選択	8	10	2	8
	計			25	26	2
専門科目	基礎科目		14	12		12
	必修科目		9	0		0
	選択科目		39	7		7
	他学部・他学科等開講科目		6	2		2
	計			68	21	
合 計			124	70	4	66

進級要件単位数 70単位に4単位不足

○進級要件に算入される「卒業に必要な単位」には、各授業科目区分ごとの卒業要件単位を超えて修得した単位（オーバー単位）は、算入されません。

○上の「ケース2」では、「総合科目」の「哲学・科学論系」と「健康・スポーツ系」で授業科目区分ごとの卒業要件単位数を超えて修得した単位（4 + 2 = 6単位）が「自由選択」の単位数に算入されますが、「自由選択」の卒業要件単位数は4単位なので、差し引き2単位がオーバー単位となり、進級要件単位数には算入されません。

また、「基礎教育科目」の「学部共通科目 選択」の授業科目区分も、卒業要件の8単位を超えて10単位を修得しているため、差し引き2単位がオーバー単位となり、卒業・進級要件単位数には算入されません。つまり70単位を修得してもその内4単位がオーバー単位のため、進級要件単位数に算入される単位の合計は66単位となります。

従って進級要件単位数に4単位不足し、3年次に進級できないということになります。

3. 修業年限及び在学年限

(1) 修業年限

所定の修業年限は**4年**です。

(2) 在学年限

最長在学年限は次に定める期間（休学期間を除く）です。この年限内に進級又は卒業することができない者は学則の定めるところにより除籍されます。

- 一. 第1年次から第2年次まで 4年
- 二. 第3年次から第4年次まで 4年

4. 早期卒業

本学部に3年以上在学したものが、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第3年次終了をもって卒業を認める制度があります。

希望者は第2年次及び第3年次当初に、早期卒業を希望する旨を所定の様式により成績証明書を添えて教務課に申請して下さい。早期卒業が認められるためには次の要件が必要です。

- ① 成績評価数の95%以上（小数第一位切上げ）が「優」であり、かつ成績の評価で不合格科目がない事
- ② ①の要件が第1年次、第2年次及び第3年次の学年ごとに満たされている事
- ③ 卒業後直ちに教員免許状及び学芸員資格の取得及び水産専攻科入学（補充入学を含む。）を希望する者でない事

休学をした場合、学年途中又は学年終了時にこの要件を欠くに至った場合は、早期卒業の対象から除外します。第2年次において、この要件を満たす者には、前学期及び後学期にそれぞれ30単位までの履修登録を認めます。第2年次終了時点でこの要件及び履修規則第19条に定める第4年次への進級の要件を満たした場合には、第3年次において卒業論文及びセミナーの履修を認めます。

【学則第20条、第21条、第42条・履修規則第5条、第18条、第19条・早期卒業認定基準】

5. 卒業の時期

毎学年の3月下旬とします。

ただし、本学部に4年以上在学（休学期間を除く。）し、前学期開設授業科目の単位を取得することにより卒業要件を充足した場合には、前学期末（9月）に卒業となります。この場合、後学期末（3月）まで卒業を延期することはできませんので、該当する可能性のある学生は注意してください。

6. 学位の授与

卒業をした者には、学士（海洋科学）の学位を授与します。

【学則第42条、43条・学位規則第3条、第22条】

【2. 水産教員養成課程】

高等学校の教科「水産」の免許状取得を目的とする水産教員養成課程の学生は、所属する学科において定められた総合科目（国際法と日本国憲法は必修）及び基礎教育科目・専門科目の単位数（情報機器の操作に対応する科目2単位、職業指導1単位及び高等学校教諭1種免許状（水産）の取得に必要な教科に関する科目35単位を含む）の他に、教職に関する科目24単位を修得しなければなりません。

なお、具体的な免許取得の方法については、「教育職員免許」の項を参照の上、修得もれのないようにしてください。

1. 卒業要件

本学部を卒業するためには、総合科目、基礎教育科目及び専門科目のそれぞれについて、学科により次表の単位を修得しなければなりません。

また、水産教員養成課程の学生は、高等学校教諭一種免許状（水産）取得に必要な科目の単位を修得しなければなりません。

【海洋科学部 各学科】 各学科の卒業に必要な単位数

学 科 授業科目の区分		海洋環境 学 科	海洋生物 資源学科	食品生産 科 学 科	海洋政策 文化学科
		総合科目	全学共通科目	5	
文化学系	4				
哲学・科学論系	4				
社会科学系	4				
健康・スポーツ系	2				
外国語系	8				
基礎教育科目	全学共通科目	4			
	学部共通 科 目	必修	13		
		選択	8		
専門科目	基礎科目	14	12	22	8
	必修科目	9	9	14	11
	選択科目	*31	*33	*18	30(I群) * 5(II群)
教職に関する科目		24	24	24	24
卒業に必要な単位		130	130	130	130
備考： *印の単位には、職業指導の1単位を含む。 高等学校教諭一種免許状（水産）取得に必要な科目の単位を修得しなければならない。					

(注) 上記の表に示された、授業科目の区分ごとに定められた単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として算入できません。

高等学校教諭一種免許状（水産）取得の具体的な方法については、「教育職員免許」の項を参照の上、必要単位の修得もれのないようにしてください。

総合科目

(水産教員養成課程)

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
フレッシュマンセミナー	①集								①	5単位
海の科学	①								①	
船の科学	①								①	
海と生命	①								①	
海と文化	①								①	
計	5	0	0	0	0	0	0	0	5	

文学		2							2	4単位
人文地理学	2								2	
ヨーロッパ文化論		2							2	
現代ヨーロッパ論		2							2	
英米社会文化入門			2						2	
英米表象文化入門			2						2	
計	2	6	2	2	0	0	0	0	12	

哲学	2								2	4単位
哲学史			2						2	
心理学		2							2	
生命倫理		2							2	
生命文化		2							2	
科学史	2								2	
技術史			2						2	
計	4	2	4	4	0	0	0	0	14	

社会学		2							2	4単位
基礎法学	2								2	
国際法と日本国憲法		2							2	
経済学	2								2	
近現代史	2								2	
政治学		2							2	
計	6	6	0	0	0	0	0	0	12	

こころと身体	2								2	2単位
スポーツⅠ	1								1	
スポーツⅡ		1							1	
計	3	1	0	0	0	0	0	0	4	

Basic EnglishⅠ*	1								1	右 上 参 照
Basic EnglishⅡ*		1							1	
Practical EnglishⅠ	1								1	
Practical EnglishⅡ		1							1	
Effective EnglishⅠ*			1						1	
Effective EnglishⅡ*				1					1	
Interactive EnglishⅠ*			1						1	
Interactive EnglishⅡ*				1					1	
Intensive EnglishⅠ					1				1	
Intensive EnglishⅡ						1			1	
Intensive EnglishⅢ					1				1	
Intensive EnglishⅣ							1		1	
基礎ドイツ語Ⅰ	1								1	
基礎ドイツ語Ⅱ		1							1	
応用ドイツ語Ⅰ			1						1	
応用ドイツ語Ⅱ				1					1	
基礎フランス語Ⅰ	1								1	
基礎フランス語Ⅱ		1							1	
応用フランス語Ⅰ			1						1	
応用フランス語Ⅱ				1					1	
基礎ロシア語Ⅰ	1								1	
基礎ロシア語Ⅱ		1							1	
応用ロシア語Ⅰ			1						1	
応用ロシア語Ⅱ				1					1	
基礎中国語Ⅰ	1								1	
基礎中国語Ⅱ		1							1	
応用中国語Ⅰ			1						1	
応用中国語Ⅱ				1					1	
基礎スペイン語Ⅰ	1								1	
基礎スペイン語Ⅱ		1							1	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
応用スペイン語Ⅰ			1						1	8単位
応用スペイン語Ⅱ				1					1	
※韓国語Ⅰ	2	(2)							2	
※韓国語Ⅱ	2	(2)							2	
計	11	7	7	7	2	2	0	0	36	
卒業に必要な単位数(総合科目合計)									27単位	

基礎教育科目

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
情報リテラシー	②								②	4単位
日本語表現法	②	(2)							②	
計	4	0	0	0	0	0	0	0	4	

基礎微積分Ⅰ	②								②	13単位
基礎微積分Ⅱ	②								②	
生物学	②								②	
物理学	②								②	
化学	②								②	
水圏環境リテラシー学		①							①	
TOEIC入門	①	(①)							①	
TOEIC演習					①集				①	
計	11	1	0	0	0	1	0	0	13	

数学解析		2							2	8単位
数学概論		2							2	
情報処理概論Ⅰ			2	(2)					2	
情報処理概論Ⅱ			2	(2)					2	
統計学			2						2	
海洋統計学				2					2	
地学			2集						2	
●地学実験							1集		1	
計	0	4	8	2	0	0	1	0	15	
卒業に必要な単位数(基礎教育科目合計)									25単位	

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 *印 三級海技士(航海)の資格を取得する学生は、*印の科目の中から2科目以上、修得しなければならない。
 ※印の科目は、放送大学との単位互換協定により修得できる。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
 ()については、前学期開講分を履修し、単位を修得できなかった者を対象に開講する。

専門科目 [学部共通専門科目]

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
社会連携論Ⅰ▽					2				2	【注】
社会連携論Ⅱ▽						2			2	
水産行政論						2			2	
水圏環境リテラシー学実習				1集					1	
水圏環境コミュニケーション学実習						1集			1	
水泳実習				1集					1	
グローバルキャリア入門	2集								2	
海外派遣キャリア演習Ⅰ						2集			2	
海外派遣キャリア演習Ⅱ							2集		2	
計	0	2	1	1	2	7	0	2	15	

【注】の科目を修得した場合は、卒業に必要な単位に算入しない。
 ▽は、産学・地域連携推進機構が担当する。

専門科目 [海洋環境学科]

(水産教員養成課程)

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
魚類学 I		2							2	14単位
無脊椎動物学 I		2							2	
藻類学 I		2							2	
化学概論		2							2	
物理学概論 I		2							2	
△海洋科学入門			②						②	
分析化学			2						2	
有機化学			2						2	
物理学概論 II			2						2	
数理科学			2						2	
線形数学				2					2	
基礎流体力学			2						2	
基礎科目計	0	10	12	2	0	0	0	0	24	

必修科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
セミナー								①集	①	9単位
卒業論文								⑧集	⑧	
必修科目計	0	0	0	0	0	0	1	8	9	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
△海洋観測論			2						2	右表参照
魚類学 II			2						2	
無脊椎動物学 II			2						2	
藻類学 II			2						2	
△基礎生物海洋学				2					2	
陸水学				2					2	
鯨類・海産哺乳類学				2					2	
海洋生物学実験 I			2						2	
△臨海生物学実習			1集						1	
生化学				2					2	
海洋循環化学					2				2	
分析化学実験				2					2	
物理数学			2						2	
△基礎海洋学			2						2	
海洋流体力学				2					2	
△資源情報解析学				2					2	
△基礎物理海洋学				2					2	
応用解析				2					2	
環境物理学				2					2	
環境物理学実験			2						2	
△機械システム工学				2					2	
△応用情報テクノロジー I *				2					2	
海洋計測学 I *				2					2	
△電気電子工学 *				2					2	
△海上安全工学 I *				2					2	
△環境テクノロジー実習			1集						1	
△海洋環境政策論				2					2	
△海事法規 *				2					2	
△海洋学実習 I			1集						1	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
△乗船漁業実習 I *				1集					1	31単位
浮遊生物学					2				2	
個体群生態学					2				2	
△水産資源動態学						2			2	
△海洋資源生態学						2			2	
海洋生物学実験 II					2				2	
海洋生物学実験 III						2			2	
△個体群生態学演習						1			1	
△基礎化学海洋学				2					2	
△海洋天然物化学					2				2	
△環境微生物化学					2				2	
海洋機能材料学						2			2	
△海洋バイオテクノロジー						2			2	
△水圏環境化学実験					2				2	
△海洋物理学					2				2	
△海洋情報解析学					2				2	
△環境測定学					2				2	
△水産海洋物理学 *					2				2	
数値解析					2				2	
△大気科学					2				2	
△沿岸海洋学						2			2	
環境システム科学実験						2			2	
△海洋環境機械学					2				2	
△環境エネルギー工学					2				2	
△海上安全工学 II					2				2	
△応用情報テクノロジー II					2				2	
海洋計測学 II					2				2	
△先端海洋テクノロジー					2				2	
△海岸環境工学						2			2	
環境テクノロジー実験 I					2				2	
環境テクノロジー実験 II						2			2	
△海洋法特論						2			2	
職業指導						1			1	
△海洋学実習 II						1集			1	
△海洋環境実務実習						1集			1	
△乗船漁業実習 II *						3集			3	
△海洋学実習 III							1集		1	
△乗船漁業実習 III *							3集		3	
△●乗船漁業実習 IV *								9集	9	
選択科目計	0	0	23	33	42	25	4	9	136	
卒業に必要な単位数 (専門科目合計)										54単位

教職に関する科目										24単位
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位数に含まれない。
 △印の科目は、「教科に関する科目」(水産)に対応する本学の授業科目を表す。
 *印 三級海技士(航海)の資格を取得する学生は、*印の科目を修得しなければならない。

※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位数を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目 11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位数(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目 12単位以上
 4. 教職に関する科目(必修) 7単位以上
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位数には算入しない。

※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位数を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。(教職に関する科目(必修) 14単位以上を含む。)
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位数には算入しない。

卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

専門科目 [海洋生物資源学科]

(水産教員養成課程)

授業科目	年次及び単位数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
△ 海洋植物学		2							2	12単位
△ 海洋動物学		2							2	
△ 海洋生物資源学入門				2					2	
△ 水族生理学			2						2	
分子生物学			2						2	
生物化学概論			2						2	
集団生物学			2						2	
△ 動物生態学			2						2	
△ 海洋生物学実習			1集						1	
基礎科目計	0	4	7	6	0	0	0	0	17	

必修科目	年次及び単位数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
セミナー								①集	①	9単位
卒業論文								⑧集	⑧	
必修科目計	0	0	0	0	0	0	1	8	9	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
△ 動物発生学			2						2	右表参照
動物遺伝学			2						2	
△ 動物組織学			2						2	
△ 動物組織学実験			1						1	
藻類生態学			2						2	
△ 遺伝子工学			2						2	
微生物学概論			2						2	
陸水学			2						2	
△ 漁法学			2						2	
魚群行動学			2						2	
△ 鯨類資源論			2						2	
△ 漁業科学実習			1集						1	
△ 漁業科学演習					2				2	
漁業科学実験				2					2	
△ 生産システム学				2					2	
△ 漁具学			2						2	
△ 漁業解析学			2						2	
△ 生物資源統計学				2					2	
△ 生物資源解析学				2					2	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要 単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
△ 生物資源解析学演習					1				1	33単位
△ 生物資源解析学実習				1集					1	
△ 応用保全生物学				2					2	
集団生物学実習				1集					1	
△ 保全増殖学					2				2	
△ 保全増殖学演習					1				1	
△ 動物生態学実習				1集					1	
△ 水族生理学実験				1					1	
△ 水族薬理学					2				2	
△ 応用藻類学					2				2	
△ 応用藻類学実習					1集				1	
△ 応用微生物学				2					2	
△ 応用微生物学実験				1					1	
△ 水族養殖学				2					2	
△ 水族育種学					2				2	
△ 水族養殖・育種学実習 I					1集				1	
遺伝子工学実験					1集				1	
△ 水族病理学				2					2	
△ 水族栄養学				2					2	
△ 水族栄養学実験				1集					1	
△ 潜水調査実習					1集				1	
△ 海洋生物資源実務実習					1集				1	
職業指導					1				1	
△ 公衆衛生学				2					2	
△ 食品衛生学				2					2	
△ 食品加工学				2					2	
△ 水族養殖・育種学実習 II							1集		1	
△ 水族病理学実習							1集		1	
選択科目計	0	0	11	11	33	19	2	0	76	
卒業に必要な単位数 (専門科目合計)									54単位	

教職に関する科目	24単位
----------	------

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 △印の科目は、「教科に関する科目」(水産)に対応する本学の授業科目を表す。

※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目8単位以上
 4. 教職に関する科目(必修)7単位以上
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。(教職に関する科目(必修)14単位以上を含む。)
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

専門科目 [食品生産科学科]

(水産教員養成課程)

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
△ 海洋植物学		2							2	22単位
△ 海洋動物学		2							2	
有機化学Ⅰ★		2							2	
生産物理学		②							②	
△ 食品生産科学入門実験★		①							①	
化学演習		①							①	
基礎分子生物学				2					2	
生物化学Ⅰ★			2						2	
生物化学Ⅱ★			2						2	
物理化学			2						2	
有機化学Ⅱ★			2						2	
微生物学★			②						②	
化学実験			②						②	
微生物学実験★				①					①	
物理学実験				①					①	
基礎科目計	0	10	10	6	0	0	0	0	26	

△ 食品化学★				②					②	14単位
食品工学★			②						②	
△ 食品生産学実習★					①集				①	
セミナー							①集		①	
卒業論文							⑧集		⑧	
必修科目計	0	0	2	2	1	0	1	8	14	

△ 食品生産システム調査				1集					1	右表参照
△ 食品微生物学★				2					2	
衛生微生物学★					2				2	
△ 海洋バイオテクノロジー						2			2	
機器分析概論					2				2	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
技術開発と工業所有権						2			2	18単位
△ 公衆衛生学★					2				2	
△ 資源利用化学★					2				2	
△ 食品衛生学★					2				2	
△ 食品加工学★					2				2	
△ 食品機械装置工学					2				2	
△ 食品殺菌工学★						2			2	
△ 食品ゼロエミッション通論						2			2	
△ 食品貯蔵学★						2			2	
△ 食品分析学★					2				2	
食品包装論★						2			2	
△ 食品保全化学★					2				2	
△ 食品冷凍学★						2			2	
△ 食品レオロジー					2				2	
食文化史					2集				2	
食品化学基礎実験★					1				1	
食品化学実験★						2			2	
△ 食品工学実験					2				2	
食品微生物学実験					1				1	
△ 食品工学演習Ⅰ					1				1	
△ 食品工学演習Ⅱ						1			1	
食と健康の科学					2				2	
食品科学実務実習						1集			1	
●ヘルスフード科学海外研修							1集		1	
職業指導							1		1	
選択科目計	0	0	0	3	27	22	0	0	52	

卒業に必要な単位数 (専門科目合計)	54単位
--------------------	------

教職に関する科目	24単位
----------	------

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 △印の科目は、「教科に関する科目」(水産)に対応する本学の授業科目を表す。
 ★印 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得する学生は★印の科目を修得しなければならない。
 ●印の科目は、卒業に必要な単位数に含まれない。

※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位数を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目20単位以上(うち、必修科目8単位以上を含む。)
 4. 教職に関する科目(必修)7単位以上
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位数を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。(教職に関する科目(必修)14単位以上を含む。)
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

専門科目 [海洋政策文化学科]

(水産教員養成課程)

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数	
	1年		2年		3年		4年			計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	②								②	8単位
△海洋政策文化入門									②	
△海洋政策文化研究法				②					②	
△日本経済論		2							2	
△資源利用関係論				2					2	
△水産経済学			2						2	
△多文化環境論			2						2	
基礎科目計	2	2	4	4	0	0	0	0	12	

必修科目					①				①	11単位
△海洋政策文化セミナーⅠ					①				①	
△海洋政策文化セミナーⅡ						①			①	
△セミナー							①集		①	
△卒業論文								⑧集	⑧	
必修科目計	0	0	0	0	1	1	1	8	11	

選択科目Ⅰ群	2								2	右表参照
△食料経済論									2	
△水産調査				1集					1	
△海事法規			2						2	
△海洋環境政策論			2						2	
△海洋産業論				2					2	
△水産物流通論			2						2	
△食品マーケティング論				2					2	
△沿岸地域社会調査					1集				1	
△海洋法総論			2						2	
△地域政策論				2					2	
△海洋性レクリエーション論			2						2	
△コミュニケーション論			2						2	
△環境と教育				2					2	
△国際関係論				2					2	
△海と健康				2					2	
△マリンスポーツ実習				1集					1	
△資源生物学実験				1集					1	
△鯨類資源論				2					2	
△国際文化思想論			2						2	
△海洋文化史			2						2	
△海洋政策文化特別講義			1集						1	
△海洋政策実習					1集				1	
△漁村フィールドワーク実習					1集				1	
△健康・スポーツ科学演習						1			1	
△海洋レジャー経済論						2			2	
△水産技術経済論					2				2	
△実践的基礎文学				2					2	
△日本社会理解						2			2	
△生命論					2				2	
△水産国際関係論					2				2	
△沿岸域利用論					2				2	
△科学技術論					2				2	
△水産経済史					2				2	
△地域環境論					2				2	

授業科目	年次及び単位数								卒業必要単位数		
	1年		2年		3年		4年			計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
選択科目Ⅰ群						2			2	30単位	
△漁業管理論							2		2		
△資源経済論							2		2		
△海洋利用制度論						2			2		
△国際関係論特論						2			2		
△海洋法特論							2		2		
△スポーツ生理学						2			2		
△水圏環境コミュニケーション学							2		2		
△応用哲学							2		2		
△生命論の諸問題						2			2		
△科学技術論の諸問題						2			2		
△応用哲学の諸問題						2			2		
△環境文学						2			2		
△メディア文化論						2			2		
△海洋文学							2		2		
△海洋文明論						2			2		
△生物資源統計学						2			2		
△生物資源解析学						2			2		
△環境思想						2			2		
△国際協力論							2集		2		
△水産政策論							2		2		
△海洋政策文化インターンシップ								1集	1		
選択科目Ⅰ群計	2	0	15	21	36	27	0	0	101		
選択科目Ⅱ群											5単位
△環境物理学						2			2		
△物理学概論Ⅰ		2							2		
△環境物理学実験			2						2		
△有機化学Ⅰ		2							2		
△生物化学Ⅰ			2						2		
△生物化学Ⅱ				2					2		
△基礎生物海洋学				2					2		
△漁法学			2						2		
△水族栄養学					2				2		
△水族栄養学実験					1集				1		
△物理化学			2						2		
△化学実験			2						2		
△鯨類・海産哺乳類学				2					2		
△魚群行動学				2					2		
△浮遊生物学					2				2		
△生物化学概論				2					2		
△微生物学概論				2					2		
△陸水学					2				2		
△会計学						2			2		
△職業指導							1		1		
選択科目Ⅱ群計	0	4	14	12	7	1	0	0	38		
選択科目計	2	4	29	33	43	28	0	0	139		
卒業に必要な単位数(選択科目)										35単位	
卒業に必要な単位数(専門科目合計)										54単位	
教職に関する科目										24単位	

○印の数字は、必修科目の単位数を表す。集印は集中授業を表す。
 △印の科目は、「教科に関する科目」(水産)に対応する本学の授業科目を表す。

※3年次進級要件
 第2年次末までに、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。
 1. 総合科目11単位以上(「フレッシュマンセミナー」を含む。)
 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位)
 3. 専門科目の基礎科目6単位以上(「海洋政策文化入門」を含む。)
 4. 教職に関する科目(必修)7単位以上
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

※4年次進級要件
 第3年次末までに、総合科目外国語系の単位8単位以上、基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位、専門科目の基礎科目「海洋政策文化研究法」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。(教職に関する科目(必修)14単位以上を含む。)
 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。

卒業論文・セミナー履修要件
 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。

2. 進級要件

第3年次及び第4年次へ進級するためには次の要件を満たさなければなりません。
 なお、年度途中での進級はありません。

(1) 第3年次への進級要件

第3年次へ進級するためには、第2年次終了時までには、学科により定められた次表の単位を含み、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければなりません。

各学科の**第3年次**への**進級**に必要な単位数 【海洋科学部 水産教員養成課程】

授業科目の区分		学 科			
		海洋環境 学科	海洋生物 資源学科	食品生産 科学科	海洋政策 文化学科
総合 科目	全学共通科目	11単位 フレッシュマンセミナー(1単位)を含む			
	文化学系				
	哲学・科学論系				
	社会科学系				
	健康・スポーツ系				
	外国語系				
総合科目 計		11単位			
基礎 教育	全学共通科目	4単位			
	学部共通 科目	必修	12単位		
		選択	8単位		
基礎教育科目 計		24単位			
専門 科目	基礎科目	12単位	8単位	20単位 (※1)	6単位 (※2)
	必修科目				
	選択科目				
専門科目 計		12単位	8単位	20単位	6単位
教職に関する科目 (必修)		7単位			
教職に関する科目 計		7単位			
その他 「総合科目」、「専門科目」、 「教職に関する科目」 から修得		16単位	20単位	8単位	22単位
合 計 (第3年次への進級 に必要な単位数)		70単位			

※1；食品生産科学科の専門科目（基礎科目）；基礎科目のうち必修科目8単位以上を含むこと。

※2；海洋政策文化学科の専門科目（基礎科目）；「海洋政策文化入門」を含むこと。

(2) 第4年次への進級要件

第4年次へ進級するためには、第3年次終了時までには、総合科目外国語系の単位8単位以上、基礎教育科目の「TOEIC演習」及び海洋政策文化学科においては専門科目の基礎科目「海洋政策文化研究法」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければなりません。

※注意：第4年次への進級要件の一つである「TOEIC演習」の単位修得には、TOEIC600点以上のスコアが必要となります。（単位修得の条件は「大学以外の教育施設等における学修」のページを参照してください）

(3) 卒業に必要な単位には各授業科目区分ごとの卒業要件単位を超えて修得した単位は算入されません。したがって総取得単位が進級基準単位数を上回っていても進級基準に達しないということもありますので、十分注意してください。

3. 修業年限及び在学年限

(1) 修業年限

所定の修業年限は4年です。

(2) 在学年限

最長在学年限は次に定める期間（休学期間を除く）です。この年限内に進級又は卒業することができない者は学則の定めるところにより除籍されます

- 一. 第1年次から第2年次まで 4年
- 二. 第3年次から第4年次まで 4年

4. 卒業の時期

毎学年の3月下旬とします。

ただし、本学部で4年以上在学（休学期間を除く。）し、前学期開設授業科目の単位を取得することにより卒業要件を充足した場合には、前学期末（9月）に卒業となります。この場合、後学期末（3月）まで卒業を延期することはできませんので、該当する可能性のある学生は注意してください。

5. 学位の授与

卒業をした者には、学士（海洋科学）の学位を授与します。

【学則第42条、43条・学位規則第3条、第22条】

〔11〕 編入学者の履修

食品生産科学科においては、高等専門学校等を卒業した者等について、第3年次への編入学を認めています。編入学者の卒業の要件、授業科目等は、編入学した年次の在学者と同じです。

1. 編入学後の修業年限、卒業資格及び学位

卒業には学部に2年以上在学し、卒業に必要な124単位を修得しなければなりません。

なお、卒業をした者には、学士（海洋科学）の学位を授与します。

2. 編入学後の履修

食品生産科学科で定めるカリキュラムに従って卒業要件を満たすよう単位を修得しなければなりません。

なお、編入学の際に認定される単位は下表のとおりです。「認定される単位数」の総合科目31単位、また基礎教育科目24単位及び他学部・他学科等開講科目6単位は修得したものとみなします。

「認定できる単位数」の専門科目「基礎科目」18単位は単位認定の最高基準を定めたもので、各人に対する認定は出身学校における履修状況等を考慮して行います。

履修単位の認定基準

授業科目区分		認定される 単位数	認定できる 単位数	卒業に必要な 単位数
総合科目	全学共通科目	5		5
	文化学系	4		4
	哲学・科学論系	4		4
	社会科学系	4		4
	健康・スポーツ系	2		2
	外国語系	8		8
	自由選択	4		4
基礎教育 科目	全学共通科目	4		4
	学部共通 科目	必修	12	13 ※
		選択	8	8
専門科目	基礎科目		18	22
	必修科目			14
	選択科目			26
	他学部・他学科 等開講科目	6		6
合 計		61	18	124

※学部共通科目必修「TOEIC演習」（1単位）を3年次末までに修得する必要がある。

[12] 再 入 学

本学を学則第52条の規定により退学した者及び学則第54条第4号の規定により除籍された者が再入学を願い出たときは、選考の上、これを許可することがあります。

1. 入学資格

再入学できる者は、退学または除籍となった日から3年以内である者。

2. 入学の時期

再入学の時期は、学年または学期の始めになります。詳細は教務課総務係に問い合わせてください。

[13] 外国人留学生の授業科目履修上の特例

授業科目履修上の特例として、外国人留学生（大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学部に入学した外国人留学生）のために次の「1」のとおり、日本語科目、日本事情科目及び日本海洋水産事情の授業科目が開講されています。

外国人留学生は、履修規則第4条の規定にかかわらず、次の「2」及び「3」のとおりこの科目の履修をもって履修規則に定める科目に代えることができます。

1 日本語科目等の開講年次及び単位数

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数				計
	1年次	2年次	3年次	4年次	
日 本 語 科 目					
総合日本語Ⅰ	2				2
総合日本語Ⅱ	2				2
総合日本語Ⅲ	2				2
総合日本語Ⅳ	2				2
日本語演習Ⅰ		1			1
日本語演習Ⅱ		1			1
論文のための日本語Ⅰ			1		1
論文のための日本語Ⅱ			1		1
日 本 事 情 科 目					
日本事情Ⅰ	2				2
日本事情Ⅱ	2				2
日本事情Ⅲ		2			2
日本事情Ⅳ		2			2
日 本 海 洋 水 産 事 情 科 目					
日本水産事情		2			2
日本海洋事情		2			2
合 計	12	10	2		24

2 総合科目

総 合 科 目	外 国 人 留 学 生 代 替 科 目	
文化学系	4	日本事情科目 8
社会科学系	4	
外国語系	8	日本語科目 8
自由選択	4	日本語科目 4

3 専門科目

専 門 科 目	外 国 人 留 学 生 代 替 科 目	
専門科目の選択科目	4	日本水産事情 2
		日本海洋事情 2

〔14〕 学部学生の大学院授業科目の先行履修

本学の学部4年次に在籍する学生は、本学大学院海洋科学技術研究科博士前期課程(以下「大学院」という。)の授業科目を先行して履修(以下「先行履修」という。)することができます。

- ① 次の各項に該当する学生が、先行履修することができます。
 - (1) 先行履修させることが教育上有益であり卒業論文等の修学に支障がないと指導教員が認めた学生
 - (2) 先行履修を希望する大学院授業科目の担当教員が履修可能と認め、履修の内諾を得た学生
- ② 履修申請手続き
先行履修許可願を所定の期日までに学務部教務課大学院係へ提出して下さい。
- ③ 履修申請単位数
先行履修できる単位数は、**6単位以内**となります。
- ④ 修得した単位
学部の成績表には記載されますが、**学部の卒業に必要な単位には算入しない**ので注意してください。
- ⑤ 大学院での単位認定
先行履修により修得した単位は、学生が大学院に入学し、所定の手続きを経た場合に、大学院において修得したものとみなし、単位認定されます。
なお、授業科目の成績評価は、先行履修により得た成績評価で記載されます。

学 修 の 手 引 き

(Ⅱ. 本学以外の学修)

- 〔1〕放送大学の授業科目履修
- 〔2〕大学以外の教育施設等における学修
- 〔3〕他大学の公開授業科目の履修
- 〔4〕既修得単位の認定

〔1〕放送大学の授業科目履修

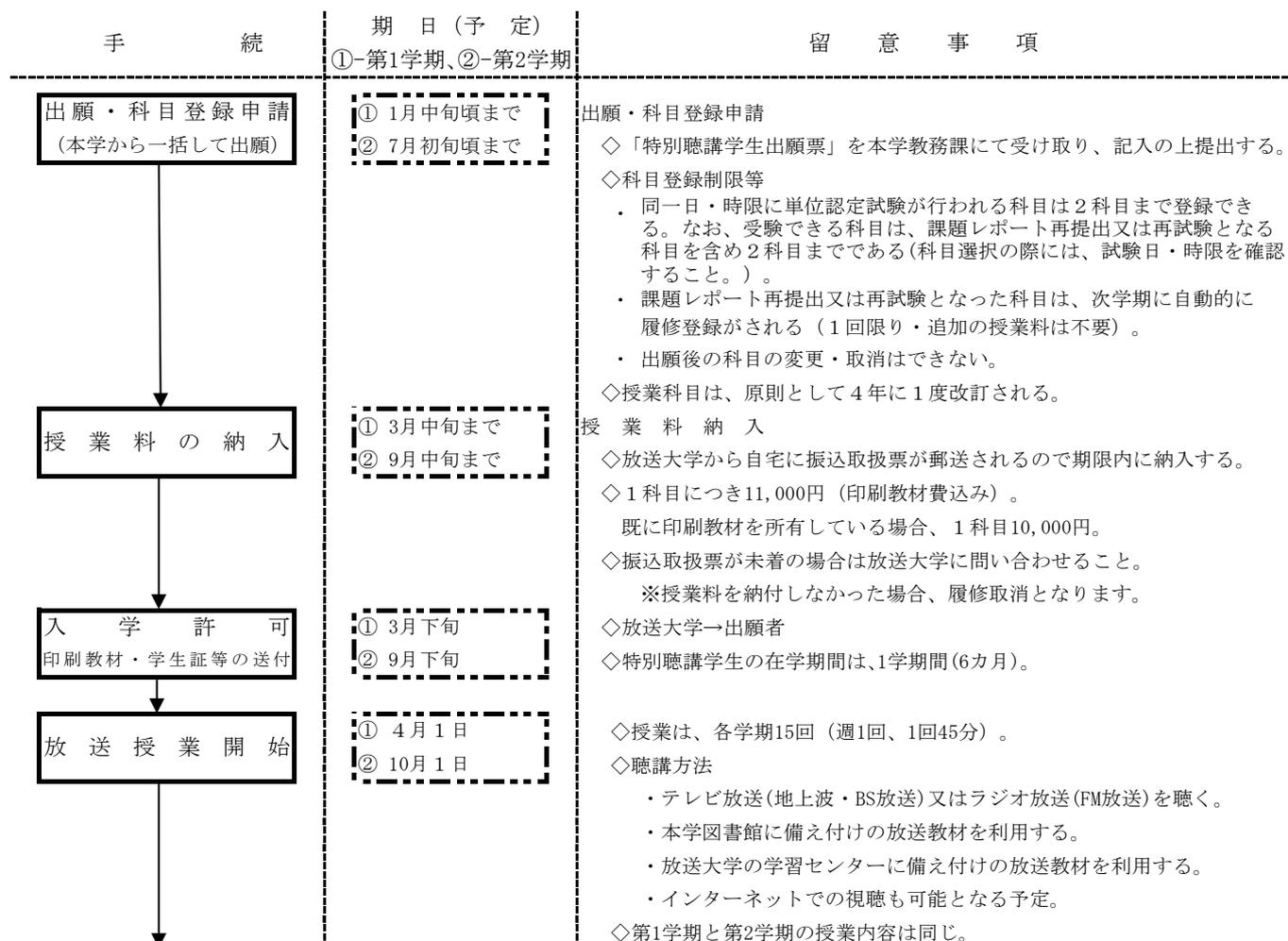
放送大学の「特別聴講学生」となって講義を受講し、単位を修得すれば、本学部で指定した科目に限り、4単位まで卒業に必要な単位として認定されます（本学を通して申し込む必要があります）。詳細は以下のとおりです。

（1）区分・指定科目・単位・時間等

区 分	本学での科目名	放送大学での指定科目	単位	放 送 時 間
外国語科目	韓国語Ⅰ	韓国語Ⅰ	2	授業科目案内 または放送大学 ホームページを 参照
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅱ	2	

- （2）履修期間 半年間（第一学期…4月1日～9月30日、第二学期…10月1日～3月31日）
（第一学期と第二学期の授業内容は同じ）
- （3）受講資格 1～3年次生
- （4）授業料 1科目 11,000円（放送大学の定めるところによります。）
- （5）申込方法 教務課窓口で出願用紙に記入し提出してください。
- （6）受付期間 7月及び1月（放送大学のスケジュールが決定次第、掲示によりお知らせします。）
- （7）その他 指定科目・授業内容等は年度により変更もあるので、掲示や配付資料等で確認してください。
試験に合格しなかった科目又は課題レポート再提出となった科目は、次学期に自動的に履修登録されます。（1回限り・追加の授業料は不要）。履修登録を削除したい場合は、別途定める所定の期間内に申し出てください。詳細は掲示により周知します。

○ 学修システム（出願から単位認定まで）



手 続	期 日 ①-第1学期、②-第2学期	留 意 事 項
通信指導課題（レポート課題）の送付	① 5月上旬 ② 11月上旬	◇放送大学→履修者 ◇通信指導課題は、各学期第8回までの放送授業及びそれに対応する印刷教材の範囲から出願される。
課題レポートの提出	① 6月上旬まで ② 12月上旬まで	◇履修者→放送大学 ◇提出期限までに放送大学に 必着 のこと。 期限後に到着しても未提出扱いとなるので注意すること。
課題レポートの返送	① 7月中旬 ② 1月中旬	◇放送大学→履修者
通信指導可否通知 単位認定試験通知（受験票）	① 7月中旬 ② 1月中旬	◇通信指導の可否結果は、「単位認定試験通知（受験票）」により通知する。 ◇通信指導に合格しなかった科目は、課題レポート再提出科目となり、次学期に自動的に履修登録がされる（1回限り・追加の授業料は不要）。 ◇課題レポートの再提出については、課題が次学期に放送大学から自動的に送付されるので、手続き不要。
放 送 授 業 終 了	① 7月下旬 ② 1月下旬	
単 位 認 定 試 験	① 7月下旬 ② 1月下旬	◇単位認定試験場は、原則として所属学習センターまたはサテライトスペース。 ◇本学の学生（受験者）が40人を超える場合は、本学で実施。 ◇試験時間は1科目50分。1時限（100分）につき、前半50分、後半50分に区分し2科目まで受験できる。 ◇試験に合格しなかった科目は、再試験科目となるため次学期に自動的に履修登録される（1回限り・追加の授業料は不要）。 ◇再試験については自動的に再試験受験資格者となり、次学期に受験票が送付されるので、手続き不要（課題レポート提出も不要）。 ◇課題レポート再提出又は再試験となる科目と新規登録予定科目の試験日程に注意する。
成 績 通 知	① 9月上旬 ② 3月中旬	◇放送大学→履修者、本学教務課
本学での単位認定	① 10月下旬まで ② 3月下旬まで	◇所定の方法により、本学教務課において学業成績証明書に評価を記載する。

注：放送大学の授業（単位認定試験）と本学の授業（講義・実験・実習・試験等）が日程上重複することがある。
その場合、各自においていずれかを選択しなければならないので、充分留意の上、出願すること。

【放送大学単位互換取扱要領第4、第7、第8、第10、第11】

〔2〕 大学以外の教育施設等における学修

本学部では、文部科学大臣が定める学修を本学部における授業科目の履修とみなして、次のとおり単位を与えることとしています。

1. 文部科学大臣が定める学修

認定する資格	授業科目	単位数	成績の評価及び評価点	
実用英語技能検定 1級 又は TOEFL (PBT) 600点以上 又は TOEFL (CBT) 250点以上 又は TOEFL (iBT) 100点以上	総合科目	Basic English I	1	優(100点)
		Basic English II	1	
		Practical English I	1	
		Practical English II	1	
		Effective English I	1	
		Effective English II	1	
実用英語技能検定 準1級 又は TOEFL (PBT) 500点～599点又は TOEFL (CBT) 173点～249点又は TOEFL (iBT) 61点～99点	総合科目	Basic English I	1	
		Basic English II	1	
TOEIC 600点以上 又は TOEFL (PBT) 521点以上 又は TOEFL (CBT) 192点以上 又は TOEFL (iBT) 69点以上 又は IELTS バンド5.5 以上	基礎教育科目	TOEIC入門	1	
		TOEIC演習	1	

※「TOEIC演習」を認定する資格のうち「TOEIC 600点以上」は、学則第36条の規定にかかわらず、本学入学後に受験したTOEIC（公開テスト又はIPテスト）のスコアに限るものとする。

2. 単位認定の申請

単位の認定を受けようとする者は、「単位認定願（様式は教務課窓口にあります。）」にスコアカード等の証明書を添えて、教務課に提出してください。

申請期限

- (1) 入学前に資格を取得した場合…第1年次前期の履修登録開始の前日まで
- (2) 在学中に資格を取得した場合…取得後、次学期の履修登録開始の前日まで

3. 単位の認定

成績証明書には「優」の表示がされます。

【大学以外の学修取扱要領第2、第3、第4、第5】

〔3〕 他大学の公開授業科目の履修

学生は、本学部の授業に差し支えない範囲で、他の大学で開講する公開授業科目を履修することができます。

1. 履修の申請

公開授業科目を履修しようとする者は、あらかじめ学生支援教員の推薦を得た「推薦依頼書」に特別聴講学生願書を添えて教務課に提出してください。

2. 単位の認定

前項の願い出により履修を許可された科目について、単位認定を希望する場合は、審査のうえ他学部・他学科等開講科目として単位を認定します。

成績証明書には優・良・可といった成績評価は付与されず、「認定」の表示がされます。

【公開授業科目取扱要領第4、第5、第6】

〔4〕 既修得単位の認定

本学部に入学する前に、大学又は短期大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）及び短期大学又は高等専門学校の特攻科において修得した単位（以下「既修得単位」という。）は、30単位を超えない範囲で次のとおり認定されることがあります。

1. 認定できる単位

別表

授業科目の区分		卒業に必要な単位数	既修得の単位として認定する単位数の上限
総合科目	文化学系	4	4
	哲学・科学論系	4	4
	社会科学系	4	4
	健康・スポーツ系	2	2
	外国語系	8	8
	計	22	22
専門科目		-	8
合計		-	30

2. 単位認定の申請

既修得単位の認定を受けようとする者は、「既修得単位認定願」に成績証明書及び授業内容を明らかにする資料を添えて教務課に提出してください。

申請期限：第1年次前期の履修登録開始の前日まで

3. 単位の認定

成績証明書には優・良・可といった成績評価は付与されず、「認定」の表示がされます。

【既修得単位取扱要領】

学 修 の 手 引 き

(Ⅲ. 資格取得に関する学修〔1〕)

〔1〕. 法 定 資 格

- 〔1〕 教育職員免許
- 〔2〕 学芸員
- 〔3〕 技術士補
- 〔4〕 海技士の免許
- 〔5〕 第一級海上特殊無線技士
- 〔6〕 船舶衛生管理者
- 〔7〕 食品衛生監視員および食品衛生管理者

〔1〕 教育職員免許

1. 教育職員免許状の取得方法

教育職員免許状は、教育職員免許法・同法施行規則に基づき本学部の各学科、課程に認定されている免許教科ごとに取得することができます。

教育職員免許状を取得しようとする学生は、まず取得しようとする免許教科の種類に応じて関係法規に定められている修得すべき科目・単位数の基準（最低基準）により、本学部における関連規定（教科及び教職に関する科目の指定）等を参照し、教育職員免許状取得に必要な単位を修得するよう履修計画をたてる必要があります。

在学中に教育職員免許の資格を取得した学生は、次の方法により教育職員免許状を取得できます。

一括事前申請

資格要件を満たす学生で4年次の4月に一括事前申請の希望届を提出し、所定の申請手数料を納付した学生については、教務課が一括して東京都教育委員会に申請します。この場合は、卒業と同時に教育職員免許状の授与を受けることができます（卒業後に教職に就く予定がある場合は、必ず申請して下さい）。

個人申請

大学の一括事前申請をしなかった学生は、卒業後に個人で居住地、又は就職先の学校のある都道府県教育委員会に直接申請を行うことになります。

2. 学部、専攻科及び大学院において取得できる教育職員免許状の種類

（平成16年度学部入学者から適用）

学 部 等	学科・専攻等	免許状の種類	教 科 科
海 洋 科 学 部	海 洋 環 境 学 科 海 洋 生 物 資 源 学 科 食 品 生 産 科 学 科 海 洋 政 策 文 化 学 科 水 産 教 員 養 成 課 程	高等学校教諭1種免許状	理科、水産
水 産 専 攻 科		高等学校教諭専修免許状	水 産
大 学 院 海 洋 科 学 技 術 研 究 科	海 洋 生 命 科 学 専 攻	高等学校教諭専修免許状	理科、水産
	食 機 能 保 全 科 学 専 攻		
	海 洋 環 境 保 全 学 専 攻		理 科
	海 洋 管 理 政 策 学 専 攻		理 科
	海 洋 シ ス テ ム 工 学 専 攻		理 科、水 産
	食 品 流 通 安 全 管 理 専 攻		理 科

（注）高等学校教諭専修免許状については、海洋科学部を卒業後、専攻科又は大学院を修了した場合、取得が可能となります。

3. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格及び科目・単位数の基準

教育職員免許法・同法施行規則から、本学部学生に適用される部分を参照、解説すれば次のとおりです。

所要資格		基礎資格	文部科学省令 で定める科目 (単位)	教職 に関する科目 (単位)	教科 に関する科目 (単位)	教科又は教職 に関する科目 (単位)
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位 を有する	8	24	36	24
		大学の専攻科に 1年以上在学し30 単位以上を修得				
	1種免許状	学士の学位 を有する	8	24	36	

4. 文部科学省令で定める科目・教職に関する科目・教科に関する科目

文部科学省令で定める科目（8単位）、教職に関する科目（24単位）及び教科に関する科目（36単位）は、教育職員免許法施行規則により、免許教科・免許の種類ごとに次のとおり規定されています。

この規定科目に対応する本学の授業科目で文部科学省令で定める科目、教科に関する科目、教職に関する科目は次のとおりです。

(1) 文部科学省令で定める科目の修得規定科目

文部科学省令で定める科目の区分（規定科目）	対応する本学部の授業科目	最低修得単位数
日本国憲法	国際法と日本国憲法	2単位
体育	スポーツⅠ・スポーツⅡ	2単位
外国語コミュニケーション	「総合科目・外国語系」の科目 (放送大学の韓国語入門Ⅰ・韓国語入門Ⅱは除く。)	2単位
情報機器の操作	情報リテラシー	2単位

(2) 教職に関する科目の修得規定科目

	教職専門科目の区分（規定科目）	対応する本学部の授業科目(学年)	単位	最低修得単位数		
第二欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容 (研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教職概論	2	2	24 単位
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理 教育思想史	1 2	3	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	教育心理学	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	生涯学習社会論	1	1	
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・特別活動の指導法	特別活動	1	1	
		・各教科の指導法 (各教科の指導法は、取得する免許教科ごとに単位を修得すること。)	水産科教育法Ⅰ	2	4	
			水産科教育法Ⅱ	2		
			理科教育法Ⅰ 理科教育法Ⅱ	2 2	4	
	・教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)	教育工学	2	2		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導	2	2		
	・進路指導の理論及び方法	(進路指導)				
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2	2		
第五欄	教職実践演習	教職実践演習(高等学校)	2	2	2	
第六欄	教育実習	・事前及び事後の指導	教育実習指導	1	1	
		・教育実習	教育実習	2	2	3

(注) 教育実習履修要件：

2年次終了時点で3年次への進級の要件を満たしていること、および教職に関する科目を7単位以上修得していること。ただし、水産教員養成課程の学生については、教職に関する科目7単位は、進級の要件に含まれる。また、2年次の指定の時期に、教員免許状取得の動機などについてしかるべきレポート(詳細は担当教員が指定)を提出すること(期限までに提出のないときは履修を認めない)。

(3) 教科に関する科目の修得規定科目

免許教科	免許種類	教科に関する科目	単位	教科に関する科目	単位	最低修得単位数
理科	1種免許状	物理学	2	地学	2	36単位
		化学	2	上記科目の実験(コンピュータ活用を含む)	1	
		生物学	2	その他理科の関係科目	27	
水産	1種免許状	水産の関係科目	35			36単位
		職業指導	1			

5. 教科に関する科目に対応する本学部の開講科目

海 洋 環 境 学 科

○ 免許教科 水産

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
水産の 関係 科目	水圏環境リテラシー学	1年	①	環境微生物化学	3年	2	35 単位
	海洋科学入門	2年	②	海洋バイオテクノロジー	3年	2	
	海洋観測論	2年	2	水圏環境化学実験	3年	2	
	基礎生物海洋学	2年	2	海洋物理学	3年	2	
	臨海生物学実習	2年	1	海洋情報解析学	3年	2	
	基礎海洋学	2年	2	環境測定学	3年	2	
	資源情報解析学	2年	2	水産海洋物理学	3年	2	
	基礎物理海洋学	2年	2	大気科学	3年	2	
	機械システム工学	2年	2	沿岸海洋学	3年	2	
	応用情報テクノロジーI	2年	2	海洋環境機械学	3年	2	
	電気電子工学	2年	2	環境エネルギー工学	3年	2	
	海上安全工学I	2年	2	海上安全工学II	3年	2	
	環境テクノロジー実習	2年	1	応用情報テクノロジーII	3年	2	
	海洋環境政策論	2年	2	先端海洋テクノロジー	3年	2	
	海事法規	2年	2	海岸環境工学	3年	2	
	海洋学実習I	2年	1	海洋法特論	3年	2	
	乗船漁業実習I	2年	1	海洋学実習II	3年	1	
	水産資源動態学	3年	2	海洋環境実務実習	3年	1	
	海洋資源生態学	3年	2	乗船漁業実習II	3年	3	
	個体群生態学演習	3年	1	海洋学実習III	4年	1	
基礎化学海洋学	2年	2	乗船漁業実習III	4年	3		
海洋天然物化学	3年	2	乗船漁業実習IV	4年	9		
職業指導	※職業指導	3年	1				1単位
合 計							36単位

※水産の免許を取得するためには「職業指導」は必修。

○ 免許教科 理科

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数	
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位		
物理学	物理学	1年	②	海洋流体力学	2年	2	2単位	
	物理学概論I	1年	2	環境物理学	2年	2		
	物理学概論II	2年	2	海洋計測学I	2年	2		
	基礎流体力学	2年	2	海洋計測学II	3年	2		
化学	化学	1年	②	生化学	2年	2	2単位	
	化学概論	1年	2	海洋循環化学	3年	2		
	分析化学	2年	2	海洋機能材料学	3年	2		
	有機化学	2年	2					
生物学	生物学	1年	②	藻類学II	2年	2	2単位	
	魚類学I	1年	2	鯨類・海産哺乳類学	2年	2		
	無脊椎動物学I	1年	2	浮遊生物学	3年	2		
	藻類学I	1年	2	個体群生態学	3年	2		
	魚類学II	2年	2					
無脊椎動物学II	2年	2						
地学	地学	2年	2	陸水学	2年	2	2単位	
実験科目	物理学実験	環境物理学実験	2年	2	環境テクノロジー実験I	3年	2	1単位
	化学実験	環境システム科学実験	3年	2	環境テクノロジー実験II	3年	2	
	生物学実験	分析化学実験	2年	2				
	海洋生物学実験I	2年	2	海洋生物学実験III	3年	2		
	海洋生物学実験II	3年	2					
地学実験	地学実験	4年	1					
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)							27単位	
合 計							36単位	

海 洋 生 物 資 源 学 科

○ 免許教科 水産

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
水産の 関係 科目	水圏環境リテラシー学	1年	①	保全増殖学	3年	2	35 単位
	海洋植物学	1年	2	保全増殖学演習	3年	1	
	海洋動物学	1年	2	動物生態学実習	3年	1	
	海洋生物資源学入門	2年	2	水族生理学実験	3年	1	
	水族生理学	2年	2	水族薬理学	3年	2	
	動物生態学	2年	2	応用藻類学	3年	2	
	海洋生物学実習	2年	1	応用藻類学実習	3年	1	
	動物発生学	2年	2	応用微生物学	3年	2	
	動物組織学	2年	2	応用微生物学実験	3年	1	
	動物組織学実験	2年	1	水族養殖学	3年	2	
	遺伝子工学	2年	2	水族育種学	3年	2	
	漁法学	2年	2	水族養殖・育種学実習I	3年	1	
	鯨類資源論	2年	2	水族病理学	3年	2	
	漁業科学実習	2年	1	水族栄養学	3年	2	
	漁業科学演習	3年	2	水族栄養学実験	3年	1	
	生産システム学	3年	2	潜水調査実習	3年	1	
	漁具学	3年	2	海洋生物資源実務実習	3年	1	
	漁業解析学	3年	2	公衆衛生学	3年	2	
	生物資源統計学	3年	2	食品衛生学	3年	2	
	生物資源解析学	3年	2	食品加工学	3年	2	
生物資源解析学演習	3年	1	水族養殖・育種学実習II	4年	1		
生物資源解析学実習	3年	1	水族病理学実習	4年	1		
応用保全生物学	3年	2					
職業指導	(※1)職業指導	3年	1				1単位
合 計							36単位

(※1)水産の免許を取得するためには「職業指導」は必修。

○ 免許教科 理科

規定科目	対応する本学部の授業科目						必要修得単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
物理学	物理学	1年	②				2単位
化学	化学	1年	②				2単位
	(※2)分析化学	2年	2				
生物学	生物学	1年	②	微生物学概論	2年	2	2単位
	分子生物学	2年	2	魚群行動学	2年	2	
	生物化学概論	2年	2	集団生物学実習	3年	1	
	集団生物学	2年	2	(※2)浮遊生物学	3年	2	
	藻類生態学	2年	2	(※2)個体群生態学	3年	2	
地学	地学	2年	2	陸水学	2年	2	2単位
実験科目	物理学実験	漁業科学実験	3年	2			1単位
	化学実験	(※2)分析化学実験	2年	2			
	生物学実験	遺伝子工学実験	3年	1			
	地学実験	地学実験	4年	1			
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)							27単位
合 計							36単位

(※2)印は、他学科で開講する科目を表します。

食 品 生 産 科 学 科

○ 免許教科 水産

規定 科目	対応する本学部の授業科目						必要修得 単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
水 産 の 関 係 科 目	水圏環境リテラシー学	1年	①	食品貯蔵学	3年	2	35 単位
	海洋植物学	1年	2	食品分析学	3年	2	
	海洋動物学	1年	2	食品保全化学	3年	2	
	食品生産科学入門実験	1年	①	食品冷凍学	3年	2	
	食品化学	2年	②	食品レオロジー	3年	2	
	食品生産学実習	3年	①	食品工学実験	3年	2	
	食品生産システム調査	2年	1	食品工学演習Ⅰ	3年	1	
	食品微生物学	2年	2	食品工学演習Ⅱ	3年	1	
	海洋バイオテクノロジー	3年	2				
	公衆衛生学	3年	2				
	資源利用化学	3年	2				
	食品衛生学	3年	2				
	食品加工学	3年	2				
	食品機械装置工学	3年	2				
	食品殺菌工学	3年	2				
食品ゼロエミッション通論	3年	2					
職業指導	※職業指導	3年	1			1単位	
合 計							36単位

※水産の免許を取得するためには「職業指導」は必修。

○ 免許教科 理科

規定 科目	対応する本学部の授業科目						必要修得 単位数	
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位		
物理学	物理学	1年	②				2 単位	
	生産物理学	1年	②					
	食品工学	2年	②					
化学	化学	1年	②	有機化学Ⅱ	2年	2	2 単位	
	有機化学Ⅰ	1年	2	機器分析概論	3年	2		
	生物化学Ⅰ	2年	2	食品包装論	3年	2		
	生物化学Ⅱ	2年	2	食と健康の科学	3年	2		
	物理化学	2年	2					
生物学	生物学	1年	②	微生物学	2年	②	2 単位	
	基礎分子生物学	2年	2	衛生微生物学	3年	2		
地学	地学	2年	2				2 単位	
実験 科目	物理学実験	物理学実験	2年	①			1 単位	
	化学実験	化学実験	2年	②	食品化学実験	3年		2
	生物学実験	食品化学基礎実験	3年	1				
	生物学実験	微生物学実験	2年	①	食品微生物学実験	3年		1
地学実験	地学実験	4年	1					
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)							27 単位	
合 計							36単位	

海 洋 政 策 文 化 学 科

○ 免許教科 水産

規定 科目	対応する本学部の授業科目						必要修得 単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
水 産 の 関 係 科 目	水圏環境リテラシー学	1年	①	漁村フィールドワーク実習	3年	1	35 単位
	海洋政策文化入門	1年	②	水産技術経済論	3年	2	
	海洋政策文化研究法	2年	②	水産国際関係論	3年	2	
	水産経済学	2年	2	沿岸域利用論	3年	2	
	海洋政策文化セミナーⅠ	3年	①	水産経済史	3年	2	
	海洋政策文化セミナーⅡ	3年	①	漁業管理論	3年	2	
	食料経済論	1年	2	資源経済論	3年	2	
	水産調査	2年	1	海洋利用制度論	3年	2	
	海事法規	2年	2	海洋法特論	3年	2	
	海洋環境政策論	2年	2	生物資源統計学	3年	2	
	海洋産業論	2年	2	生物資源解析学	3年	2	
	水産物流通論	2年	2	水産政策論	3年	2	
	食品マーケティング論	2年	2	基礎生物海洋学	2年	2	
	沿岸地域社会調査	3年	1	漁法学	2年	2	
	海洋法総論	2年	2	水族栄養学	3年	2	
	海洋性レクリエーション論	2年	2	水族栄養学実験	3年	1	
	環境と教育	2年	2				
	マリンスポーツ実習	2年	1				
	鯨類資源論	2年	2				
海洋政策文化特別講義	2年	1					
海洋政策実習	3年	1					
職業指導	※職業指導	3年	1			1単位	
合 計							36単位

※水産の免許を取得するためには「職業指導」は必修。

○ 免許教科 理科

規定 科目	対応する本学部の授業科目						必要修得 単位数
	科目名	学年	単位	科目名	学年	単位	
物理学	物理学	1年	②	物理学概論Ⅰ	1年	2	2 単位
	環境物理学	2年	2				
化学	化学	1年	②	生物化学Ⅱ	2年	2	2 単位
	有機化学Ⅰ	1年	2	物理化学	2年	2	
	生物化学Ⅰ	2年	2				
生物学	生物学	1年	②	鯨類・海産哺乳類学	2年	2	2 単位
	資源利用関係論	2年	2	魚群行動学	2年	2	
	生命論	3年	2	浮遊生物学	3年	2	
	生命論の諸問題	3年	2	生物化学概論	2年	2	
				微生物学概論	2年	2	
地学	地学	2年	2	陸水学	2年	2	2 単位
実験 科目	物理学実験	環境物理学実験	2年	2			1 単位
	化学実験	化学実験	2年	2			
	生物学実験	資源生物学実験	2年	1			
	地学実験	地学実験	4年	1			
その他	科学技術論	3年	2	科学技術論の諸問題	3年	2	(注: 修得した単位は「その他理科の関係科目」27単位に含める。)
その他理科の教科に関する科目(記載の科目より別途選択)							27 単位
合 計							36単位

6. その他

教育職員免許状取得のための説明会、教育実習説明会等を次のとおり実施していますので、免許取得希望（及び水産教員養成課程）の学生は必ず出席して下さい。説明会等の日時は、掲示によりお知らせします。

<p>教職に関する掲示版</p>	<p>講義棟1階正面玄関を入ってすぐ左側に教職の掲示版があります。説明会や実習等の情報・通知を掲示しますので、免許取得希望者は必ず確認して下さい。</p>
<p>・教育職員免許状の取得に関する説明会（1年次）</p>	<p>これから教育職員免許状を取得しようとする1年生を対象に毎年4月に実施しますので、免許取得希望（及び水産教員養成課程）の学生は必ず出席して下さい。日時は掲示しますので、教務課の掲示版に注意して下さい。</p>
<p>・教育実習説明会Ⅰ（2年次）</p>	<p>卒業年次に行われる教育実習に備えて、履修申込みに関する説明会を第2年次の2月上旬に実施します。説明会に出席するには、別途通知のレポートを提出する必要があります。</p> <p>ここでは、教育実習校の選び方や、申込みの方法、内諾の得方等を説明します。この説明会に出席しない学生は、教育実習の履修を認めません。</p>
<p>・教育実習説明会Ⅱ（4年次） ・教育職員免許状一括申請説明会（4年次）</p>	<p>卒業年次の4月中旬に、前年度に履修申込みを行った学生に対し履修方法の説明会を実施します。</p> <p>ここでは、教育実習履修登録及び教育実習日誌を配付しその内容等の説明を行います。</p> <p>この説明会に出席しない学生は、教育実習の履修を認めません。</p> <p>また、併せて教員免許一括申請説明会を行いますので、一括申請を希望する学生は説明会に出席し、所定の手続きをして下さい。</p>
<p>・教育実習の事前・事後指導（4年次） ・教育職員免許状一括申請手続き説明会（4年次）</p>	<p>卒業年次には、例年5月頃に「教育実習の手引」による事前指導を、さらに教育実習終了後（12月頃）には教育実習の事後指導をそれぞれ実施します。出席しない学生は「教育実習指導」の単位がつかまないので注意して下さい。</p> <p>また、事後指導（12月頃）と同日に、教員免許状一括申請の申込をした学生に対し、申請手続きの説明会を行いますので、一括申請の申込をした学生は必ず出席して下さい。</p>

〔2〕学芸員

学芸員とは、博物館、水族館等が収集、保管（育成を含む）する資料の展示及び調査研究、その他これに関連する事業に関して専門的におかれる職員の資格です。「水族館」等においてこの資格が求められるケースがあります。学芸員になるためには、学芸員となる資格を取得しなければなりません。

1. 学芸員となる資格を有する者

学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者
(博物館法第5条第1項第1号)

2. 博物館に関する科目及び単位

学芸員の資格取得のためには、次表の授業科目の単位を修得しなければなりません。
なお、博物館実習の履修については、受講制限を行うことがあります。

博物館法施行規則で定める科目及び単位	単位	対応する本学部の授業科目	年次	単位	備 考
博物館概論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅰ	2年次	2	▲印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。 ○印の科目は、水産教員養成課程の学生を除いて卒業に必要な単位に含まない。
博物館経営論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅱ	3年次	2	
博物館資料論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅲ	3年次	2	
博物館資料保存論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅳ	3年次	2	
博物館展示論	(2単位)	▲ 博物館学Ⅴ	3年次	2	
博物館実習	(3単位)	▲ 博物館実習Ⅰ	3年次	2	
		▲ 博物館実習Ⅱ	4年次	1	
博物館教育論	(2単位)	▲ 博物館教育論	2年次	2	
生涯学習概論	(2単位)	▲ 生涯学習指導論	2年次	1	
		○ 生涯学習社会論	2年次	1	
博物館情報・メディア論	(2単位)	○ 教育工学	2年次	2	
計	(19単位)	計		19	

大学指定選択科目	海洋植物学	1年次	4	左の科目の中から2科目以上修得しなければならない。
	海洋動物学	1年次		
	魚類学Ⅰ	1年次		
	無脊椎動物学Ⅰ	1年次		
	藻類学Ⅰ	1年次		
合 計			23	

(注) 博物館実習Ⅰの履修は、学芸員の科目のうち2年次までに開講されたすべての学芸員関係科目(8単位)及び大学指定選択科目(4単位)を修得済みの者のみ認めます。

また、博物館実習Ⅱの履修は、博物館実習Ⅰを履修した者に限ります。

3. 博物館実習

(1) 博物館実習Ⅰ

博物館実習Ⅰは、本学部の水産資料館（博物館相当施設）において、海の日（7月）、オープンキャンパス（8月）海鷹祭（11月頃）の期間中に行います。事前にパンフレット原稿やポスターの作成作業があり、事前準備も含め全ての日程に出席できることが履修の条件となります。

※同時期に行われる他の実習（「乗船漁業実習Ⅱ」等）と日程が重なっても考慮はできません。

また、2年次までに開講されたすべての学芸員関係科目(8単位)及び大学指定選択科目(4単位)を修得済であること3年次前期に開講される博物館学Ⅱ、Ⅳを履修中であることが履修の条件となります。

なお、定員（50名程度）を設けており、レポートによる選抜を行います。レポート課題は博物館実習Ⅰ履修ガイドダンス（3年次の4～5月頃）にて提示します。

(2) 博物館実習Ⅱ

博物館実習Ⅱは、学外の博物館等において学芸員等の指導のもとに、実習先の職員として実務実習を行います。実習施設については、一部の施設を除き各自が探し出すことになります。また、履修にあたっては専門的知識を要求されるため、上記の博物館に関する科目の単位を修得していなければなりません。

① 実習が実施できる施設 (博物館法施行規則第1条第3項)

実習期間が原則として実質6日以上で、次のいずれかに該当する施設

1. 登録博物館
2. 博物館相当施設
3. 大学において②の施設に準ずると認めた施設

② 実習を行う時期

4月～12月まで

他の実験・実習と日程が重なる場合は、この実習を履修することになりますので、他の実験・実習の日程を考慮の上実習期間を決めてください。

4. その他

- ・学芸員となる資格取得のためのガイダンスを、次のとおり実施しています。取得希望者は、必ず出席してください。なお、ガイダンスの日時は、掲示によりお知らせします。
- ・学芸員に関する掲示は、講義棟1階の玄関に設置された、学芸員関係の掲示板に掲示します。

学芸員となる資格取得に関する説明会 (1年次)	これから学芸員を取得しようとする1年生を対象に毎年4月に実施しますので、資格取得を希望する学生は必ず出席して下さい。日時は別途掲示します。
博物館実習Ⅰ履修ガイダンス (3年次)	3年次に実施する「博物館実習Ⅰ(学内)」の履修希望者を対象に、4月～5月頃にガイダンスを行います。日時は別途掲示します。 このガイダンスは、実習の前段階であり、実習の一環として実施されるものです。これに参加しない者は博物館実習Ⅰの履修を認めません。また、博物館実習Ⅰ履修者を選抜するためのレポート課題をガイダンス時に提示します。
博物館実習Ⅱ履修ガイダンス (3年次)	4年次に実施する「博物館実習Ⅱ(学外)」の履修者を対象に、学外の博物館、水族館等において行う実務実習のガイダンスを2月頃に行います。博物館実習Ⅱを履修するには、すでに博物館実習Ⅰを履修済でなければなりません。日時は別途掲示します。 このガイダンスは、実習の前段階であり、実習の一環として実施されるものです。これに参加しない者は博物館実習Ⅱの履修を認めません。

- ・教務係窓口にて、博物館実習の過去の受入先一覧、実習体験記が閲覧できますので、実習先を探す際に活用して下さい。

〔3〕技術士補

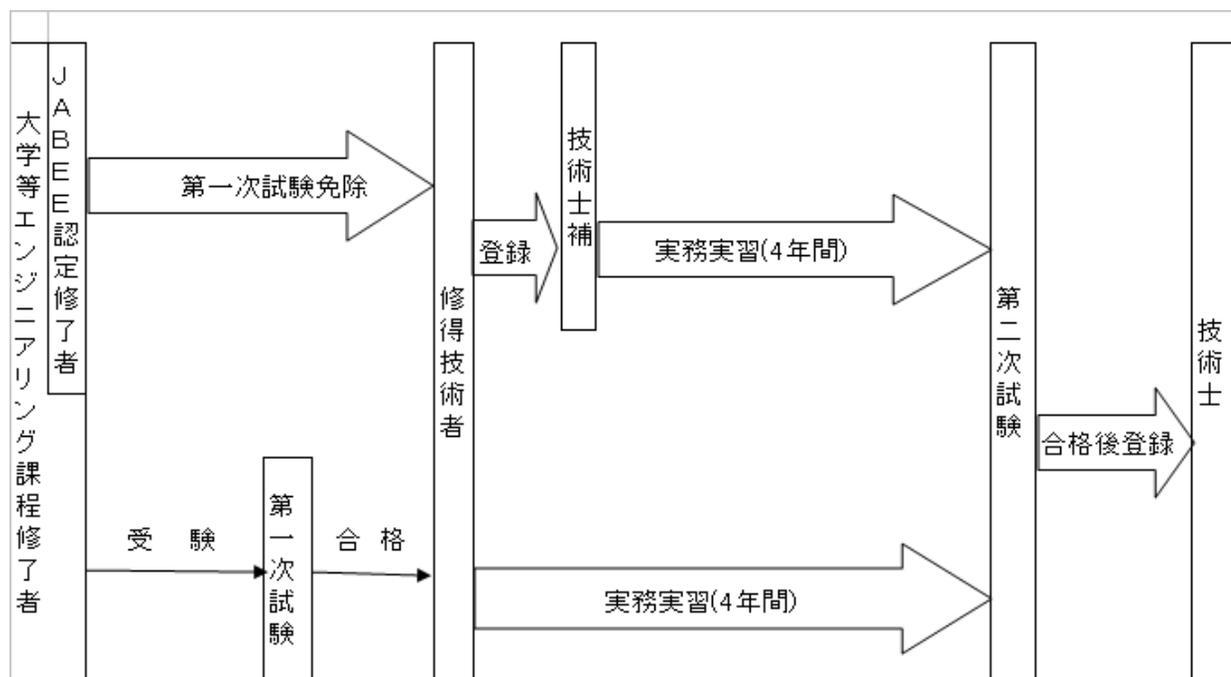
1. 技術士資格

技術士とは国より登録を受け、技術士の名称を用いて、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者をいい、技術士補とは技術士となるのに必要な技能を修習するため、国より登録を受け、技術士補の名称を用いて、業務について技術士を補助する者をいいます。

東京海洋大学海洋科学部は平成19年度に、日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education）（JABEE）の審査を受け、認定されました。

JABEEは高等教育機関（大学・高専）における技術者教育プログラムが国際的に必要とされる基準に合致しているかの認定を行う機関であり、この基準に合致されていると評価されることにより海洋科学部の卒業者は、技術士第一次試験が免除され、技術士補として登録することができるようになります。

技術士補は、一定の期間実務修習を行うことにより技術士第二次試験を受験することができます。



東京海洋大学海洋科学部がJABEEの認定を受けることにより、その卒業生には上記に加え次のメリットがあります。

1. 教育内容を審査する機関であるJABEEの審査を受けているので、海洋科学部卒業生は質的に高い技術基礎教育を受けたことが客観的に証明され社会的に高い評価を受けることが期待されます。
2. JABEEがワシントンアコードに加盟したので、海洋科学部の卒業生は欧米主要国の認定プログラム修了者と同等と評価され、グローバルに通用することになります。

ワシントンアコードは工学教育の国際的な団体であり、その加盟国は他の加盟国が認定した技術者教育プログラムの修了者に対し自国の修了者と同等に取り扱うこととされているからです。

3. 技術士補に登録しなくとも、修習技術者として一定の期間実務修習を行うことにより技術士第二次試験を受験することができます。

2. 技術者教育プログラム

本学部の技術者教育プログラムを学科ごとに履修モデルとして示します。(次ページ以降参照)

この履修モデルにあるとおり、海洋科学部の学生は卒業に必要な単位を取得することにより技術者教育プログラムが履修できるようになっています。

ただし、技術者教育プログラムは質的に高い技術基礎教育である必要があり、履修者には学習・教育到達目標を自覚して授業を受けることが求められています。

本学部の技術者教育プログラムは、東京海洋大学海洋科学部の教育目標を応用して以下の学習・教育到達目標を定めていますので、これを念頭において授業を履修して下さい。

本学部の学習・教育到達目標		
(A)	(コミュニケーション)	国際的にも通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。
		1) 論理的かつ説得力のある文章表現を修得する。 2) 効果的なグラフ、図表、レポートの作成方法を修得する。 3) 口頭発表や討議等のコミュニケーション能力を修得する。 4) TOEICテストや少人数教育法の活用により、実践的な語学力を修得する。 5) 他者と協働する際に、自己や他者に求められる行動を的確に判断し、適切に働きかける能力を修得する。
(B)	(技術者倫理)	技術者としての倫理と、責任ある社会活動を可能にする能力を身に付ける。
		1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任を理解する。 2) 各専門科目と社会や自然環境との係わり合いを理解する。
(C)	(科学基礎)	数学・自然科学・情報処理の基礎知識を身に付ける。
		1) 広範に応用が可能な科学の基礎力をつける。 2) 論理的思考力および適正な自然観を修得する。 3) 科学技術に必要な計算能力および情報処理能力をつける。
(D)	(水産・海洋基礎)	水圏と地球環境、水産生物資源、その持続的生産、水産物の利用についての、水産・海洋に関する基礎的知識を身に付ける。
		1) 水産・海洋の領域を総合的に考察するに必要な知識を修得する。 2) 特に重要な地球環境の保全、海洋環境の保全、水産資源の持続的利用、海洋食品の安全性についての知識を得る。 3) 自身の専門の水産・海洋学における位置付けを理解する。 4) 具体的には、生命科学、生物環境科学、生物生産科学、生物資源化学の各関連科目を習得する。
(E)	(専門知識)	以下に示す専門知識を身に付ける。
		1) (海洋環境学科) 海洋生物学、水圏環境化学、環境システム科学、環境テクノロジー学に関する様々な専門分野の視点から、海洋における諸現象の観測・解析・予測や、海洋保全・修復にかかわる知識・技術を身につける。 2) (海洋生物資源学科) 資源培養、資源解析、魚介藻類増養殖、水産遺伝子領域、繁殖システム、漁業生産システムについて生物を対象とした海洋生物資源にかかわる知識・技術を身につける。 3) (食品生産科学科) 海洋生物を中心とした食資源を化学、微生物学、物理学、工学的な手法を用いて余すことなく利用する技術開発を行うとの視点から、安全性の確保・向上ならびに新しい機能を持つ食品の開発と評価を行う知識・技術を身につける。 4) (海洋政策文化学科) 海と人の共生に係わる産業的アプローチ、文化的アプローチ、そして、政策的アプローチを理論と実践の両面から追究するための、国際海洋政策学、海洋利用管理学といった専門分野にかかわる知識・技術を身につける。

(F)	(実験・調査)	実験・調査を計画・遂行し、結果を解析・考察する能力を身に付ける。
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 効果的な実験・調査を計画し、効率的に時間内に遂行する能力を身に付ける。 2) データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力を身に付ける。 3) 講義で得た知識を実際に確認しつつ体得する。 4) 実験・調査を通じ、他者と協働する上で必要とされる行動を理解し、協働作業に適切に対処する能力を修得する。
(G)	(演習・実習)	演習・実習を通じて、自己学習の習慣および問題を解決する能力を修得する。
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 演習・実習を通じ、自己の能力を評価し向上させることによって、問題解決能力を磨く。 2) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力を修得する。 3) 他者と協働する上で、自己や他者に求められる行動を的確に判断し、適切に対応する能力を修得する。
(H)	(現場実習)	海上や製造現場において、与えられた条件の中で実際の対象に対して適切に判断し、対処する能力を養う。
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 実際の現場や社会での実習を通じ、専門科目の意義を体感する。 2) 現場実習における体験を一般化し、説明する力を養う。 3) 与えられた制限の多い場で、沈着冷静に目的を達成する能力を養う。
(I)	(生涯学習)	最先端の水産・海洋技術者として活動するために必要となる、さらに高度で専門的な知識の生涯学習能力を身に付ける。
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的に必要な文献や資料を調べ、研究者などに質問しつつ、継続的に学習できる能力を身に付ける。 2) 各種の解決すべき問題に対して、どの分野または科目が対応するのかを判断できる能力を養う。
(J)	(課題解決能力)	水産・海洋技術の専門的な知識・技術を総動員して、課題を探求し、その課題を解決するための研究を組み立て、遂行し、その結果をまとめ、発表できる実践的課題解決能力を身に付ける。
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 解決すべき課題を明確にし、それらを解決する方法の策定を図る能力を養う。 2) 課題に対して、基礎科学・専門技術などを総合して対処する能力を養う。 3) 課題の解決にあたり、結果をとりまとめ報告し、残る問題点の対処法を明確にする能力を強化する。 4) 課題の解決にあたり、他者と協働して、適切に対応する能力を修得する。
(K)	(総合的判断)	広く学問的知識を身に付け、柔軟な総合的判断力を修得する。
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 地球的、社会的視点から多面的に物事を考える能力を養う。 2) 他人や他分野からの意見などを謙虚に受け止める素養を磨く。 3) 技術的成果に対して、常に反省を怠らず、向上を目指す姿勢を身につける。

こうした目標に従って学習を続けていくと、以下の知識・能力が身に付くよう、本学部のカリキュラムが組まれています。

(1) 基礎能力

生命科学、生物生産科学、生物資源科学、および環境科学の各関連科目のほか応用化学、応用物理学、または経済学の関連科目の修得によって得られる理論的知識

(2) 実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する能力

(3) 専門的な知識および技術を駆使して、課題を探求し、組み立て、解決する能力と判断力

(4) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力と判断力

表4-1 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (海洋環境学科 履修モデル)

学習・教育到達目標	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業論文
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A コミュニケーション	Basic English I Practical English I 日本語表現法	Basic English II Practical English II	Effective English I Interactive English I	Effective English II Interactive English II	Intensive English I Intensive English III	Intensive English II Intensive English IV			
	TOEIC入門		英米表象文化入門	英米社会文化入門		TOEIC演習			
B 技術者倫理	哲学 科学史	生命倫理	生命文化	哲学史 技術史					
	こころと身体		心理学						
C 科学基礎	生物学 物理学 化学		物理学概論 II	陸水学 電気電子工学 海洋計測学 I					
	基礎微積分 I 基礎微積分 II 情報リテラシー	数学解析 数学概論		線形数学					
			情報処理概論 I 統計学 地学	情報処理概論 II 海洋統計学			地学実験		
D 水産・海洋基礎	海の科学 船の科学 海と生命 海と文化	水圏環境リテラシー学	海洋観測論 基礎流体力学 海洋環境政策論	陸水学					
E 専門知識		魚類学 I 無脊椎動物学 I 藻類学 I	魚類学 II 無脊椎動物学 II 藻類学 II	鯨類・海産哺乳類学	浮遊生物学 個体群生態学	海洋資源生態学			
		化学概論	分析化学	生化学 基礎化学海洋学	海洋天然物化学 環境微生物化学 水圏環境化学実験	海洋機能材料学 海洋バイオテクノロジー 海洋循環化学			
		物理学概論 I	基礎流体力学 数理学 基礎海洋学 物理数学	資源情報解析学 応用解析 環境物理学 海洋流体力学	海洋物理学 海洋情報解析学 環境測定学 水産海洋物理学 数値解析 大気科学	沿岸海洋学			
			機械システム工学 電気電子工学 応用情報テクノロジー I 海洋計測学 I 海上安全工学 I		海洋環境機械学 環境エネルギー工学 応用情報テクノロジー II 海洋計測学 II 海上安全工学 II 先端海洋テクノロジー 環境テクノロジー実験 I	海岸環境工学 環境テクノロジー実験 II			
			海洋環境政策論 海事法規			海洋法特論			
			海洋学実習 I		海洋学実習 II	海洋環境実務実習	海洋学実習 III		
			乗船漁業実習 I		乗船漁業実習 II		乗船漁業実習 III		
F 実験・調査	フレッシュマンセミナー		海洋生物学実験 I		海洋生物学実験 II	海洋生物学実験 III	海洋学実習 III		
			分析化学実験			海洋機能材料学			
			環境物理学実験		環境テクノロジー実験 I	環境テクノロジー実験 II			
							地学実験		
G 実習・演習	フレッシュマンセミナー		海洋学実習 I		海洋学実習 II	海洋環境実務実習	海洋学実習 III		
	スポーツ I	スポーツ II							
			臨海生物学実習						
			環境テクノロジー実習	乗船漁業実習 I	乗船漁業実習 II		乗船漁業実習 III	乗船漁業実習 IV	
					海外派遣キャリア演習 I		海外派遣キャリア演習 II		
H 現場実習	フレッシュマンセミナー		海洋学実習 I		海洋学実習 II	海洋環境実務実習			
			環境テクノロジー実習	乗船漁業実習 I	乗船漁業実習 II		乗船漁業実習 III		
I 生涯教育	TOEIC入門				TOEIC演習				
					先端海洋テクノロジー 水圏環境化学実験	水産資源動態学 海洋バイオテクノロジー		乗船漁業実習 IV	
J 課題解決能力			基礎海洋学		海洋計測学 II 水圏環境化学実験	海洋機能材料学 海洋バイオテクノロジー		乗船漁業実習 IV	
					海外派遣キャリア演習 I		海外派遣キャリア演習 II		
K 総合的 判断	スポーツ I こころと身体	スポーツ II							
	人文地理学	文学 ヨーロッパ文化論 現代ヨーロッパ論	英米表象文化入門	英米社会文化入門					
			心理学			職業指導			
	基礎法学 経済学 近現代史	社会学 国際法と日本国憲法 政治学							
			海洋環境政策論	応用情報テクノロジー I 海上安全工学 I	先端海洋テクノロジー 応用情報テクノロジー II	海岸環境工学		乗船漁業実習 III	乗船漁業実習 IV

表4-2 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (海洋生物資源学科 履修モデル)

学習・教育到達目標	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業論文
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A コミュニケーション	Basic English I Practical English I 日本語表現法 TOEIC入門	Basic English II Practical English II	Effective English I Interactive English I	Effective English II Interactive English II	Intensive English I Intensive English III	Intensive English II Intensive English IV	TOEIC演習		
B 技術者倫理	科学史 哲学 こころと身体	生命倫理	生命文化 心理学	技術史 哲学史					
C 科学基礎	基礎微積分 I 基礎微積分 II 生物学 物理学 化学 情報リテラシー	数学解析 数学概論	統計学 地学 情報処理概論 I	海洋統計学 陸水学 情報処理概論 II					
D 水産・海洋基礎	海の科学 海と生命 海と文化 船の科学 水圏環境 リテラシー学	動物生態学 動物組織学 漁法学	藻類生態学 水産生物学入門	陸水学					
E 専門知識	海洋植物学 海洋動物学	藻類生態学 水産生物学入門 水産生理学 動物遺伝学 分子生物学 生物化学概論 集団生物学 魚群行動学 微生物学概論	海洋生物資源学入門 水族病理学 水族養殖学 水族繁殖学 動物遺伝学 分子生物学 遺伝子工学 集団生物学 魚群行動学 鯨類資源論 微生物学概論	水族病理学 水族養殖学 水族繁殖学 動物遺伝学 分子生物学 遺伝子工学 集団生物学 魚群行動学 鯨類資源論 微生物学概論	水族病理学 水族養殖学 水族繁殖学 動物遺伝学 分子生物学 遺伝子工学 集団生物学 魚群行動学 鯨類資源論 微生物学概論	水族病理学 水族養殖学 水族繁殖学 動物遺伝学 分子生物学 遺伝子工学 集団生物学 魚群行動学 鯨類資源論 微生物学概論	水族病理学 水族養殖学 水族繁殖学 動物遺伝学 分子生物学 遺伝子工学 集団生物学 魚群行動学 鯨類資源論 微生物学概論	水族病理学 水族養殖学 水族繁殖学 動物遺伝学 分子生物学 遺伝子工学 集団生物学 魚群行動学 鯨類資源論 微生物学概論	
F 実験・調査	フレッシュマン セミナー		動物組織学実験	水族病理学実験 水族養殖学実験 漁業科学実験	遺伝子工学実験	地学実験			
G 演習・実習	スポーツ I フレッシュマン セミナー	スポーツ II	漁業科学実習	水族養殖・育種学実習 I 漁業科学演習 集団生物学実習 動物生態学実習 潜水調査実習	水族養殖・育種学実習 II 漁業科学演習 保全増殖学演習 水族病理学実習	海外派遣キャリア演習 I 海外派遣キャリア演習 II			
H 現場実習	フレッシュマン セミナー		漁業科学実習	動物生態学実習					
I 生涯学習	TOEIC入門		動物組織学実験	TOEIC演習	セミナー				
J 課題解決能力		海洋植物学	漁業科学実習	水族病理学 動物生態学実習 保全増殖学演習 食品衛生学 食品加工学 公衆衛生学 海外派遣キャリア演習 I	セミナー 海外派遣キャリア演習 II				
K 総合的判断	基礎法学 経済学	国際法と日本国憲法 社会学 政治学	英米社会文化入門						

表4-3 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ（食品生産科学科 履修モデル）

学習・教育到達目標	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業論文
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A コミュニケーション	Basic English I Practical English I 日本語表現法 TOEIC入門	Basic English II Practical English II	Effective English I Interactive English I	Effective English II Interactive English II	Intensive English I Intensive English III	Intensive English II Intensive English IV			
B 技術者倫理	科学史 哲学 こころと身体	生命倫理	生命文化 心理学	技術史 哲学史					
C 科学基礎	情報リテラシー 基礎微積分 I 基礎微積分 II 生物学 物理学 化学	数学解析 数学概論	情報処理概論 I 統計学	情報処理概論 II 海洋統計学 地学 有機化学 I 有機化学 II					
D 水産・海洋基礎	海の科学 海と生命 海と文化 船の科学	水圏環境 リテラシー学 海洋植物学 海洋動物学		基礎分子生物学					
E 専門知識		生産物理学	生物化学 I 食品工学 微生物学 物理化学	食品化学 生物化学 II 食品微生物学	食品分析学 機器分析概論 食品衛生学 食品加工学 資源利用化学 食品保全化学 食品レオロジー	食品冷凍学 食品包装論 食品貯蔵学 食品機械装置工学 食と健康の科学			
F 実験・調査	フレッシュマン セミナー	食品生産科学 入門実験	化学実験	微生物学実験 物理学実験	食品化学基礎実験 食品微生物学実験 食品工学実験	食品化学実験 ヘルスフード科学海外研修			
G 演習・実習	フレッシュマン セミナー	化学演習			食品生産学実習 食品工学演習 I 海外派遣キャリア演習 I	食品工学演習 II 海外派遣キャリア演習 II	セミナー		
H 現場実習	フレッシュマン セミナー		食品生産 システム調査		食品生産学実習 食品科学実務実習				
I 生涯教育	TOEIC入門				科学英語 TOEIC演習 衛生微生物学 公衆衛生学	海洋バイオ テクノロジー			
J 課題解決能力	人文地理学		統計学		技術開発と 工業所有権 食品ゼロエミッ ション通論 食品殺菌工学		セミナー		
K 総合的 判断	基礎法学 経済学 近現代史	文学 国際法と日本国憲法 社会学 ヨーロッパ文化論 現代ヨーロッパ論 政治学	英米表象文化入門	英米社会文化入門			海外派遣キャリア演習 I 海外派遣キャリア演習 II	セミナー	

表4-4 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ (海洋政策文化学科 履修モデル)

学習・教育到達目標	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業論文
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
A コミュニケーション	Basic English I Practical English I 日本語表現法 TOEIC入門	Basic English II Practical English II	Effective English I Interactive English I コミュニケーション論	Effective English II Interactive English II	TOEIC演習				
B 技術者倫理	科学史 哲学 こころと身体	生命倫理	生命文化 心理学	技術史 哲学史					
C 科学基礎	基礎微積分 I 基礎微積分 II 生物学 物理学 化学 情報リテラシー	数学解析 数学概論	地学	情報処理概論 I 統計学	情報処理概論 II 海洋統計学				
D 水産・海洋基礎	海の科学 海と生命 海と文化 船の科学	水圏環境 リテラシー学	海洋法総論						
E 専門知識	海洋政策文化入門		海洋政策文化 特別講義	海洋政策文化 研究法	海洋利用制度論	漁業管理論			
	食料経済論	日本経済論	水産経済学	水産経済史					
			海洋産業論	水産技術経済論	海洋レジャー 経済論	水産政策論			
			海洋環境政策論	地域政策論	地域環境論	水産国際関係論			
			資源利用関係論	沿岸域利用論	国際関係論	国際関係論特論			
			海事法規	海と健康	スポーツ生理学	健康スポーツ 科学演習			
			海洋性レクリ エーション論	環境文学	海洋文学	科学技術論 の諸問題			
			海洋文化史	多文化環境論	メディア文化論	日本社会理解			
			水産物流通論	環境と教育	食品マーケティング 論				
			物理学概論 I	鯨類資源論	生物資源解析学	生物資源統計学			
				鯨類・海産 哺乳類学	水族栄養学				
					浮遊生物学				
F 実験・調査	フレッシュマ ンセミナー		資源生物学 実験	水族栄養学実験	健康スポーツ 科学演習				
G 演習・実習	フレッシュマ ンセミナー		マリンスポーツ 実習		健康スポーツ 科学演習		海外派遣キャリア演習 I	海外派遣キャリア演習 II	
H 現場実習	フレッシュマ ンセミナー		水産調査	海洋政策実習	漁村フィールド ワーク実習				
			マリンスポーツ 実習	海洋政策文化 インターンシップ					
I 生涯学習	TOEIC入門				TOEIC演習		セミナー		
J 課題解決 能力			海と健康	海洋政策文化 研究法	海洋政策文化 セミナー I	海洋政策文化 セミナー II	セミナー		
					国際協力論		海外派遣キャリア演習 I	海外派遣キャリア演習 II	
K 総合的 判断	人文地理学 基礎法学 経済学 近現代史 こころと身体 スポーツ I	文学 ヨーロッパ文化論 現代ヨーロッパ論 国際法と 日本国憲法 社会学 政治学	英米表象文化入門 国際文化思想論	英米社会文化入門 実践的基礎文学		生命論 環境思想 応用哲学	生命論の諸問題 応用哲学の 諸問題		

〔4〕海技士の免許

船舶職員となるためには、海技免状の交付を受けなければなりません。

海技免状は、海技従事者国家試験に合格し、国土交通大臣が指定する免許講習の課程を修了した者に与えられます。ただし、国土交通大臣が指定した船舶職員養成施設を修了した者には、海技従事者国家試験の筆記試験が免除されます。

海洋科学部の学生が船舶職員養成施設の修了資格を得るためには、「船舶職員養成施設の課程の修了資格を得るために履修すべき授業科目」（海技科目）の単位を全て修得して学部を卒業後（※注）、さらに水産専攻科を修了しなければなりません。

※ 注：転学部・転学科した学生、編入学で入学した学生及び専攻科に補充入学した学生については、学部を卒業し、水産専攻科を修了しても養成施設の修了資格は得られず、海技従事者国家試験の筆記試験が免除されないため、自分で三級海技士（航海）の筆記試験を受験・合格し、かつ学外で行われる海技免許講習の課程を修了する必要があります。ただし、転学部・転学科・編入学の学生については履修状況等によってはこの限りでないため、必ず教務係に問い合わせてください。

水産専攻科進学希望者の履修

海洋科学部の卒業生に対し、1年間の課程で水産専攻科（漁船運用学専攻）（以下「専攻科」という。）が置かれています。

専攻科は、海洋・水産分野における船舶の運航に関する高度な知識と技術を持った海上技術者を育てるために設置されているもので、海鷹丸、神鷹丸、青鷹丸などの学部附属練習船による実務教育に重点を置き、航海実習や漁業実習、海洋観測実習などを課すことによって優れた船舶職員養成を図っています。

海洋科学部・専攻科一貫の課程は、次の各種資格の養成施設として関係省庁に登録されています。

三級海技士（航海） 第一種養成施設 (国土交通大臣登録)	海技士資格取得に必要な国家試験（身体検査、筆記試験、口述試験）のうち筆記試験が免除されます。 また、①受験資格の乗船履歴も、学校卒業者に対する乗船履歴の特例により通常3年が必要なところ1年に軽減され②三級海技士の海技士資格の免許を受けようとする際に必要な資格である海技免許講習の修了資格を取得できます。 ※海技士資格取得に必要な科目等は別表のとおり
第一級海上特殊無線技士 長期型養成課程 (関東総合通信局長登録)	第一級海上特殊無線技士の試験が免除され、総務省への申請により資格を取得できます。
船舶衛生管理者養成施設 (国土交通大臣登録)	船舶衛生管理者の試験が免除され、国土交通省への申請により資格が取得できます。

専攻科への進学等に関することは、次のとおりです。

1. 専攻科進学の要件

専攻科へ進学する者は、次の(1)、かつ、(2)を満たしていなければなりません。

- (1) 海洋科学部を3月に卒業し引き続き専攻科へ進学する者
- (2) 海洋科学部の学生で、履修規則別表7及び8（三級海技士（航海）に関する全科目（下記に記載の表ア・イ・ウの学部開講科目））に定める科目を履修したもの

2. 専攻科進学者の選考

進学を志望する者（鹿児島大学及び長崎大学からの進学希望者を含む）が入学定員の40名を超えた場合は、学部の学業成績（海技関係科目等）、健康診断を総合して専攻科進学者を決定します。場合によっては、選考試験を行います。

3. 専攻科進学手続き

専攻科へ引き続き進学を志望する者は、3年次の所定の期間内に「専攻科進学願」を教務課に提出してください。詳細は掲示で案内するので、見落としのないよう注意すること。

4. その他

- (1) 船舶衛生管理者に関する科目は、資格取得を希望する者は修得しなければなりません、専攻科進学に必要な単位ではありません。
- (2) 進学を志望する者（鹿児島大学及び長崎大学からの進学希望者を含む）が入学定員の40名に満たない場合は船舶の運航に関する学術を教授する大学等学部（本学部含む）において、別に定める授業科目の単位を修得し卒業した者についても、選考の上補充入学を許可することがあります。（海技士資格が取得できない場合があります。）
- (3) (2)の募集等は、掲示により通知します。詳細については、入試課に問い合わせてください。

5. 船舶職員及び小型船舶操縦者法で定められた身体検査の基準

検査項目	身体検査基準
視力 (五メートルの距離で万国視力表による。)	海技士(航海)の資格 視力(矯正視力を含む。)が両眼共に〇.五以上であること。
色覚	船舶職員としての職務に支障をきたすおそれのある色覚の異常がないこと。
聴力	五メートル以上の距離で話声語を弁別できること。
疾病及び身体機能の障害の有無	心臓疾患、視覚機能の障害、精神の機能の障害、言語機能の障害、運動機能の障害その他の疾病又は身体機能の障害により船舶職員としての職務に支障をきたさないと認められること。

6. 一級海技士及び二級海技士の筆記試験と就職

海技従事者国家試験の一級海技士及び二級海技士の筆記試験は、在学中から受験することもできます。在学中に筆記試験に合格した場合は、就職後、必要な乗船履歴を得て、口述試験に合格することによってその資格を得ることができます。

卒業後、船舶職員になろうとする場合は、就職の際に二級海技士以上の筆記試験合格を要求されることもあるので、在学中に合格しておくことが望ましいと考えられます。

三級海技士（航海）第一種養成施設

専攻科へ進学する者は、三級海技士（航海）に関する全科目（次のア・イ・ウの学部開講科目）の単位を修得しなければなりません。

ア 三級海技士（航海）第一種養成施設として必要な科目

船舶職員及び小型船舶操縦者法 施行規則による必要履修科目及 び単位	対応する本学部の授業科目 (海技必修科目)	単位及び開講年次			
		2年次	3年次	4年次	専攻科
航海に関する科目 (15単位以上)	海洋計測学Ⅰ (2)	2			
	応用情報テクノロジーⅠ (2)	2			
	電気電子工学 (2)	2			
	応用計測学 (2)				2
	航法学 (2)				2
	応用電子工学 (1)				2
	航海計器学 (2)				2
	航海学 (2)				2
	小 計 (15)	6			10
運用に関する科目 (16単位以上)	水産海洋物理学 (2)		2		
	海上安全工学Ⅰ (2)	2			
	船舶運用学 (2)				2
	海洋気象学 (2)				2
	船舶安全学 (2)				2
	移動体工学 (2)				2
	船舶衛生論 (2)				2
	機関工学 (2)				2
	小 計 (16)	2	2		12
法規に関する科目 (4単位以上)	海事法規 (2)	2			
	海上衝突予防法 (2)				2
	小 計 (4)	2			2
合計 18単位	合計 (35)	10	2	0	24

※ () 内の数字は、船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則による必要履修単位として認められた単位数を示します。

イ 三級海技士（航海）第一種養成施設として必要な乗船履歴

開講年次等	3年次	4年次		専攻科	計
授業科目	乗船漁業実習Ⅱ (3単位)	乗船漁業実習Ⅲ (3単位)	乗船漁業実習Ⅳ (9単位)	乗船実習 (21単位)	12ヶ月
乗船期間	1ヶ月	1ヶ月	3ヶ月	7ヶ月	

ウ 免許講習機関として必要な科目及び実習

船舶職員及び小型船舶操縦者法 施行規則による必要な科目・時間	対応する本学部の授業科目	単位及び開講年次				
		1年次	2年次	3年次	4年次	専攻科
レーダー観測者講習 (21時間)	乗船漁業実習Ⅰ		1			
救命講習 (14時間)	航海学演習					3
消火講習 (7時間)						
レーダー・自動衝突予防援助 装置シミュレータ講習 (14時間)	航海学演習					3
上級 航海英語講習 (77時間)	Basic EnglishⅠ	2 単修 位得 以す 上る 事	1			
	Basic EnglishⅡ		1			
	Effective EnglishⅠ			1		
	Effective EnglishⅡ			1		
	Interactive EnglishⅠ			1		
	Interactive EnglishⅡ			1		
海事英語					2	
合計		2	5	0	0	5

〔5〕 第一級海上特殊無線技士

第一級海上特殊無線技士は、船舶に設備された無線電話や海上関係のレーダーを操作するために必要な資格であり、外航船に船長又は航海士として乗船するには第一級以上が必要です。

海洋科学部の学生が 第一級海上特殊無線技士の資格を得るためには、下記に指定された単位を全て修得し、学部を卒業後、さらに水産専攻科においても単位を修得し、修了することにより、無線従事者の免許申請資格に必要な資格を取得することができます。

資格を取得した学生は、 第一級海上特殊無線技士の試験に合格したものとみなされ、総務省への申請により資格を取得できます。

省令に規定する科目	対応する本学部の授業科目	単位及び開講年次				
		1年次	2年次	3年次	4年次	専攻科
無線機器学その他無線機器に関する科目	乗船漁業実習Ⅰ		1			
	乗船漁業実習Ⅳ				9	
	乗船実習					21
	海洋計測学Ⅰ		2			
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	乗船漁業実習Ⅳ				9	
	航海学					2
電子計測その他無線測定に関する科目	乗船実習					21
電気通信術その他通信実技に関する科目	乗船漁業実習Ⅳ				9	
	乗船実習					21
電波法規その他電波法令に関する科目	乗船実習					21
国際電気通信条約その他国際条約に関する科目	乗船実習					21
英会話に関する科目	海事英語					2

なお、本資格及び本資格より上位の資格である第三級海上無線通信士の資格は、財団法人日本無線協会が実施している国家試験（毎年2回から3回）を受け、これに合格することによっても取得することができます。

〔6〕 船舶衛生管理者

海洋科学部の学生が船舶衛生管理者の資格を得るためには、下記に指定された単位を全て修得し、学部を卒業後、さらに水産専攻科においても単位を修得し、修了することにより、船舶衛生管理者の免許申請資格に必要な資格を取得することができます。

資格を取得した学生は、船舶衛生管理者の試験が免除され、国土交通省への申請により資格が取得できます。
(国土交通大臣登録)

船舶衛生に関する科目	対応する本学部の授業科目	単位及び開講年次				
		1年次	2年次	3年次	4年次	専攻科
薬物、精神衛生	こころと身体	2				
保健指導、疾病予防、一般体育実技	スポーツⅠ	1				
	スポーツⅡ	1				
労働生理、船内衛生、食品衛生、疾病予防、保健指導、労働衛生法規	海と健康		2			
	船舶衛生論					2
保健指導、実技実習 (看護法、救急処置法 その他必要実技実習)	乗船漁業実習Ⅰ		1			
	乗船漁業実習Ⅱ			3		
	乗船漁業実習Ⅲ				3	
	乗船漁業実習Ⅳ				9	
	乗船実習					21

〔7〕食品衛生監視員および食品衛生管理者

食品生産科学科に食品衛生コースを設けます。食品生産科学科の学生は、卒業に必要な単位を修得し、かつ、コース修了に必要な下記の単位をすべて修得すれば、食品衛生法に基づく「食品衛生監視員（注1）」及び「食品衛生管理者（注2）」となる国家資格（任用資格）を得ることができます。

なお、当該科目の単位を修得した者には、願い出により食品衛生コースの修了証明書を交付します。

（注1） 食品衛生監視員は、国、都道府県および保健所を設置する市・特別区に置かれる公務員で、主要な港や国際空港での輸入食品の安全性チェック、食品製造加工業、飲食店などの衛生監視・指導を行う。

（注2） 食品衛生管理者は、法律で定められた食品（乳製品、食肉製品など）または添加物の製造加工業に勤務する者から選ばれ、製造加工施設において法律違反がないように製造加工従事者の監督にあたる。

食品衛生コースの修了に必要な授業科目

授業科目の区分	授 業 科 目	単位及び開講年次			
		1年次	2年次	3年次	4年次
化 学 関 係 の 科 目	有 機 化 学 I	2			
	有 機 化 学 II		2		
生 物 化 学 関 係 の 科 目	生 物 化 学 I		2		
	生 物 化 学 II		2		
	食 品 化 学		②		
	食 品 分 析 学			2	
	食 品 化 学 基 礎 実 験			1	
	食 品 化 学 実 験			2	
微 生 物 学 関 係 の 科 目	微 生 物 学		②		
	微 生 物 学 実 験		①		
	食 品 微 生 物 学		2		
	食 品 貯 蔵 学			2	
公 衆 衛 生 学 関 係 の 科 目	公 衆 衛 生 学			2	
	食 品 衛 生 学			2	
そ の 他 関 連 科 目	食 品 生 産 科 学 入 門 実 験	①			
	食 品 工 学		②		
	食 品 生 産 学 実 習			①	
	衛 生 微 生 物 学			2	
	資 源 利 用 化 学			2	
	食 品 加 工 学			2	
	食 品 殺 菌 工 学			2	
	食 品 包 装 論			2	
	食 品 保 全 化 学			2	
食 品 冷 凍 学			2		
合計 44単位	計	3	15	26	0

学 修 の 手 引 き

(Ⅲ. 資格取得に関する学修 [2])

[2]. 学 内 資 格

- [1] 食品流通の安全管理システム専門技術者養成コース (対象:全学科)
- [2] 水圏環境教育推進リーダー認定コース (対象:全学科)
- [3] 海洋学コース (対象:海洋環境学科)
- [4] 海洋生物資源管理技術者認定プログラム (対象:海洋生物資源学科)
- [5] 水産科学プログラム (対象:全学科)

〔1〕食品流通の安全管理システム専門技術者養成コース

(対象：全学科)

1. 養成する人材

今日、我々が消費する食品はグローバルな規模で供給されており、その食品に対する安心・安全のニーズは社会全体が高まっています。この状況を踏まえ本学は、食品の生産、加工、流通、消費からなる食品流通を体系的に視野に入れた安全管理をマネジメントできる能力を持った実践的技術者を養成します。

2. 養成のための教育内容等

食品流通の安全管理をマネジメントできる技術者となるためには、食品流通全体をシステムとして理解する能力、食品・食品流通に伴うリスクおよび履歴情報等を管理する能力、並びに安心・安全な食品を安定的に社会に供給するという使命感、以上を職業人として身につける必要があります。こうした人材を養成するために、本学は、食品流通の安全管理システム専門技術者養成のための教育プログラムを以下のとおり準備しました。

- 1) 生産については、生物資源の生産・管理に関する教育
- 2) 加工については、加工・保存に関する食品衛生教育
- 3) 流通については、食品に係わる流通構造・機能、輸送管理及び輸送環境管理に関する教育
- 4) 消費については、消費者行動や消費者保護に関する教育

等を総合した体系的な教育が必要となります。本教育プログラムは、学部段階での基礎的専門教育「食品流通の安全管理技術者養成基本コース」（4年間）と大学院博士前期課程食品流通安全管理専攻（2年間）でのより高度な専門教育を一貫させて、このような総合的な教育を目指すものです。

3. 本コースの修了に必要な学部段階での指定科目及び修了要件

1) 指定科目

全学開講科目（必修）		食品流通安全管理論Ⅰ		食品流通に係る基礎的知識・実務的知識等の講義を行う。								
「食品流通安全管理システムコースに関する科目」		食品流通安全管理論Ⅱ		食品衛生学に係る基礎的知識・実務的知識等の講義を行う。								
※3年次以上、各2単位		食品流通安全管理論Ⅲ		リスク管理に係る基礎的知識・実務的知識等の講義を行う。								
※ 食品流通安全管理論Ⅰ～Ⅲは、卒業に必要な単位に含まれません。												
	科目名	単位	学年	科目名	単位	学年	科目名	単位	学年	科目名	単位	学年
海洋学 環境科	魚類学Ⅰ	2	1年	無脊椎動物学Ⅰ	2	1年	藻類学Ⅰ	2	1年	基礎流体力学	2	2年
	海洋科学入門	②	2年	海洋観測論	2	2年	生化学	2	2年	基礎海洋学	2	2年
	機械システム工学	2	2年	海上安全工学Ⅰ	2	2年	海洋環境政策論	2	2年	海上安全工学Ⅱ	2	3年
	海洋機能材料学	2	3年	海洋バイオテクノロジー	2	3年	環境測定学	2	3年			
海資源 生物学 学科	水族生理学	2	2年	遺伝子工学	2	2年	生産システム学	2	3年	集団生物学	2	2年
	保全増殖学	2	3年	水族薬理学	2	3年	応用微生物学	2	3年	水族養殖学	2	3年
	水族病理学	2	3年	水族栄養学	2	3年	公衆衛生学	2	3年	食品衛生学	2	3年
	食品加工学	2	3年									
食品生 産科 科	有機化学Ⅰ	2	1年	食品生産科学入門実験	①	1年	食品微生物学	2	2年	生物化学Ⅰ	2	2年
	微生物学	②	2年	化学実験	②	2年	微生物学実験	①	2年	物理学実験	①	2年
	食品化学	②	2年	食品工学	②	2年	衛生微生物学	2	2年	海洋バイオテクノロジー	2	2年
	食品生産学実習	①	3年	公衆衛生学	2	3年	食品衛生学	2	3年	食品加工学	2	3年
	食品殺菌工学	2	3年	食品貯蔵学	2	3年	食品分析学	2	3年	食品包装論	2	3年
	食品保全化学	2	3年	食品冷凍学	2	3年	食品微生物学実験	1	3年			
海洋文 化学 政策 学科	食料経済論	2	1年	有機化学Ⅰ	2	1年	水産経済学	2	2年	海洋環境政策論	2	2年
	水産物流通論	2	2年	食品マーケティング論	2	2年	生物化学Ⅰ	2	2年	海と健康	2	2年
	化学実験	2	2年	水産技術経済論	2	3年	水産国際関係論	2	3年	科学技術論	2	3年
	漁業管理論	2	3年	資源経済論	2	3年	生命論の諸問題	2	3年	水族栄養学	2	3年
	会計学	2	3年									

2) 修了要件

①全学開講の**食品流通安全管理論Ⅰ～Ⅲ**を修得すること。

②所属学科の指定科目より**20単位以上**を修得すること。

※修了要件を満たし、大学院博士前期課程食品流通安全管理専攻へ進学した者は、より高度な「食品流通の安全管理システム専門技術者養成コース」を受講することができます。

4. 履修認定・修了認定

コースの修了要件を満たし学部を卒業した者には「食品流通の安全管理技術者養成基本コース」の履修認定（履修認定証授与）を、また学部における「食品流通の安全管理技術者養成基本コース」を履修するとともに、大学院博士前期課程食品流通安全管理専攻における「食品流通の安全管理技術者養成コース」を履修し、本コースを修了した者には「食品流通の安全管理システム専門技術者」の修了認定（修了証授与）を、願い出により東京海洋大学が行います。

5. 本コース修了者の予想される就職先

この資格を有する者は、食料生産業、食品加工業、卸売業、小売業、物流業、設備製造業等における各種企業の安全管理部門、各種行政機関、NPO法人、安全教育・啓発機関などで活躍が期待されます。

〔2〕水圏環境教育推進リーダー認定コース

(対象：全学科)

1. 養成する人材

水圏環境が地球全体の環境や生態系に及ぼす影響は極めて大きく、とりわけ四方を海に囲まれたわが国では、一人ひとりが水圏環境に対する興味関心や素養を深めることが持続的社会実現のために求められています。

そのため本学では、専門知識に基づいた水圏環境教育プログラムの開発研究ならびに教育実践に取り組み、海を中心とする水圏環境を総合的に理解し、普及させる能力を持った水圏環境教育推進リーダーを養成します。

2. 養成のための教育内容等

水圏環境教育推進リーダーに求められる「水圏環境リテラシー」とは、海を中心とする水圏環境を総合的に理解する能力、即ち「水圏が我々に及ぼす影響、及び我々が水圏に及ぼす影響を理解する能力」です。

具体的には以下のような能力を身に付けることが必要です。

- ①水圏環境の機能についての基本概念を理解する能力
- ②その知識を他者に正しく、わかりやすく伝える能力
- ③水圏環境や資源について、広い見識に基づき、責任ある決定を行う能力

本学では、水圏環境教育推進リーダー養成のため、以下の教育プログラムを準備しました。

- 1) 水圏環境の様々な事象に関する教育
- 2) 水圏と人間社会との共生関係に関する教育
- 3) 水圏環境に関わる知識を他者へ分かりやすく伝達する能力を身に付ける教育
- 4) 水圏環境に関わる他者との連携、共同促進を図る能力を身に付ける教育

また、教育手法にケース・メソッドを広範に導入することにより、水圏環境にかかわる複合的な問題に対して、様々な利害を踏まえた視野から対処できる問題解決型の人材育成につとめます。

3. 本コースの修了に必要な学部段階での指定科目及び修了要件

指 定 科 目

各学科共通科目 (必修 5単位)

授 業 科 目	学 年	単 位	授 業 科 目	学 年	単 位	必 要 単 位 数
水圏環境リテラシー学	1年	①	水圏環境コミュニケーション学	3年	2	5単位履修
水圏環境リテラシー学実習	2年	1	水圏環境コミュニケーション学実習	3年	1	

学科別選択科目 (14単位)

海洋環境学科

授 業 科 目	学 年	単 位	授 業 科 目	学 年	単 位	必 要 単 位 数
魚類学I	1年	2	基礎海洋学	2年	②	10単位以上履修
無脊椎動物学I	1年	2	資源情報解析学	2年	2	
藻類学I	1年	2	浮遊生物学	3年	2	
分析化学	2年	②	基礎化学海洋学	2年	2	
有機化学	2年	2	環境微生物化学	3年	2	
基礎流体力学	2年	2	海洋バイオテクノロジー	3年	2	
海洋観測論	2年	2	海洋物理学	3年	2	
基礎生物海洋学	2年	②	海洋情報解析学	3年	2	
陸水学	2年	2	環境測定学	3年	2	
鯨類・海産哺乳類学	2年	2	水産海洋物理学	3年	2	
生化学	2年	2	環境エネルギー工学	3年	2	4単位以上履修
海洋生物学実験I	2年	2	環境システム科学実験	3年	2	
分析化学実験	2年	2	臨海生物学実習	2年	1	
水圏環境化学実験	3年	2	海洋学実習I	2年	1	

【選択の仕方】 講義から5科目10単位履修(ただし②は必修)、かつ実験・実習から4単位履修。計14単位履修する。

食品生産科学科

授 業 科 目	学 年	単 位	授 業 科 目	学 年	単 位	必 要 単 位 数
海洋植物学	1年	2	食品殺菌工学	3年	2	14単位以上履修
海洋動物学	1年	2	食品ゼロエミッション通論	3年	2	
食品微生物学	3年	2	食品貯蔵学	3年	2	
衛生微生物学	3年	2	食品分析学	3年	2	
機器分析概論	3年	2	食品包装論	3年	2	
技術開発と工業所有権	3年	2	食品保全化学	3年	2	
公衆衛生学	3年	2	食品冷凍学	3年	2	
資源利用化学	3年	2	食品レオロジー学	3年	2	
食品衛生学	3年	2	食文化史	3年	2	
食品加工学	3年	2	食と健康の科学	3年	2	
食品機械装置工学	3年	2				

海洋生物資源学科

授 業 科 目	学 年	単 位	授 業 科 目	学 年	単 位	必 要 単 位 数
海洋植物学	1年	2	陸水学	2年	2	10以上履修
海洋動物学	1年	2	応用微生物学	3年	2	
藻類生態学	2年	2				
微生物学概論	2年	2				4単位以上履修
動物生態学実習	3年	1	集団生物学実習	3年	1	
潜水調査実習	3年	1	保全増殖学演習	3年	1	
応用微生物学実験	3年	1	水族養殖・育種学実習Ⅱ	4年	1	
応用藻類学実習	3年	1				

海洋政策文化学科

授 業 科 目	学 年	単 位	授 業 科 目	学 年	単 位	必 要 単 位 数
海洋環境政策論	2年	2	海洋文化史	2年	2	14単位以上履修
海洋法総論	2年	2	沿岸地域社会調査	3年	1	
国際関係論特論	2年	2	沿岸域利用論	3年	2	
海洋性レクリエーション論	2年	2	地域環境論	3年	2	
コミュニケーション論	2年	2	海洋文学	3年	2	
環境と教育	2年	2	環境文学	3年	2	

このコースの取得については、各学科共通科目(必修5単位)、学科別選択科目(14単位以上)合計19単位以上を必要とする。

4. 履修認定・修了認定

コースの修了要件を満たし学部を卒業した者には、願い出により「水圏環境教育推進リーダー認定コース」の修了認定(修了証授与)を、東京海洋大学が行います。

〔3〕 海洋学コース

(対象：海洋環境学科)

1. 養成する人材

本学は海洋に関連する幅広い学問分野についての教育・研究を行っていますが、その1つに狭い意味の「海洋学」(Oceanography)があります。海洋学は、観測によるデータ取得を基盤とし、システムとしての海洋そのものを研究対象とする基礎科学です。海洋には、流動や熱収支などに関わる物理過程、物質の変化や輸送に関わる化学過程、生物群集の動態に関わる生物過程がありますが、これらの過程は統合した1つのシステムとして機能しています。海洋システムは、気候変動プロセスにおいて極めて重要な役割を果たしており、微細な変動についての高精度な観測・モニタリングが求められます。本コースで養成する人材は、1) 船上という特殊な環境において、先端的観測設備を駆使した高度な観測オペレーションを安全に実施するための技術と専門知識を有し、かつ2) 観測データを適切に解析・評価するために、海洋における物理・化学・生物過程のいずれについても素養を有する、高度な専門の人材です。このような人材は、気候変動に関連する海洋の研究だけでなく、水質汚濁・生態系破壊などのモニタリングとアセスメント、水産資源調査なども含めて、研究・調査・行政分野を中心に幅広く活躍が期待されます。

2. 養成のための教育内容等

上記のような人材を育成するため、本学では学部から博士前期課程までの一貫教育プログラムを設けています。海洋システムの統合的理解のための体系的な海洋学教育と、本学練習船や他機関の研究・調査船での海洋観測への参画による実地教育が、本コースの2つの大きな柱になっています。

3. 本コースの修了に必要な授業科目

本コース修了に必要な学部科目(31単位)は次の通りです。

授業科目の区分	授業科目	単位	1年	2年	3年	4年	必要単位数
海洋学に関する基礎科目	基礎海洋学	2		2			8単位
	基礎生物海洋学	2		2			
	基礎化学海洋学	2		2			
	基礎物理海洋学	2		2			
海洋観測に関する科目	海洋観測論	2		2			5単位
	海洋学実習Ⅰ	1		1			
	海洋学実習Ⅱ	1			1		
	海洋学実習Ⅲ	1				1	
海洋システムの統合的解析に関する科目	浮遊生物学	2			2		海洋システムの統合的解析に関する科目4単位以上を含む18単位
	海洋循環化学	2			2		
	水産海洋物理学	2			2		
海洋システムおよび関連プロセスに関する科目	資源情報解析学	2		2			
	海洋物理学	2			2		
	海洋情報解析学	2			2		
	大気科学	2			2		
	環境測定学	2			2		
	海洋流体力学	2		2			
	沿岸海洋学	2			2		
	乗船漁業実習Ⅱ	3			3		
	海洋生物学実験Ⅰ	2		2			
	海洋生物学実験Ⅱ	2			2		
	海洋生物学実験Ⅲ	2			2		
	分析化学実験	2		2			
	水圏環境化学実験	2			2		
	環境システム科学実験	2			2		
修了に必要な単位数計							

本コース修了には、上記の学部科目に加えて、次の博士前期課程の科目(15単位)の修得が必要です。

科目区分	開講する大学院の専攻	授業科目	単位数	備考
海洋観測実務に関する科目	海洋環境保全学専攻	海洋観測演習	1	本表の科目のうち、海洋観測実務に関する3科目3単位は必修とする。この他の3つの科目区分については、それぞれの区分から1科目2単位計6単位を含む6科目12単位以上の修得を要する。
		沿岸観測実習	1	
		外洋観測実習	1	
物理学的プロセスに関する科目		海洋力学	2	
		沿岸海洋物理学	2	
		海洋乱流・拡散	2	
		海洋生態物理学	2	
		環境情報解析学	2	
		情報解析応用学	2	
		地球気候変動論	2	
		環境測定学	2	
		光環境測定学	2	
		情報解析応用学	2	
		地球気候変動論	2	
		環境解析論	2	
化学的プロセスに関する科目	環境予測論	2		
	大気環境計測学	2		
	大気環境物理学	2		
生物学的プロセスに関する科目	化学海洋システム論	2		
	海洋環境保全学	2		
	生元素循環論	2		
	生物環境学	2		
	浮遊生物生態学	2		
	浮遊生物機能論	2		
	魚類生理生態学	2		
海洋生命科学専攻	環境生物学	2		
	漁業解析学	2		
修了に必要な単位数計				15単位

4. 履修認定・修了認定

本コースの修了要件を満たし、博士前期課程を修了した者については、願い出により「海洋学コース」の修了認定(修了証授与)を、東京海洋大学が行います。この修了認定は、海洋観測分野に関する「海洋観測士アドバンスドコース(解析系)」の修了認定を含みます。なお、本コース修了に必要な学部科目を修得して学部を卒業した者については、願い出により「海洋観測士ベーシックコース」の修了認定(修了証授与)を、さらに本コース修了に必要な学部科目を修得して水産専攻科を修了した者で、水産専攻科においてさらに下記の8単位を修得した者については、願い出により「海洋観測士アドバンスドコース(技術系)」の修了認定(修了証授与)を、東京海洋大学が行います。

授業科目の区分	授業科目	必要単位数
航海に関する科目	応用計測学	2
	応用電子工学	2
	航海計器学	2
運用に関する科目	海洋気象学	2
修了に必要な単位数計		8単位

〔4〕海洋生物資源管理技術者認定プログラム

(対象：海洋生物資源学科)

1. 養成する人材

海洋生物資源を持続的に利用することは、持続可能な社会を実現するために必要な課題の1つです。持続的利用は、自然の資源を使い過ぎることなく、自然の生産力に見合った生産を行うことによって実現されます。このような資源管理を行うためには、科学的調査・研究に基づいた資源の現状評価や将来の管理計画が必要となります。我が国においてもさまざまな種についての資源調査・研究が行われており、また持続的利用は世界の沿岸国に共通の課題であるため、調査・研究を的確に実行できる人材が不足しておりその養成が国内外から強く求められています。本プログラムでは、海洋生物資源の資源評価及び資源管理に関する専門的知識や技術力を習得し、資源管理の計画・実行において主導的な役割を担う人材を養成します。

2. 養成のための教育内容等

人材に求められる資質・能力としては、①海洋生物の利用、特に漁業生産に関する専門的知識を有し規制方法などに関する技術的な助言ができること、②生物の生態学および海洋生態系に関する専門的知識を有し、資源変動などに関して生物学的分析ができること、③生物資源の統計に関する専門的知識を有し、データの処理・解析ができること、④資源管理に関する専門的知識を有するなどです。

このような専門的知識と技術を有し、種によって異なる生物の特性や漁業の多様性にも対応できる人材を養成するために、学部4年間で資源管理に関する専門的知識と技術力、さらに大学院博士前期の2年間で高度でかつ専門的な知識や技術力を履修するプログラムを定め、必要な単位を修得した学生に対し最終試験を課して、合格した者を本プログラムの修了者として本学から認定証を授与します。

3. 本プログラムの修了者の予想される就職先

この資格を有する者は、官公庁、独立行政法人を含む国公立の試験研究機関、環境アセスメント会社、認証機関、NPO法人等における調査員・研究員などで活躍が期待されます。

4. 本プログラムの修了に必要な授業科目

授業科目の区分	授業科目	必要 単位数	学 部				博士前期課程		備 考
			1年次	2年次	3年次	4年次	1年次	2年次	
自然科学に関する科目	動物生態学	2		2					
	統計学	2		2					
	海洋統計学	2		2					
	漁法学	4		2					3科目のうち2科目を履修すること
	漁具学				2				
	生産システム学				2				
	魚群行動学	2					2		2科目のうち1科目を履修すること
	漁業解析学						2		
	乗船漁業調査特別実習	1					1		
漁業科学演習	2			2					
水産資源学に関する科目	生物資源統計学	2			2				
	生物資源解析学	2			2				
	鯨類資源論	2		2					
	生物資源解析学演習	1			1				
	生物資源管理学	2					2		2科目のうち1科目を履修すること
	生物資源解析学						2		
	資源変動論(連携)	2					2		2科目のうち1科目を履修すること
	資源評価学(連携)						2		
生態学に関する科目	集団生物学	2		2					
	保全増殖学	2			2				
	保全増殖学演習	1			1				
	初期生態学(連携)	2					2		2科目のうち1科目を履修すること
	比較生態学(連携)						2		
	保全生態学						2		
	生態生命情報学	2					2		3科目のうち1科目を履修すること
	栽培漁業学						2		
資源経済学に関する科目	海洋法総論	2		2					
	水産経済学	2		2					
	漁業管理論	2			2				
計	必 修	27	0	12	14	0	1	0	
	選 択 必 修	14	0	4	0	0	10	0	
修了に必要な単位数計	合 計	41単位	0	30	0		11	0	

このプログラムの取得については、学部科目30単位、博士前期課程11単位を必要とする。

〔5〕水産科学プログラム

(対象：全学科)

本プログラムは水産・海洋関係公務員等を目指す学生のための履修モデルです。修了認定の制度ではありません。

1. 養成する人材

本プログラムは国や地方の行政官として水産業や沿岸地域の振興、海洋環境保全、防災と復興事業などに関する政策の企画立案に係る高い能力や、国際技術協力における管理者としての能力を有する人材を養成することを目的とする。水産や海洋環境に関連する省庁や地方自治体等において政策の企画立案に携わる公務員では当該分野に関する幅広い知識と教養が不可欠であり、その採用試験においても多様な分野から出題されている。また本学部はJABEE認定されており、国際技術協力の分野における各種事業の管理者となるためには専門的知識ばかりでなく幅広い知識が必要となる。

2. 養成のための教育内容等

本プログラムは漁業学、水産資源学、水産海洋学・水産環境保全学、水産生物学、増養殖学、水産化学・水産利用学、水産経済学・水産経営学、キャリア科目の8分野からなり、行政機関において政策の企画立案のために必要な学識や国際技術協力分野における管理能力を得るための学科横断的な教育プログラムである。本学の卒業後にこれらの能力を生かして活躍しようとする者は、各分野の授業科目から4単位（キャリア科目分野は2単位）以上、合計30単位以上を修得することが望まれる。

3. 本プログラムが定める授業科目

分野	授業科目名	単位	推奨	分野	授業科目名	単位	推奨
漁業学	魚群行動学	2	4単位以上	増養殖学	水族養殖学	2	4単位以上
	漁法学	2			水族栄養学	2	
	漁具学	2			水族病理学	2	
	生産システム学	2			保全増殖学	2	
	漁業解析学	2					
	海上安全工学 I	2					
水産資源学	生物資源解析学	2	4単位以上	水産化学・水産利用学	食品加工学	2	4単位以上
	生物資源統計学	2			食品衛生学	2	
	集団生物学	2			食品化学	2	
	鯨類資源論	2			食品貯蔵学	2	
	水産資源動態学	2			食品冷凍学	2	
水産海洋学・水産環境保全学	基礎物理海洋学	2	4単位以上	水産経済学・水産経営学	微生物学	2	4単位以上
	基礎化学海洋学	2			水産経済学	2	
	基礎生物海洋学	2			水産物流通論	2	
	資源情報解析学	2			海洋利用制度論	2	
					漁業管理論	2	
水産生物学	魚類学 I	2	4単位以上	キャリア科目	水産政策論	2	2単位以上
	藻類学 I	2			海洋法総論	2	
	無脊椎動物学 I	2			水産行政論	2	
	海洋植物学	2			グローバルキャリア入門	2	
	海洋動物学	2			海洋環境実務実習	1	
	水族生理学	2			海洋生物資源実務実習	1	
		合計		30単位以上			

学 修 の 手 引 き

(IV. 教務関係の諸手続等)

- 〔1〕 授業料について
- 〔2〕 教務関係事項の通知及び連絡
- 〔3〕 証明書
- 〔4〕 欠席
- 〔5〕 休学
- 〔6〕 復学
- 〔7〕 退学
- 〔8〕 転学科
- 〔9〕 転学部
- 〔10〕 台風接近等による授業等の取扱いについて
- 〔11〕 国立科学博物館の利用
- 〔12〕 国立美術館の利用
- 〔13〕 国立劇場の利用

〔1〕授業料について

本学では、授業料の支払い方法を原則として預金口座自動振替（口座引き落とし）としています。授業料は前期分が5月20日、後期分が11月20日に大学に届出をした銀行口座から引き落とされます。（20日が土・日・祝祭日の場合は翌営業日）。前日15時までに授業料相当額を入金しておいてください。

また、前期分または後期分の授業料の引き落としができず、督促してもなお納付されない場合は、未納学期の学期末で除籍となります。

なお、未納学期における取得単位は、認められません。

〔2〕教務関係事項の通知及び連絡

1. 連絡方法

教務課で行う学生への通知及び連絡は、掲示板に掲示することにより行います。

学生は、毎日の入構時及び帰宅時に必ず掲示板を見るようにしてください。

【通知及び連絡事項】

- 時間割表関係
休講、補講、集中授業、授業担当教員変更、開講曜日・時間変更
- 試験、レポート関係
- 実験・実習関係、呼び出し
- その他（主な行事、転学科者・専攻科進学者決定通知等）

2. 窓口事務取扱時間

教務課の窓口事務取扱時間は8：30～18：00、証明書自動発行機の稼働時間は9：00～18：00です。

※土・日・祝日、「夏季一斉休業」、「年末年始一斉休業」は開設していません。また、入学試験等により学内への入講が制限される場合があります。

※休業期間中は、窓口の開設時間を短縮する場合があります。その際は、事前に掲示等でお知らせします。

〔3〕証明書

1. 以下の証明書については、教務課窓口前エントランスに設置してある証明書自動発行機で発行します。

和文・・・「在学証明書」、「成績証明書」、「卒業見込証明書」、「卒業証明書」、
「学校学生生徒旅客運賃割引証(学割)」、「通学定期券購入証明書」、「健康診断証明書」
英文・・・「在学証明書」、「成績証明書」、「卒業見込証明書」、「卒業証明書」

2. 上記以外の証明書については、諸証明書交付願に所要事項を記入して願い出なければなりません。この場合の証明書の交付日は、申し込みが集中する期間を除き、申請日の2日後の午後とします。

3. 卒業後、証明書の交付を希望する者は、電話での申し込みは受け付けませんので、直接来学するか郵送とし、郵送の場合は諸証明書交付願、返信用の封筒（切手貼付）及び身分証明書のコピー（免許証、保険証等）を同封のうえ教務課総務係宛請求願います。なお、詳細については同係まで問い合わせてください。

*「諸証明書交付願」は、大学ホームページ（<http://www.kaiyodai.ac.jp/info/11408.html>）からダウンロードできます。

〔4〕欠席

次の事由による場合のみ、欠席届を受け付けます。

①7日以上病気・怪我（診断書等を添付すること。）

②その他やむを得ない事由（忌引き等。日時を証明できるものを添付すること。）

〔5〕 休 学

疾病、その他の特別の理由により2ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができます。

1. 休学の手続

休学の許可を得ようとする場合は、休学願に疾病の場合は医師の診断書、その他の場合は具体的な理由を添付し、教務課総務係に提出しなければなりません。なお、提出に際しては事前に学生支援教員、指導教員及び教務課総務係と相談してください。

2. 休学期間

休学期間は1年以内としますが、特別の理由がある場合は1年を限度として休学期間を延長することができます。休学期間は、継続して2年、通算して3年を超えることができません。なお、休学期間は在学期間に算入しません。

3. 休学期間の授業料

1. 学期の初日(前学期は4月1日、後学期は10月1日)から休学する場合は、休学期間中(月の途中までの休学の場合は、その前月まで)の授業料が免除されます。
2. 学期の途中から休学する場合については、前学期は5月1日、後学期は11月1日までに休学を開始する場合に限り、授業料は4月分、10月分のみ徴収となり、休学を終了する月まで(月の途中までの休学の場合は、その前月まで)の授業料は免除されます。
3. 前学期は5月2日以降、後学期は、11月2日以降から休学する場合は、その学期の授業料の全額を徴収します。

なお、休学を遡ってすることは出来ません。
また、授業料の徴収猶予を受けている場合や前・後学期にまたがって休学する場合については、このとおりとは限りませんので、詳細については必ず教務課総務係にご確認下さい。

〔6〕 復 学

休学期間中にその事由が消滅したときは、復学願を教務課総務係に提出し、学長の許可を受けなければなりません。復学した者は、復学の際に、月割計算によるその期の授業料を納付しなければなりません。

〔7〕 退 学

退学しようとする者は、学長の許可を受けなければなりません。

(退学の手続)

退学の許可を得ようとする場合は、退学願を教務課総務係に提出しなければなりません。なお、提出に際しては事前に学生支援教員、指導教員及び教務課総務係と相談してください。各授業料納付期限の初日以降に退学の許可を受ける場合は、当該期分の授業料を納付しなければなりません。ただし、分納を認められていた者は翌月から免除されます。

〔8〕 転 学 科

海洋科学部の他学科に転学科を志願する者があるときは、学長が許可することがあります。

1. 転学科の時期は、第2年次の4月です。
2. 転学科を志願する者は、第1年次後学期の所定の期間内に「転学科願書」を教務課に提出して下さい。
※詳細は掲示板にて通知します。

3. 出願要件

出願する者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

- (1) 第1年次に在学している者
- (2) 一般入試により本学部に入学者
- (3) 第1年次の前学期において、当該学期に開講する全ての必修科目を含め18単位以上修得している者
- (4) 第1年次の前学期において、修得単位の成績評価数の70%（小数点第一位切上げ）が「優」であること。（認定した科目は、成績評価数に含めない。）
- (5) 大学入試センター試験において、転学科希望先の各学科が指定する下記の科目を受験していること。

転学科希望先学科	指定科目
海洋環境学科	数学, 理科, 外国語
海洋生物資源学科	数学, 理科, 外国語
食品生産科学科	数学, 理科, 外国語
海洋政策文化学科	指定なし

4. 転学科後の授業科目の履修

- (1) 転学科後は、新しく所属する学科のカリキュラムが適用されます。
- (2) 第1年次生の時に修得した単位は、新しく所属する学科で修得したものとして取り扱われます。

【学則第30条・転学科取扱要領】

〔9〕 転 学 部

海洋工学部に転学部を志願する者があるときは、学長が許可することがあります。

1. 転学部の時期は、第2年次又は第3年次の4月です。（学科により異なります。）
2. 転学部を志願する者は、第1年次又は第2年次の所定の期間内に教務課に申し出てください。
※詳細は掲示板にて通知します。

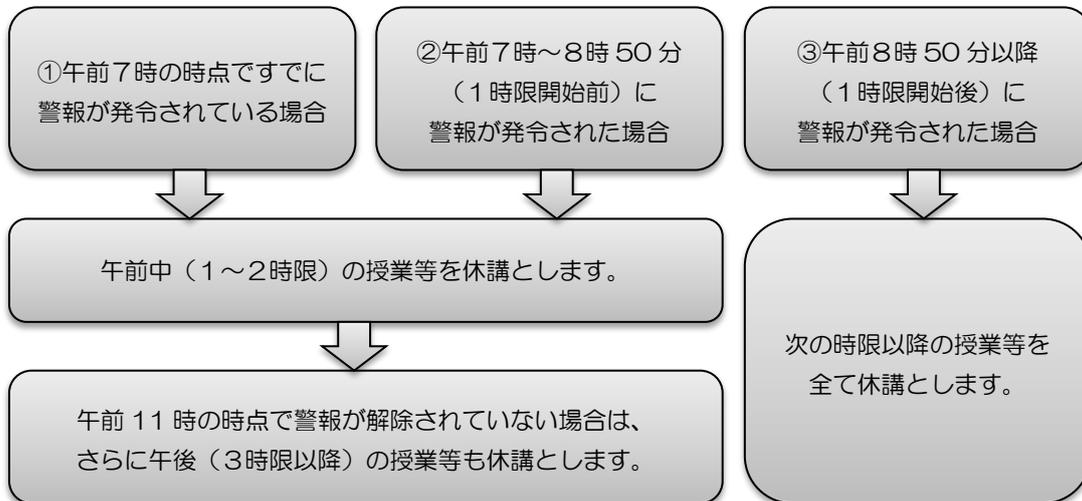
【学則第30条】

〔10〕 台風接近等による授業等の 取扱いについて

本学では、台風接近時等における学生の身体の安全を確保することを目的として、講義、実験、実習、演習、ゼミ、集中授業、定期試験等（以下「授業等」という。）の休講措置等について、次のとおり定めています。

台風による休講の取扱い 判断チャート

- ◆「警報」とは…台風の接近による、暴風警報または暴風特別警報のことをいいます。
- ◆「発令」とは…東京23区のいずれかの区域で発令されることをいいます。



- ◆警報の発令状況は、気象庁のホームページで確認してください。
(<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>)
- ◆台風接近により授業等を休講する場合は、原則として、周知・連絡は行いません。

台風以外の理由による休講の取扱い

- ◆以下のような台風以外の理由により、授業等を休講することを学長が決定した場合は、大学のホームページ、緊急時連絡システム等で周知・連絡します。
- ①台風による警報の発令以前であっても帰宅困難な状況が予想されるとき
- ②東京23区内に台風接近以外による警報等が発令された場合や、広域にわたる公共交通機関の運休が発生した場合等で、授業等を休講とすることが必要と判断されるとき

◆その他の注意事項

- キャンパス外で行われる学外実習、教育実習、博物館実習、乗船実習、インターンシップおよび課外活動等については、各実習先担当者の指示に従ってください。
- 休講となった授業等の補講については、掲示に従ってください。

〔11〕 国立科学博物館の利用

本学は「国立科学博物館 大学パートナーシップ」に加入しています。
 本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が**無料**で利用できます。特典の詳細は下記のとおりです。

特典内容	学生入場料（受講料）	通常入場料 （通常受講料）
常設展	無料	620円
特別展（割引適用除外有）	620円割引	通常1,500円程度
博物館実習 「博物館実習Ⅱ」の単位修得ができます。	5,150円	10,290円
サイエンスコミュニケーター養成実践講座	30,860円	61,710円
大学生のための科学史講座	6,170円	12,340円
大学生のための自然史講座	15,430円	30,860円

施設名	郵便番号	住所	URL
国立科学博物館（上野地区）	〒110-8718	東京都台東区上野公園7-20	http://www.kahaku.go.jp/
附属自然教育園	〒108-0071	東京都港区白金台5-21-5	http://www.ins.kahaku.go.jp
筑波実験植物園	〒305-0005	茨城県つくば市天久保4-1-1	http://www.tbg.kahaku.go.jp/

〔12〕 国立美術館の利用

本学は「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しています。
 本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が**無料**で利用できます。

施設名	郵便番号	住所	URL
東京国立近代美術館 （工芸館・フィルムセンターを含む。）	〒102-8322	東京都千代田区北の丸公園3-1	http://www.momat.go.jp/
国立西洋美術館	〒110-0007	東京都台東区上野公園7-7	http://www.nmwa.go.jp/
国立新美術館	〒106-8558	東京都港区六本木7-22-2	http://www.nact.jp/

〔13〕 国立劇場の利用

本学は「国立劇場キャンパスメンバーズ」に加入しております。
 これにより、本学学生は、国立劇場主催公演の歌舞伎、文楽、日本舞踊及び邦楽並びに国立演芸場の公演の一部を、特別割引料金（キャンパスメンバーズ料金）で鑑賞することができます。
 ご利用の際には窓口で学生証を提示し「キャンパスメンバーズ加入校」と伝えてください。電話予約も可能となっております。
 本制度についての詳細、対象公演及びキャンパスメンバーズ特典については、国立劇場ホームページを参照してください。

施設名	郵便番号	住所	URL
国立劇場	〒102-8656	東京都千代田区隼町4-1	http://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu.html

諸

規

則

〔1〕 東京海洋大学海洋科学部履修規則

東京海洋大学海洋科学部履修規則

第1節 総則

(趣旨)

第1条 東京海洋大学海洋科学部（以下「本学部」という。）における教育課程等に関し必要な事項は、東京海洋大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、総合科目、基礎教育科目、専門科目及び教職に関する科目に区分する。

2 授業科目を分けて、必修科目及び選択科目とする。

(単位)

第3条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算する。

- 一 講義については、15時間をもって1単位とする。
- 二 演習については、30時間をもって1単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、45時間をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等については、この授業科目に必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

(卒業の要件)

第4条 本学部を卒業するためには、別表1に掲げる授業科目の区分ごとに定める単位を修得しなければならない。ただし、水産教員養成課程の学生は、別表2に掲げる授業科目の区分ごとに定める単位を修得しなければならない。

(早期卒業の要件)

第5条 学則第42条第2項の定めるところにより、本学に3年以上在学した者が、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、卒業を認定することができる。

2 早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 教育課程及び履修方法

(授業科目及び単位数)

第6条 授業科目及び単位数は、別表3のとおりとする。ただし、水産教員養成課程の学生は、別表3及び別表4のとおりとする。

(履修方法)

第7条 学生は、別表3に定める開講年次に従い、履修するものとする。ただし、水産教員養成課程の学生は、別表3及び別表4に定める開講年次に従い、履修するものとする。

2 学生は、授業科目を担当する教員（以下「担当教員」という。）が予め認めた授業科目に限り、当該学生の所属する年次より高年次に開講する授業科目を履修することができる。ただし、セミナー及び卒業論文を除く。

(履修科目の登録)

第8条 学生は、所定の期間内に、その学年において履修しようとする授業科目を所定の方法により登録し、その内容を確認しなければならない。

2 前項の登録内容に不備がある場合は、所定の期間内に所定の方法で修正しなければならない。

(履修登録単位数の上限)

第9条 前学期又は後学期における履修登録単位数は30単位を上限とし、当該年度中に履修登録できる単位数は、第1年次生及び第2年次生においては各50単位、第3年次生及び第4年次生においては各60単位を超えてはならない。

2 前学期又は後学期において、履修登録確認後においてもなおかつ前項の上限を超えている場合には、当該学期の全授業科目の履修登録を無効とする。

3 集中授業（特定期間に集中して行う授業をいう。）、実習、学則第34条、第35条及び第36条に基づき本学において修得したものとみなされた単位、教職に関する科目及び学芸員に関する科目は、前2項に定める単位数に算入しない。ただし、水産教員養成課程の学生にあっては、教職に関する科目（理科教育法Ⅰ及びⅡを除く。）は前2項の単位数に算入する。

(他学科等及び他学部の履修)

第10条 学生は、本学部の他学科の授業科目及び他学部の授業科目を履修することができる。

- 2 他学部の授業科目の履修を希望する学生は、「他学部の授業科目の履修願」に希望する科目の担当教員の許可を得て、履修科目の登録期間内に提出しなければならない。
- 3 他学科及び他学部の授業科目で、開講する学部及び学科において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は、卒業に必要な単位に算入しない。

(先行履修)

第10条の2 第4年次の学生は、第20条に定める卒業論文及びセミナーの指導教員が教育上有益であり修学に支障がないと認め、かつ東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科博士前期課程（以下「大学院」という。）の授業科目の担当教員が履修可能と認めた場合、6単位を限度として先行して履修（以下「先行履修」という。）することができる。

- 2 先行履修を希望する学生は、「先行履修許可願」に卒業論文及びセミナーの指導教員並びに希望する大学院の授業科目の担当教員の署名又は押印を得て、履修科目の登録期間内に学務部教務課に提出しなければならない。
- 3 先行履修により修得した単位は、卒業に必要な単位数に算入しない。

(外国人留学生に対する授業科目等の特例)

第11条 学則第47条に規定する外国人留学生に対する授業科目等の特例については、別に定める。

第3節 試験、成績評価及び単位の授与等

(試験)

第12条 定期試験は、授業科目ごとに、当該授業が修了した学期末の所定の期間に行う。ただし、定期試験以外の試験をもってこれに代えることができる。

- 2 定期試験は、履修登録を行った授業科目に限り、受けることができる。
- 3 定期試験は、授業科目の出席時数が全授業時数の3分の2に満たない場合は、受けることができない。

(追試験)

第13条 疾病その他やむを得ない事由で定期試験を受験できなかった者は、追試験を受けることができる。

- 2 追試験を受けようとする者は、当該学期の定期試験の終了後7日以内に、追試験願にその事由を証明する診断書等を添えて、担当教員に提出しなければならない。
- 3 追試験の実施日は、担当教員が指定する。

(成績の評価)

第14条 成績の評価は、平常の学業成績及び定期試験等の成績を総合して行うものとする。

(成績の評価基準)

第15条 成績の評価基準は、次のとおりとする。

成績評価		評価点
合格	優	100点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

(注) 評価点は、100点を満点とした点数である。

(単位の授与)

第16条 成績評価の結果、合格の評価を得た学生に対しては、所定の単位を与える。

(再履修)

第17条 不合格となった授業科目の単位を修得するためには、その授業科目を再履修しなければならない。

(修学指導)

第17条の2 単位修得の状況が不振の学生に対して、個別に修学指導を行うことがある。

- 2 前項の修学指導の対象となる学生の成績等の基準その他修学指導に必要な事項は、別に定める。

第4節 進級、卒業論文及びセミナー

(第3年次への進級の要件)

第18条 第2年次の学年終了時までには、修得した授業科目の単位数の合計が70単位に満たない学生は、第3年次へ進級することができない。ただし、第3年次へ進級できない場合でも、担当教員の許可が得られる場合は、第3年次に開講されている科目を履修することができる。

- 2 前項の進級の要件となる単位数には、第4条(卒業要件)に規定する授業科目の区分ごとに定められた単位数を超えて修得した単位は、算入しない。
- 3 第1項に規定する単位数には、次表の授業科目の単位を含むものとする。

科目区分 \ 学 科	海洋環境 学 科	海洋生物 資源学科	食品生産 科 学 科	海洋政策 文化学科	備 考
総 合 科 目	11	11	11	11	フレッシュマンセミナー(1単位)を含む。
基 礎 教 育 科 目	24	24	24	24	
専 門 科 目 の 基 礎 科 目	12	8	20	6	海洋政策文化学科においては海洋政策文化入門(2単位)を含む。
教職に関する科目(必修)	7	7	7	7	水産教員養成課程学生のみ に適用。

(第4年次への進級の要件)

第19条 第3年次の学年終了時までには、総合科目外国語系の単位8単位以上、基礎教育科目の「TOEIC演習」及び海洋政策文化学科においては専門科目の基礎科目「海洋政策文化研究法」の単位を含め、修得した授業科目の単位数の合計が104単位に満たない学生は、第4年次へ進級することができない。ただし、第4年次へ進級できない場合でも、担当教員の許可が得られる場合は、第4年次に開講されている科目を履修することができる。(セミナー及び卒業論文を除く。)

- 2 前項の進級の要件となる単位数には、第4条(卒業要件)に規定する授業科目の区分ごとに定められた単位数を超えて修得した単位は、算入しない。
- 3 水産教員養成課程の学生にあつては、第1項の104単位に教職に関する科目(必修)を14単位以上含むものとする。

(卒業論文及びセミナー)

第20条 卒業論文及びセミナーを履修する学生は、所属する学科の教員の中から当該教員の許可を得て、その指導を受けるものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、所属する学科主任の承認を得た場合は、他学科等の教員の許可を得て、その指導のもとに履修することができる。
- 3 第19条の規定に定める第4年次への進級の要件を満たさない学生は、卒業論文及びセミナーの履修はできない。

(卒業論文の提出)

第21条 卒業論文は、あらかじめ指導教員の許可を得た題目を学務部教務課に届けなければならない。

- 2 卒業論文が完成したときは、指導教員に提出しなければならない。

第5節 免許の取得に関する科目

(教育職員の免許取得)

第22条 水産教員養成課程の学生及び学則第37条の規定に基づく、教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする学生は、別表4に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(学芸員の資格の取得)

第23条 学芸員の資格を取得しようとする学生は、別表5に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格の取得)

第24条 食品生産科学科の学生で、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得しようとする学生は、別表6に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(船舶職員養成施設の修了資格の取得)

第25条 船舶職員養成施設の修了資格を取得しようとする学生は、別表7に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(海技免許講習施設の修了資格の取得)

第26条 海技免許講習施設の修了資格を取得しようとする学生は、別表8に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(第一級海上特殊無線技士の資格の取得)

第27条 第一級海上特殊無線技士の資格を取得しようとする学生は、別表9に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(船舶衛生管理者の資格の取得)

第28条 船舶衛生管理者の資格を取得しようとする学生は、別表10に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(食品流通の安全管理システム専門技術者養成コースの授業科目)

第29条 食品流通の安全管理専門技術者養成基本コースの修了資格を取得しようとする学生は、別表11に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

(水圏環境教育推進リーダー認定コースの授業科目)

第30条 水圏環境教育推進リーダー認定コースの修了資格を取得しようとする学生は、別表12に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

第6節 水産専攻科進学

(水産専攻科進学の要件)

第31条 水産専攻科へ進学を志望する者は、第2年次終了後、所定の期間内に専攻科進学願を学務部教務課を経て学部長に提出しなければならない。

2 水産専攻科への進学を志望する者は、別表7及び別表8に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 改正後の東京海洋大学海洋科学部履修規則（以下「履修規則」という。）別表専門科目〔海洋食品科学科〕及び専門科目〔海洋食品科学科（水産教員養成課程）〕の授業科目中、「食品科学実務実習」については、平成16年度入学者にあつては、当該学生に適用される履修規則別表専門科目〔海洋食品科学科〕及び専門科目〔海洋食品科学科（水産教員養成課程）〕の授業科目に、平成13～15年度入学者にあつては、当該学生に適用される東京水産大学履修規則別表専門科目〔食品生産学科〕及び専門科目〔食品生産学科（水産教員養成課程）〕の授業科目に開講しているものとして取り扱う。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 改正後の履修規則別表専門科目〔海洋政策文化学科〕及び専門科目〔海洋政策文化学科（水産教員養成課程）〕の授業科目中、「マーケティングⅠ」、「マーケティングⅡ」、「地域政策論」、「地域環境論」、「マーケティング海外研修」については、平成16年度入学者にあつては、当該学生に適用される履修規則別表専門科目〔海洋政策文化学科〕及び専門科目〔海洋政策文化学科（水産教員養成課程）〕の授業科目に開講しているものとして取り扱い、「食品マーケティング論」、「地域研究論」及び「流通・マーケティング論海外研修」を削る。
- 3 改正後の履修規則別表「食品流通安全管理システムコースに関する科目」については、平成16年度入学者にあつて

は、当該学生に適用される履修規則別表に開講しているものとして取り扱い、平成13～15年度入学者にあつては、当該学生に適用される東京水産大学履修規則別表に開講しているものとして取り扱う。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行し、平成16年度入学者から適用する。
- 2 平成17年度以前入学の海洋政策文化学科学生にあつては、平成18年3月31日以前に修得した単位の授業科目の区分については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成20年4月1日から施行し、平成16年度入学者から適用する。ただし、別表3、別表4(3)、別表4(4)、別表11(2)及び別表12(2)の授業科目の改正については、平成20年度入学者から適用する。
- 2 別表12(1)の授業科目は、平成16年度から平成19年度までの入学者の卒業に必要な単位に含まない。

附 則

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第9条第3項のうち大学院の授業科目に関する規定及び第10条の2の規定は、水産学部に在学する学生にこれを準用する。この場合において、第10条の2第1項中「第20条」とあるのは、「東京水産大学履修規則第15条」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日に在学する者及び平成23年度までの編入学者については、改正後の別表4(1)中「教職実践演習(高等学校)」を除き、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日に在学する者及び平成24年度までの編入学者については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日に在学する者及び平成25年度までの編入学者については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日に在学する者及び平成26年度までの編入学者については、改正後の別表3(3)中「海外派遣キャリア演習」を除き、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成25年6月6日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日に在学する者及び平成27年度までの編入学者については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成26年6月12日から施行し、平成26年4月1日から適用する。
- 2 改正前の別表3(3)の授業科目中「海外派遣キャリア演習」を履修した在学生にあっては、改正後の同表の授業科目中「海外派遣キャリア演習Ⅰ」を履修したものとして扱う。

附 則

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日に在学する者及び平成28年度までの編入学者については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年2月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日に在学する者及び平成29年度までの編入学者については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1

授業科目の区分		学 科	海洋環境 学 科	海洋生物 資源学科	食品生産 科学科	海洋政策 文化学科
総 合 科 目	全 学 共 通 科 目		5	5	5	5
	文 化 学 系		4	4	4	4
	哲 学 ・ 科 学 論 系		4	4	4	4
	社 会 科 学 系		4	4	4	4
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 系		2	2	2	2
	外 国 語 系		8	8	8	8
	自 由 選 択		4	4	4	4
基 科 礎 教 育 目	全学共通科目		4	4	4	4
	学部共通 科 目	必 修	13	13	13	13
		選 択	8	8	8	8
専 門 科 目	基 礎 科 目		14	12	22	8
	必 修 科 目		9	9	14	11
	選 択 科 目		39	41	26	37 (I 群) 6 (II 群)
	他 学 部 ・ 他 学 科 等 開 講 科 目		6	6	6	6
卒 業 に 必 要 な 単 位			124	124	124	124
備考：1 総合科目のうち自由選択については、本学部の総合科目の中から自由に選択し、履修すること。また、海洋工学部の総合科目のうち、本学部の授業科目と名称が異なるものも含めることができる。 2 他学部・他学科等開講科目は、海洋工学部の専門科目、本学部の他学科の専門科目（セミナー及び卒業論文を除く。）及び別表の学部共通専門科目とする。なお、他学科及び他学部の授業科目で、開講する学部及び学科において卒業に必要な単位数に含まない授業科目は、卒業に必要な単位に算入しない。						

別表 2

授業科目の区分		学 科	海洋環境 学 科	海洋生物 資源学科	食品生産 科学科	海洋政策 文化学科
総 合 科 目	全 学 共 通 科 目		5	5	5	5
	文 化 学 系		4	4	4	4
	哲 学 ・ 科 学 論 系		4	4	4	4
	社 会 科 学 系		4	4	4	4
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 系		2	2	2	2
	外 国 語 系		8	8	8	8
基 科 礎 教 育 目	全学共通科目		4	4	4	4
	学部共通 科 目	必 修	13	13	13	13
		選 択	8	8	8	8
専 門 科 目	基 礎 科 目		14	12	22	8
	必 修 科 目		9	9	14	11
	選 択 科 目		*31	*33	*18	30 (I 群) *5 (II 群)
教 職 に 関 する 科 目			24	24	24	24
卒 業 に 必 要 な 単 位			130	130	130	130
備考：1 *印の単位には、職業指導の1単位を含む。 2 別表4の高等学校教諭一種免許状（水産）取得に必要な科目の単位を修得しなければならない。						

別表3
(1) 総合科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考		
	1年次		2年次		3年次		4年次			計	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期			
全学共通科目											
フレッシュマンセミナー	①(集中)									①	○印の数字は、必修科目の単位数を表す。
海の科学	①									①	
船の科学	①									①	
海と生命	①									①	
海と文化	①									①	
文化学系											
文学		2								2	
人文地理学	2									2	
ヨーロッパ文化論		2								2	
現代ヨーロッパ論		2								2	
英米社会文化入門				2						2	
英米表象文化入門			2							2	
哲学・科学論系											
哲学	2									2	
哲学史				2						2	
心理学			2							2	
生命倫理		2								2	
生命文化			2							2	
科学史	2									2	
技術史				2						2	
社会科学系											
社会学		2								2	
基礎法学	2									2	
国際法と日本国憲法		2								2	
経済学	2									2	
近現代史	2									2	
政治学		2								2	
健康・スポーツ系											
こころと身体	2									2	
スポーツ I	1									1	
スポーツ II		1								1	
外国語系											
Basic English I *	1									1	三級海技士（航海）の資格を取得する学生は、*印の科目の中から2単位以上、修得しなければならない。
Basic English II *		1								1	
Practical English I	1									1	
Practical English II		1								1	
Effective English I *			1							1	
Effective English II *				1						1	
Interactive English I *			1							1	
Interactive English II *				1						1	
Intensive English I					1					1	
Intensive English II						1				1	
Intensive English III					1					1	
Intensive English IV						1				1	
基礎ドイツ語 I	1									1	*印の科目の単位は、放送大学との単位互換協定により修得できる。
基礎ドイツ語 II		1								1	
応用ドイツ語 I			1							1	
応用ドイツ語 II				1						1	
基礎フランス語 I	1									1	
基礎フランス語 II		1								1	
応用フランス語 I			1							1	
応用フランス語 II				1						1	
基礎ロシア語 I	1									1	
基礎ロシア語 II		1								1	
応用ロシア語 I			1							1	
応用ロシア語 II				1						1	
基礎中国語 I	1									1	
基礎中国語 II		1								1	
応用中国語 I			1							1	
応用中国語 II				1						1	
基礎スペイン語 I	1									1	
基礎スペイン語 II		1								1	
応用スペイン語 I			1							1	
応用スペイン語 II				1						1	
※韓国語 I	2(放送大)	2(放送大)								2	
※韓国語 II	2(放送大)	2(放送大)								2	

各別表中の(集中)は集中授業を示す。

(2) 基礎教育科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
全学共通科目										
情報リテラシー	②								②	○印の数字は、必修科目の単位数を表す。
日本語表現法	②	②							②	
学部共通科目 必修										
基礎微積分Ⅰ	②								②	●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
基礎微積分Ⅱ	②								②	
生物学	②								②	
物理学	②								②	
化学	②								②	
TOEIC入門	①								①	
水圏環境リテラシー学		①							①	
TOEIC演習					①(集中)				①	
学部共通科目 選択										
数学解析		2							2	
数学概論		2							2	
情報処理概論Ⅰ			2	2					2	
情報処理概論Ⅱ			2	2					2	
統計学			2						2	
海洋統計学				2					2	
地学			2(集中)						2	
●地学実験							1(集中)		1	

(3) 専門科目 [学部共通専門科目]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
社会連携論Ⅰ					2				2	【担当】産学・地域連携推進機構 [注] [注]
社会連携論Ⅱ						2			2	
水産行政論						2			2	
水圏環境リテラシー学実習			1(集中)						1	
水圏環境コミュニケーション学実習					1(集中)				1	
水泳実習			1(集中)						1	
グローバルキャリア入門	2(集中)								2	
海外派遣キャリア演習Ⅰ					2(集中)				2	
海外派遣キャリア演習Ⅱ							2(集中)		2	

[注] 科目の単位を修得した場合は、「他学部・他学科等開講科目」の卒業に必要な単位に算入する。
(水産教員養成課程を除く。)

(4) 専門科目 [海洋環境学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎科目										第3年次進級要件 第2年次終了時まで、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。 1. 総合科目11単位以上 (「フレッシュマンセミナー」を含む) 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位) 3. 専門科目の基礎科目12単位以上
魚類学Ⅰ		2							2	
無脊椎動物学Ⅰ		2							2	
藻類学Ⅰ		2							2	
化学概論		2							2	
物理学概論Ⅰ		2							2	
海洋科学入門			②						②	
分析化学			2						2	
有機化学			2						2	
物理学概論Ⅱ			2						2	
数理科学			2						2	
線形数学				2					2	
基礎流体力学			2						2	
必修科目										
セミナー							①(集中)		①	
卒業論文							⑧(集中)		⑧	
選択科目										第4年次進級要件 第3年次終了時まで、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。 卒業論文・セミナー履修要件 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。
海洋観測論			2						2	
魚類学Ⅱ			2						2	
無脊椎動物学Ⅱ			2						2	
藻類学Ⅱ			2						2	
基礎生物海洋学				2					2	
陸水学				2					2	
鯨類・海産哺乳類学				2					2	
海洋生物学実験Ⅰ			2						2	
臨海生物学実習			1(集中)						1	
生化学				2					2	
海洋循環化学						2			2	
分析化学実験				2					2	
物理数学			2						2	
基礎海洋学			2						2	
海洋流体力学				2					2	
資源情報解析学				2					2	
基礎物理海洋学				2					2	

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
応用解析				2					2	三級海技士（航海）の資格を取得する学生は、*印の科目の単位を修得しなければならない。
環境物理学				2					2	
環境物理学実験			2						2	
機械システム工学				2					2	
応用情報テクノロジーⅠ*				2					2	
海洋計測学Ⅰ*				2					2	
電気電子工学*				2					2	
海上安全工学Ⅰ*				2					2	
環境テクノロジー実習			1(集中)						1	
海洋環境政策論			2						2	
海事法規*			2						2	
海洋学実習Ⅰ			1(集中)						1	
乗船漁業実習Ⅰ*				1(集中)					1	
浮遊生物学					2				2	
個体群生態学					2				2	
水産資源動態学						2			2	
海洋資源生態学						2			2	
海洋生物学実験Ⅱ					2				2	
海洋生物学実験Ⅲ						2			2	
個体群生態学演習						1			1	
基礎化学海洋学				2					2	
海洋天然物化学					2				2	
環境微生物化学					2				2	
海洋機能材料学						2			2	
海洋バイオテクノロジー						2			2	
水圏環境化学実験					2				2	
海洋物理学					2				2	
海洋情報解析学					2				2	
環境測定学					2				2	
水産海洋物理学*					2				2	
数値解析					2				2	
大気科学					2				2	
沿岸海洋学						2			2	
環境システム科学実験						2			2	
海洋環境機械学					2				2	
環境エネルギー工学					2				2	
海上安全工学Ⅱ					2				2	
応用情報テクノロジーⅡ					2				2	
海洋計測学Ⅱ					2				2	
先端海洋テクノロジー					2				2	
海岸環境工学						2			2	
環境テクノロジー実験Ⅰ					2				2	
環境テクノロジー実験Ⅱ						2			2	
海洋法特論						2			2	
▲職業指導						1			1	
海洋学実習Ⅱ					1(集中)				1	
海洋環境実務実習					1(集中)				1	
乗船漁業実習Ⅱ*					3(集中)				3	
海洋学実習Ⅲ							1(集中)		1	
乗船漁業実習Ⅲ*							3(集中)		3	
●乗船漁業実習Ⅳ*								9(集中)	9	

●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。

▲印の科目は卒業に必要な単位に含まない。（水産教員養成課程を除く）

(5) 専門科目 [海洋生物資源学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎科目										<p>第3年次進級要件 第2年次終了時まで、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければ、3年次へ進むことができない。 1. 総合科目11単位以上 （「フレッシュマンセミナー」を含む） 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位（24単位） 3. 専門科目の基礎科目8単位以上</p> <p>○印の数字は、必修科目の単位数を表す。</p> <p>第4年次進級要件 第3年次終了時まで、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければ第4年次へ進むことができない。 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。</p> <p>卒業論文・セミナー履修要件 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。</p> <p>▲印の科目は卒業に必要な単位に含まない。（水産教員養成課程を除く）</p>
海洋植物学		2							2	
海洋動物学		2							2	
海洋生物資源学入門				2					2	
水族生理学			2						2	
分子生物学				2					2	
生物化学概論			2						2	
集団生物学				2					2	
動物生態学			2						2	
海洋生物学実習			1 (集中)						1	
必修科目										
セミナー							①(集中)		①	
卒業論文							⑧(集中)		⑧	
選択科目										
動物発生学			2						2	
動物遺伝学				2					2	
動物組織学			2						2	
動物組織学実験				1					1	
藻類生態学			2						2	
遺伝子工学				2					2	
微生物学概論			2						2	
陸水学				2					2	
漁法学			2						2	
魚群行動学				2					2	
鯨類資源論				2					2	
漁業科学実習			1 (集中)						1	
漁業科学演習						2			2	
漁業科学実験					2				2	
生産システム学						2			2	
漁具学					2				2	
漁業解析学					2				2	
生物資源統計学						2			2	
生物資源解析学					2				2	
生物資源解析学演習						1			1	
生物資源解析学実習					1 (集中)				1	
応用保全生物学					2				2	
集団生物学実習					1 (集中)				1	
保全増殖学						2			2	
保全増殖学演習						1			1	
動物生態学実習					1 (集中)				1	
水族生理学実験					1				1	
水族薬理学						2			2	
応用藻類学					2				2	
応用藻類学実習					1 (集中)				1	
応用微生物学					2				2	
応用微生物学実験					1				1	
水族養殖学					2				2	
水族育種学						2			2	
水族養殖・育種学実習 I					1 (集中)				1	
遺伝子工学実験					1 (集中)				1	
水族病理学					2				2	
水族栄養学					2				2	
水族栄養学実験					1 (集中)				1	
潜水調査実習					1 (集中)				1	
海洋生物資源実務実習					1 (集中)				1	
▲職業指導						1			1	
公衆衛生学					2				2	
食品衛生学					2				2	
食品加工学					2				2	
水族養殖・育種学実習 II						1 (集中)			1	
水族病理学実習						1 (集中)			1	

(6) 専門科目 [食品生産科学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎科目										<p>第3年次進級要件 第2年次終了時まで、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければならない。3年次へ進むことができない。</p> <p>1. 総合科目11単位以上 (「フレッシュマンセミナー」を含む) 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位) 3. 専門科目の基礎科目20単位以上(うち、必修科目8単位以上を含む)</p> <p>○印の数字は、必修科目の単位数を表す。</p> <p>第4年次進級要件 第3年次終了時まで、総合科目外国語系の単位8単位以上及び基礎教育科目の「TOEIC演習」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければならない。第4年次へ進むことができない。</p> <p>なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。</p> <p>卒業論文・セミナー履修要件 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。</p> <p>●印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。</p> <p>▲印の科目は卒業に必要な単位に含まない。(水産教員養成課程を除く)</p>
海洋植物学		2							2	
海洋動物学		2							2	
有機化学Ⅰ★		2							2	
生産物理学		②							②	
食品生産科学入門実験★		①							①	
化学演習		①							①	
基礎分子生物学				2					2	
生物化学Ⅰ★			2						2	
生物化学Ⅱ★				2					2	
物理化学			2						2	
有機化学Ⅱ★			2						2	
微生物学★			②						②	
化学実験			②						②	
微生物学実験★				①					①	
物理学実験				①					①	
必修科目										
食品化学★				②					②	
食品工学★			②						②	
食品生産学実習★					①(集中)				①	
セミナー							①(集中)		①	
卒業論文							⑧(集中)		⑧	
選択科目										
食品生産システム調査			1(集中)						1	
食品微生物学★				2					2	
衛生微生物学★					2				2	
海洋バイオテクノロジー						2			2	
機器分析概論					2				2	
技術開発と工業所有権						2			2	
公衆衛生学★					2				2	
資源利用化学★					2				2	
食品衛生学★					2				2	
食品加工学★					2				2	
食品機械装置工学					2				2	
食品殺菌工学★						2			2	
食品ゼロエミッション通論						2			2	
食品貯蔵学★						2			2	
食品分析学★					2				2	
食品包装論★						2			2	
食品保全化学★					2				2	
食品冷凍学★						2			2	
食品レオロジー					2				2	
食文化史				2(集中)					2	
食品化学基礎実験★					1				1	
食品化学実験★						2			2	
食品工学実験					2				2	
食品微生物学実験					1				1	
食品工学演習Ⅰ					1				1	
食品工学演習Ⅱ						1			1	
食と健康の科学						2			2	
食品科学実務実習					1(集中)				1	
●ヘルスフード科学海外研修						1(集中)			1	
▲職業指導						1			1	

(7) 専門科目 [海洋政策文化学科]

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
基礎科目										第3年次進級要件 第2年次終了時まで、下記の単位を含め、卒業に必要な単位を70単位以上修得しなければならない。3年次へ進むことができない。 1. 総合科目11単位以上 (「フレッシュマンセミナー」を含む) 2. 基礎教育科目の卒業に必要な単位(24単位) 3. 専門科目の基礎科目6単位以上(「海洋政策文化入門」を含む) ○印の数字は、必修科目の単位数を表す。 第4年次進級要件 第3年次終了時まで、総合科目外国語系の単位8単位以上、基礎教育科目の「TOEIC演習」及び専門科目の基礎科目「海洋政策文化研究法」の単位を含め、卒業に必要な単位を104単位以上修得しなければならない。第4年次へ進むことができない。 なお、授業科目の区分ごとに定められた卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位には算入しない。 卒業論文・セミナー履修要件 第4年次進級要件を満たさない学生は卒業論文及びセミナーの履修はできない。
海洋政策文化入門	②								②	
海洋政策文化研究法				②					②	
資源利用関係論				2					2	
水産経済学			2						2	
多文化環境論			2						2	
日本経済論		2							2	
必修科目										
海洋政策文化セミナーⅠ					①				①	
海洋政策文化セミナーⅡ						①			①	
セミナー							①(集中)		①	
卒業論文								⑧(集中)	⑧	
選択科目 I群										
食料経済論	2								2	
水産調査			1(集中)						1	
海事法規			2						2	
海洋環境政策論			2						2	
海洋産業論				2					2	
水産物流通論			2						2	
食品マーケティング論				2					2	
沿岸地域社会調査					1(集中)				1	
海洋法総論				2					2	
地域政策論				2					2	
海洋性レクリエーション論			2						2	
コミュニケーション論			2						2	
環境と教育				2					2	
国際関係論				2					2	
海と健康				2					2	
マリンスポーツ実習			1(集中)						1	
資源生物学実験				1(集中)					1	
鯨類資源論				2					2	
国際文化思想論			2						2	
海洋文化史			2						2	
海洋政策文化特別講義			1(集中)						1	
海洋政策実習					1(集中)				1	
漁村フィールドワーク実習						1(集中)			1	
健康・スポーツ科学演習						1			1	
海洋レジャー経済論						2			2	
水産技術経済論					2				2	
実践的基礎文学				2					2	
日本社会理解						2			2	
生命論					2				2	
水産国際関係論					2				2	
沿岸域利用論					2				2	
科学技術論					2				2	
水産経済史					2				2	
地域環境論					2				2	
漁業管理論						2			2	
資源経済論						2			2	
海洋利用制度論					2				2	
国際関係論特論					2				2	
海洋法特論						2			2	
スポーツ生理学					2				2	
水圏環境コミュニケーション学						2			2	
応用哲学					2				2	
生命論の諸問題						2			2	
科学技術論の諸問題						2			2	
応用哲学の諸問題						2			2	
環境文学					2				2	
メディア文化論					2				2	
海洋文学						2			2	
海洋文明論					2				2	
生物資源統計学						2			2	
生物資源解析学					2				2	
環境思想					2				2	
国際協力論					2(集中)				2	
水産政策論						2			2	
海洋政策文化インターンシップ					1(集中)				1	

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
選択科目 II群										
環境物理学				2					2	
物理学概論 I		2							2	
環境物理学実験			2						2	
有機化学 I		2							2	
生物化学 I			2						2	
生物化学 II				2					2	
基礎生物海洋学				2					2	
漁法学			2						2	
水族栄養学					2				2	
水族栄養学実験					1 (集中)				1	
物理化学			2						2	
化学実験			2						2	
鯨類・海産哺乳類学				2					2	
魚群行動学				2					2	
浮遊生物学					2				2	
生物化学概論			2						2	
微生物学概論			2						2	
陸水学				2					2	
会計学					2				2	
▲職業指導						1			1	

▲印の科目は、卒業に必要な単位に含まない。(水産教員養成課程を除く)

別表 4

(1) 教職に関する科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								計	備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次				
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期			
教職概論	②									②	○印内の数字は、水産教員養成課程の学生の必修科目の単位数を表す。 ※印の教科教育法の単位は、受けようとする免許教科ごとに修得すること。 水産教員養成課程以外の学生は、本表の科目を卒業に必要な単位に含まない。また、「理科教育法Ⅰ」及び「理科教育法Ⅱ」は、水産教員養成課程の学生の卒業に必要な単位に含まない。
教育原理		①								①	
教育思想史			②							②	
教育心理学			②							②	
生涯学習社会論			①							①	
特別活動								①		①	
※水産科教育法Ⅰ					②					②	
※水産科教育法Ⅱ						②				②	
※理科教育法Ⅰ					2					2	
※理科教育法Ⅱ						2				2	
教育工学				②						②	
生徒指導(進路指導)					②					②	
教育相談						②				②	
教職実践演習(高等学校)									②(集中)	②	
教育実習指導								①(集中)		①	
教育実習								②(集中)		②	

(2) 文部科学省令で定める科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								計	備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次				
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期			
※国際法と日本国憲法											※印の科目の単位を必ず修得しなければならない。 *印の科目のうち2単位以上を必ず修得すること。
※スポーツⅠ											
※スポーツⅡ											
Basic EnglishⅠ*											
Basic EnglishⅡ*											
Practical EnglishⅠ*											
Practical EnglishⅡ*											
Effective EnglishⅠ*											
Effective EnglishⅡ*											
Interactive EnglishⅠ*											
Interactive EnglishⅡ*											
Intensive EnglishⅠ*											
Intensive EnglishⅡ*											
Intensive EnglishⅢ*											
Intensive EnglishⅣ*											
基礎ドイツ語Ⅰ*											
基礎ドイツ語Ⅱ*											
応用ドイツ語Ⅰ*											
応用ドイツ語Ⅱ*											
基礎フランス語Ⅰ*											
基礎フランス語Ⅱ*											
応用フランス語Ⅰ*											
応用フランス語Ⅱ*											
基礎ロシア語Ⅰ*											
基礎ロシア語Ⅱ*											
応用ロシア語Ⅰ*											
応用ロシア語Ⅱ*											
基礎中国語Ⅰ*											
基礎中国語Ⅱ*											
応用中国語Ⅰ*											
応用中国語Ⅱ*											
基礎スペイン語Ⅰ*											
基礎スペイン語Ⅱ*											
応用スペイン語Ⅰ*											
応用スペイン語Ⅱ*											
※情報リテラシー											年次及び単位数は別表3(2) 基礎教育科目のとおり

(3) 教科に関する科目(水産)

職業指導を含め別表4(3)の科目を36単位以上修得すること。

学 科 毎 の 授 業 科 目			
海洋環境学科	海洋生物資源学科	食品生産科学科	海洋政策文化学科
職業指導	職業指導	職業指導	職業指導
水圏環境リテラシー学	水圏環境リテラシー学	水圏環境リテラシー学	水圏環境リテラシー学
海洋科学入門	海洋植物学	海洋植物学	海洋政策文化入門
海洋観測論	海洋動物学	海洋動物学	海洋政策文化研究法
基礎生物海洋学	海洋生物資源学入門	食品生産科学入門実験	水産経済学
臨海生物学実習	水族生理学	食品化学	海洋政策文化セミナーⅠ
基礎海洋学	動物生態学	食品生産学実習	海洋政策文化セミナーⅡ
資源情報解析学	海洋生物学実習	食品生産システム調査	食料経済論
基礎物理海洋学	動物発生学	食品微生物学	水産調査
機械システム工学	動物組織学	海洋バイオテクノロジー	海事法規
応用情報テクノロジーⅠ	動物組織学実験	公衆衛生学	海洋環境政策論
電気電子工学	遺伝子工学	資源利用化学	海洋産業論
海上安全工学Ⅰ	漁法学	食品衛生学	水産物流通論
環境テクノロジー実習	鯨類資源論	食品加工学	食品マーケティング論
海洋環境政策論	漁業科学実習	食品機械装置工学	沿岸地域社会調査
海事法規	漁業科学演習	食品殺菌工学	海洋法総論
海洋学実習Ⅰ	生産システム学	食品ゼロエミッション通論	海洋性レクリエーション論
乗船漁業実習Ⅰ	漁具学	食品貯蔵学	環境と教育
水産資源動態学	漁業解析学	食品分析学	マリンスポーツ実習
海洋資源生態学	生物資源統計学	食品保全化学	鯨類資源論
個体群生態学演習	生物資源解析学	食品冷凍学	海洋政策文化特別講義
基礎化学海洋学	生物資源解析学演習	食品レオロジー	海洋政策実習
海洋天然物化学	生物資源解析学実習	食品工学実験	漁村フィールドワーク実習
環境微生物化学	応用保全生物学	食品工学演習Ⅰ	水産技術経済論
海洋バイオテクノロジー	保全増殖学	食品工学演習Ⅱ	水産国際関係論
水圏環境化学実験	保全増殖学演習		沿岸域利用論
海洋物理学	動物生態学実習		水産経済史
海洋情報解析学	水族生理学実験		漁業管理論
環境測定学	水族薬理学		資源経済論
水産海洋物理学	応用藻類学		海洋利用制度論
大気科学	応用藻類学実習		海洋法特論
沿岸海洋学	応用微生物学		生物資源統計学
海洋環境機械学	応用微生物学実験		生物資源解析学
環境エネルギー工学	水族養殖学		水産政策論
海上安全工学Ⅱ	水族育種学		基礎生物海洋学
応用情報テクノロジーⅡ	水族養殖・育種学実習Ⅰ		漁法学
先端海洋テクノロジー	水族病理学		水族栄養学
海岸環境工学	水族栄養学		水族栄養学実験
海洋法特論	水族栄養学実験		
海洋学実習Ⅱ	潜水調査実習		
海洋環境実務実習	海洋生物資源実務実習		
乗船漁業実習Ⅱ	公衆衛生学		
海洋学実習Ⅲ	食品衛生学		
乗船漁業実習Ⅲ	食品加工学		
乗船漁業実習Ⅳ	水族養殖・育種学実習Ⅱ		
	水族病理学実習		

(4) 教科に関する科目 (理科)

物理学 2 単位、化学 2 単位、生物学 2 単位、地学 2 単位、実験 1 単位を含め別表 4 (4) の科目を 36 単位以上修得すること。

規定科目	学 科 毎 の 授 業 科 目			
	海洋環境学科	海洋生物資源学科	食品生産科学科	海洋政策文化学科
物理学	物理学 物理学概論 I 物理学概論 II 基礎流体力学 海洋流体力学 環境物理学 海洋計測学 I 海洋計測学 II	物理学	物理学 生産物理学 食品工学	物理学 環境物理学 物理学概論 I
化学	化学 化学概論 分析化学 有機化学 生化学 海洋循環化学 海洋機能材料学	化学 分析化学	化学 有機化学 I 生物化学 I 生物化学 II 物理化学 有機化学 II 機器分析概論 食品包装論 食と健康の科学	化学 有機化学 I 生物化学 I 生物化学 II 物理化学
生物学	生物学 魚類学 I 無脊椎動物学 I 藻類学 I 魚類学 II 無脊椎動物学 II 藻類学 II 鯨類・海産哺乳類学 浮遊生物学 個体群生態学	生物学 分子生物学 生物化学概論 集団生物学 藻類生態学 微生物学概論 魚群行動学 集団生物学実習 浮遊生物学 個体群生態学	生物学 基礎分子生物学 微生物学 衛生微生物学	生物学 資源利用関係論 生命論 生命論の諸問題 鯨類・海産哺乳類学 魚群行動学 浮遊生物学 生物化学概論 微生物学概論
地学	地学 陸水学	地学 陸水学	地学	地学 陸水学
上記科目 の実験	環境物理学実験 環境システム科学実験 環境テクノロジー実験 I 環境テクノロジー実験 II 分析化学実験 海洋生物学実験 I 海洋生物学実験 II 海洋生物学実験 III 地学実験	漁業科学実験 分析化学実験 遺伝子工学実験 地学実験	物理学実験 化学実験 食品化学基礎実験 食品化学実験 微生物学実験 食品微生物学実験 地学実験	環境物理学実験 化学実験 資源生物学実験 地学実験
その他				科学技術論 科学技術論の諸問題

別表5 学芸員に関する科目

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
博物館学Ⅰ				2					2	左の科目19単位の他に、海洋生物学入門、海洋植物学、海洋動物学、魚類学Ⅰ、無脊椎動物学Ⅰ、藻類学Ⅰの中から2科目4単位以上修得しなければならない。 本表の科目は、卒業に必要な単位に含まない。
博物館学Ⅱ					2(集中)				2	
博物館学Ⅲ						2			2	
博物館学Ⅳ					2(集中)				2	
博物館学Ⅴ						2			2	
博物館実習Ⅰ						2(集中)			2	
博物館実習Ⅱ							1(集中)		1	
博物館教育論			2						2	
生涯学習指導論			1						1	
生涯学習社会論			1						1	
教育工学				2					2	

別表6 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格に関する科目

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
有機化学Ⅰ	年次及び単位数は別表3(6) 専門科目[食品生産科学科]のとお									
有機化学Ⅱ										
生物化学Ⅰ										
生物化学Ⅱ										
食品化学										
食品分析学										
食品化学基礎実験										
食品化学実験										
微生物学										
微生物学実験										
食品微生物学										
食品貯蔵学										
公衆衛生学										
食品衛生学										
食品生産科学入門実験										
食品工学										
食品生産学実習										
衛生微生物学										
資源利用化学										
食品加工学										
食品殺菌工学										
食品包装論										
食品保全化学										
食品冷凍学										

別表7 船舶職員養成施設の修了資格に関する科目

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
海洋計測学Ⅰ	年次及び単位数は別表3(4) 専門科目[海洋環境学科]のとお									
応用情報テクノロジーⅠ										
海事法規										
電気電子工学										
乗船漁業実習Ⅰ										
海上安全工学Ⅰ										
水産海洋物理学										
乗船漁業実習Ⅱ										
乗船漁業実習Ⅲ										
乗船漁業実習Ⅳ										

別表8 海技免許講習の修了資格に関する科目

授業科目	年次及び単位数								備考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
乗船漁業実習Ⅰ	年次及び単位数は別表3(4) 専門科目[海洋環境学科]のとお								レーダー観測者講習に関する科目	
Basic EnglishⅠ	年次及び単位数は別表3(1) 総合科目のとお								上級航海英語講習に関する科目 2単位以上修得すること。	
Basic EnglishⅡ										
Effective EnglishⅠ										
Effective EnglishⅡ										
Interactive EnglishⅠ										
Interactive EnglishⅡ										

別表9 第一級海上特殊無線技士の資格に関する科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								計	備 考
	1年次		2年次		3年次		4年次			
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
海洋計測学 I 乗船漁業実習 I 乗船漁業実習 IV	年次及び単位数は別表3(4) 専門科目[海洋環境学科]のとおり									

別表10 船舶衛生管理者の資格に関する科目

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								計	備 考
	1年次		2年次		3年次		4年次			
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
こころと身体 スポーツ I スポーツ II	年次及び単位数は別表3(1) 総合科目のとおり									
海と健康	年次及び単位数は別表3(7) 専門科目[海洋政策文化学科]のとおり									
乗船漁業実習 I 乗船漁業実習 II 乗船漁業実習 III 乗船漁業実習 IV	年次及び単位数は別表3(4) 専門科目[海洋環境学科]のとおり									

別表11 食品流通の安全管理システム専門技術者養成コースに関する科目

(1) 全学科共通

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								計	備 考
	1年次		2年次		3年次		4年次			
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
食品流通安全管理論 I 食品流通安全管理論 II 食品流通安全管理論 III						2(集中)			2 2 2	本表の科目は、卒業に必要な単位に 含まない。 左記の科目の単位を全て修得すること。

(2) 各学科指定科目

各学科とも、20単位以上を修得すること。

各 学 科 指 定 科 目			
海洋環境学科	海洋生物資源学科	食品生産科学科	海洋政策文化学科
魚類学 I 海洋科学入門 機械システム工学 海洋機能材料学 無脊椎動物学 I 海洋観測論 海上安全工学 I 海洋バイオテクノロジー 藻類学 I 生化学 海洋環境政策論 環境測定学 基礎流体力学 基礎海洋学 海上安全工学 II	水族生理学 保全増殖学 水族病理学 食品加工学 遺伝子工学 水族薬理学 水族栄養学 生産システム学 応用微生物学 公衆衛生学 集団生物学 水族養殖学 食品衛生学	有機化学 I 微生物学 食品化学 食品生産学実習 食品殺菌工学 食品保全化学 食品生産科学入門実験 化学実験 食品工学 公衆衛生学 食品貯蔵学 食品冷凍学 食品微生物学 微生物学実験 衛生微生物学 食品衛生学 食品分析学 食品微生物学実験 生物化学 I 物理学実験 海洋バイオテクノロジー 食品加工学 食品包装論	食料経済論 水産物流通論 化学実験 漁業管理論 会計学 有機化学 I 食品マーケティング論 水産技術経済論 資源経済論 水産経済学 生物化学 I 水産国際関係論 生命論の諸問題 海洋環境政策論 海と健康 科学技術論 水族栄養学

別表 1 2 水圏環境教育推進リーダー認定コースに関する科目
(1) 全学科共通

授 業 科 目	年 次 及 び 単 位 数								備 考	
	1年次		2年次		3年次		4年次			計
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
水圏環境リテラシー学		①							①	左記の科目の単位を全て修得すること。
水圏環境コミュニケーション学					2 (集中)			2		
水圏環境リテラシー学実習			1 (集中)					1		
水圏環境コミュニケーション学実習					1 (集中)			1		

(2) 各学科指定科目

各学科とも、14単位以上修得すること。

各 学 科 指 定 科 目					
海洋環境学科		海洋生物資源学科		食品生産科学科	海洋政策文化学科
魚類学 I 無脊椎動物学 I 藻類学 I 分析化学 有機化学 基礎流体力学 海洋観測論 基礎生物海洋学 陸水学 鯨類・海産哺乳類学 生化学 基礎海洋学 資源情報解析学 浮遊生物学 基礎化学海洋学 環境微生物化学 海洋バイオテクノロジー 海洋物理学 海洋情報解析学 環境測定学 水産海洋物理学 環境エネルギー工学	10単位以上修得すること。	海洋植物学 海洋動物学 藻類生態学 微生物学概論 陸水学 応用微生物学	10単位以上修得すること。	海洋植物学 海洋動物学 食品微生物学 衛生微生物学 機器分析概論 技術開発と工業所有権 公衆衛生学 資源利用化学 食品衛生学 食品加工学 食品機械装置工学 食品殺菌工学 食品ゼロエミッション通論 食品貯蔵学 食品分析学 食品包装論 食品保全化学 食品冷凍学 食品レオロジー学 食文化史 食と健康の科学	海洋環境政策論 海洋法総論 国際関係論特論 海洋性レクリエーション論 コミュニケーション論 環境と教育 海洋文化史 沿岸地域社会調査 沿岸域利用論 地域環境論 海洋文学 環境文学
海洋生物学実験 I 分析化学実験 水圏環境化学実験 環境システム科学実験 臨海生物学実習 海洋学実習 I	4単位以上修得すること。	動物生態学実習 潜水調査実習 応用微生物学実験 応用藻類学実習 集団生物学実習 保全増殖学演習 水族養殖・育種学実習 II	4単位以上修得すること。		

平成28年度

履修ガイド

東京海洋大学 学務部 教務課

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7